

## Ⅱ 学校支援地域本部の実践事例

◇H23学校支援地域本部一覧	・ ・ P	30
◇彦根市	・ ・ ・ ・ ・ P	31
◇近江八幡市	・ ・ ・ ・ ・ P	57
◇栗東市	・ ・ ・ ・ ・ P	78
◇湖南市	・ ・ ・ ・ ・ P	80
◇東近江市	・ ・ ・ ・ ・ P	95
◇米原市	・ ・ ・ ・ ・ P	98
◇竜王町	・ ・ ・ ・ ・ P	100
◇愛荘町	・ ・ ・ ・ ・ P	102
◇甲良町	・ ・ ・ ・ ・ P	105
◇多賀町	・ ・ ・ ・ ・ P	106

平成23年度 滋賀県学校支援地域本部一覧

No	市町名	本部名	学校名	ページ数
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	城東小学校	31
			佐和山小学校	32
			旭森小学校	33
			東中学校	34
		西中学校区支援地域本部	城西小学校	35
			城北小学校	36
			西中学校	37
		中央中学校区支援地域本部	平田小学校	38
			金城小学校	39
			中央中学校	40
		南中学校区支援地域本部	城南小学校	41
			城陽小学校	42
			若葉小学校	43
			亀山小学校	44
		彦根中学校区支援地域本部	南中学校	45
			河瀬小学校	46
高宮小学校	47			
鳥居本中学校区支援地域本部	彦根中学校	48		
	鳥居本小学校	49		
稲枝中学校区支援地域本部	鳥居本中学校	50		
	稲枝東小学校	53		
	稲枝西小学校	54		
	稲枝北小学校	55		
		稲枝中学校	56	
2	近江八幡市	近江八幡市学校支援地域本部	—	57
		島小学校支援地域本部	島小学校	60
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校	62
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校	64
		北里小学校支援地域本部	北里小学校	66
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校	68
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校	70
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校	72
		安土小学校支援地域本部	安土小学校	74
安土中学校支援地域本部	安土中学校	76		
3	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	78
4	湖南市	岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	80
		菩提寺北小学校支援地域本部	菩提寺北小学校	81
		菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校	84
		水戸小学校支援地域本部	水戸小学校	85
		石部南小学校支援地域本部	石部南小学校	86
		石部小学校支援地域本部	石部小学校	88
		下田小学校支援地域本部	下田小学校	90
		三雲東小学校支援地域本部	三雲東小学校	91
三雲小学校支援地域本部	三雲小学校	93		
5	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	朝桜中学校区各小中学校	95
		湖東第二小学校区学校支援地域本部	湖東第二小学校	96
6	米原市	米原市学校支援地域本部	市内各小学校	98
7	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王町内各幼稚園・小中学校	100
8	愛荘町	愛荘町学校支援地域本部	愛荘町内各小中学校	102
9	甲良町	甲良町学校支援地域本部	甲良町内各小中学校	105
10	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀町内各小中学校	106

【東中学校区支援地域本部：城東小学校】

1 【事業の趣旨】

- ・地域の学校図書館支援ボランティアによる図書室の環境整備や読み聞かせをとおして、子どもたちの読書活動への興味・関心を高め、進んで読書しようとする意欲や態度を育てる。
- ・地域ぐるみで児童の登下校時の見守り活動をすることにより、子どもたちを事故から守るとともに犯罪の抑止力とする。



2 【事業の概要・特色】

○読み聞かせボランティアの活動

現在、読み聞かせボランティアには22名の方が登録されている。各学期ごとに図書館教育主任と相談の上、読み聞かせの計画を立て、活動に取り組んでいただいている。

具体的には、毎週火曜日の午前8時20分からの10分間を「お話ブーケ」の時間とし、ボランティアそれぞれが、子どもたちに読ませたい本を選んで持参し、各学級で読み聞かせを行ってくださる。

年々、子どもたちと読み聞かせボランティアとのかかわりが深まり、「お話ブーケ」の日を心待ちにしている児童が多い。



○図書環境ボランティアの活動

図書室の本の整理や図書室の廊下側掲示板の飾りなどを11名の図書環境ボランティアの方にかかわっていただいている。

季節感のある美しい飾りとともに読んでもほしい本の紹介をするなど、子どもたちを読書の世界に誘う工夫が随所に見られる。

こうした活動により、子どもたちの読書への興味・関心が高まっている。

○スクールガードの活動

地域の方々にスクールガードに登録していただき、登下校時の安全確保でお世話になっている。児童の下校時刻に合わせて交差点で安全指導をしたり、自宅の近辺で「お帰り」と声をかけながら下校の様子を見守ったりと、積極的に協力していただいている。朝も毎日交差点に立って横断指導をしてくださっている方もいる。



3 【事業の成果】

- ・読み聞かせボランティアのお話にじっと聞き入る子どもたちの姿がどの学級でも見られる。
- ・図書環境ボランティアの工夫により読書活動への興味・関心が高まり、読書の好きな子どもが増えてきている。
- ・日々のスクールガードの見守り活動により安心・安全な登下校ができています。

4 【今後の課題】

- ・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

【東中学校区支援地域本部：佐和山小学校】

### 1 【事業の趣旨】

地域の熟年者と本校児童が気軽にふれあい、世代を越えた温かなつながりを育む場を校内に設ける。その場を「ふれあいルーム」と名付け、空き教室を活用し、熟年の方々に気軽に学校へ立ち寄っていただき、互いにゆったりと語り、くつろいでいただく教室として開放する。その教室に休み時間を利用し、児童が遊びに出向き、地域の「おじいちゃん・おばあちゃん」と手遊びやおしゃべりで楽しい時間を過ごすことを目的とする。

本事業の展開が地域に開かれた学校、我が地域の学校として信頼される要因のひとつとなり、熟年者の喜びにも繋がっていくことを願う。

### 2 【事業の概要、特色】

#### (1) 熟年者との交流を願い

学校長が3年前からの構想として、前述の事業実施をめざし、老人クラブ連合会（以下「老ク連」と表記）の方と構想を温められてきた。

本年度に入り、老ク連会長から実際に各単位老人クラブに、事業の趣旨とまずは子ども達のために、交流会に参加して欲しい旨を呼びかけた。その結果、毎週木曜日の昼に「ふれあいルーム」を訪問する日として老ク連内で当番表を作成され、各町老人クラブごとの訪問日が決定された。

#### (2) ふれあいルームの開室準備

学校長の指示の元、空き教室を活用して開室準備を始めた。近隣の中学校の改築に伴い、備品を譲り受けることができた。教室の一角に畳敷きを準備し、座して遊べる場（写真①）を設けたり、長机・パイプ椅子を置き、折り紙、トランプなど、テーブル遊びをできる場（写真②）を設けたりした。さらに、ソファを2セット準備し、ゆったり腰掛けてお話しできる場（写真③）も設けた。



写真①『将棋盤を囲んで』～畳敷で～

### 3 【事業の成果】

毎週木曜日の昼には、早くから熟年の方が「ふれあいルーム」に集まり、子どもたちの昼休み時間を待っていてくださる。『あやとり・折り紙将棋・お手玉』など昔の遊びを一緒に楽しんでくださる。開室日には熟年者7～8人が来校くださり、主に低学年30～40人の子どもたちとふれあいの時間を過ごしていただく。子どもたちは昔ながらの遊びを新鮮に感じ、あやとりや折り紙がうまくできた時の喜びを味わい、その顔を見て笑顔になるおばあちゃんと温かな時間を過ごしている。熟年者の方からは「元気がもらえる」と感想をいただいている。

写真②↓『一緒に折り紙を』～長机で～



写真③↓『あやとり、見て』～ソファで～



### 4 【今後の課題】

今後に向けて、下記2点の取組が必要である。

- ・「ふれあいルーム」地域開放の促進。
- ・熟年者と児童との交流を深め、広げる工夫。

### 1 【事業の趣旨】

- 楽器を愛好する社会人や学生の方々の協力により、子どもたちのマーチング活動に対する興味・関心を高め、活性化を図る。
- 初めて金管楽器に出会う5年生が、基本的な楽器の扱い方と手入れの仕方を学ぶ機会とする。

### 2 【事業の概要・特色】

- ・マーチング活動は、6年生全員（金管パート・打楽器パート・演技パート・指揮パートのいずれかに所属）による活動で、木曜日の6時間目（特設の時間）に練習を行う。
- ・年間約20時間程度の旭森独自の活動で、全職員で指導にあたる。
- ・11月に「引き継ぎ式」を行い、6年生から5年生が活動を受け継ぐ。
- ・卒業式、運動会、学区の防犯パレード、彦根「城祭りパレード」、引き継ぎ式を発表の機会とする。

#### ヤマハの講師による指導

年度当初、金管楽器では、息の入れ方を、打楽器については、スティックの持ち方や太鼓の演奏の仕方について指導していただいた。

#### 保護者による支援

運動会に向けて、保護者が自主練習に励む子どもたちのために来校して下さった。

#### 学生ボランティアによる支援

今年度は、新しい曲を取り入れたため、軽やかに歯切れよくリズムが刻めるように、生演奏を聴かせていただいたり、音程が正しくとれるように模範演奏をしていただいたりした。



特に金管パートの5年生にとっては、初めて演奏する楽器であるため、期待と不安で一杯である。そこで、学生ボランティアのみなさんに、楽器の手入れの仕方やマウスピースの練習方法等のお手本を示していただいた。



### 3 【事業の成果】

- ・楽器の経験が豊富な学生ボランティアさんの模範演奏が聴けるので、曲のイメージをつかんで練習することができた。
- ・楽器を演奏できたという経験が、中学校の部活動への期待感につながっている。

### 4 【今後の課題】

- ・学校が必要としている時に、支援を受けることができるように、支援地域本部と連携していく。

## 1 【事業の趣旨】

- ・個に応じた学習指導援助を行い、教科の基礎・基本の定着をはかる。
- ・3年生を対象とした学習相談で、学習上のつまづきの解消や学習意欲の向上を図り、希望する進路の実現に向けて努力する力を養う。
- ・校内の不登校傾向の生徒に放課後登校して学習する場を与えることで、登校意欲を持たせる。
- ・学校支援ボランティアの方々が持つ経験や専門性を生かして、生徒の学習活動を支援する。

## 2 【事業の概要、特色】

### <いきいき学習相談>

#### ①実施時期

2011年12月～2012年3月の毎週月・木の週2日、放課後50分程度を原則とする。

#### ②対象生徒

希望する3年生。(男子9名・女子13名)

#### ③スタッフ

- ・学生チューター5名(県立大2名、滋賀大1名、京都女子大1名、河瀬高3年1名)
- ・地域の学校支援ボランティア9名

#### ④内容

- ・少人数による学習とし、チューター1人につき生徒2、3名を指導する。
- ・数学と英語の基本レベルのテキストを使って、学習を進める。

### <放課後登校>

#### ①実施時期

毎週水曜日(部活なし)の放課後50分程度を原則とする。

#### ②対象生徒

希望する不登校の生徒。

#### ③スタッフ

- ・地域の学校支援ボランティア1名
- ・教員1名

#### ④内容

個々の生徒の実態に応じて学習を進めたり、相談活動を行う。

## 【東中学校区支援地域本部：東中学校】

### 3 【事業の成果】

- ・受験を目前に控えた3年生は、目的意識も高く、学習に真剣に取り組んでいる。
- ・学習だけでなく、学生チューターや地域の方たちの中学生時代の話の聞いたり、生徒の話の聞いてもらったりできる貴重な時間となっている。
- ・教員を目指す学生が、チューターとして経験を積む機会になっている。
- ・放課後登校をきっかけに、昨年度全欠であった生徒が、別室に登校できるようになった。



### 4 【今後の課題】

- ・スタート当初から学習相談を1、2年にも広げたいと考えているが、ボランティアの数が確保できない。学生への募集方法や中学生に教えられる地域の人材確保が一番の課題である。
- ・学習相談はもっと早い時期から始めることが効果的であるが、部活動との兼ね合いから、どうしても秋以降になってしまう。今年度、長期休業中の補充学習にボランティアの方が一人参加してくださったが、この活動が継続したものになるように、また、学習相談へとつなげる方策を考えていきたい。

**1 【事業の趣旨】**

祖父母等との3世代同居家庭が比較的に少ない学区であったが、数年前に大規模な新興住宅地ができ、その傾向が強まった。本校では、以前より子どもたちにお年寄りのみなさんへの思いやりの心と感謝の気持ちを持たせることをねらいとしてお年寄りの方々とふれあい交流活動を進めている。交流学年は、下学年が主で、子ども達とふれあいながら学習活動への支援をしてくださる。色々なことを教えたり、手作りの人形をプレゼントしてくださるという形の支援である。

人  
大形  
喜の  
びプ  
のレ  
園ゼ  
見ント



**2 【事業の概要、特色】**

城西学区社会福祉協議会の会員さんが主なメンバーで「子どもたちと楽しもう会」を組織し、それぞれの学年担当と連携して年間通した各学年の活動を支援していただいている。特に、「生活科」や「総合的な学習の時間」における季節に応じた活動時に交流活動を設定し、そこでの支援やふれあいを通して子どもたちと会員のみなさんとの親交が深まる。七夕の時期には、1、2年生と会員のみなさんとで七夕集会を開いた。子どもたちが驚く程の大きな笹を何本も用意してくださり体育館で大きな笹にお年寄りの方と一緒に製作した笹飾りを願いを込めながら付けることができた。

教  
笹室  
飾で  
り製  
を作  
つし  
けた  
る



**【西中学校区支援地域本部：城西小学校】**

就学予定園児を招いての秋祭りでも支援いただいている。子ども達は、歌やピアノ演奏の発表をした。

児  
会  
童  
員  
の  
演  
奏  
を  
聴  
く



3年では、昔の生活の学習で支援をいただいている。七輪を使ってのお餅焼きでお世話になっている。

寒  
い  
中  
餅  
七  
輪  
き  
の



**3 【事業の成果】**

核家族の家庭の子どもたちが多い学年にとっては、こうしたお年寄りの方との交流は大変よかったと言える。お年寄りの方も子どもたちとのふれあいをとて楽しみに待ち望んでいて下さる。子どもたちも1年から3年まで交流が続くので本当のおじいちゃん、おばあちゃんのようにかかわっている姿が多く見られる。

**4 【今後の課題】**

御自身の孫が卒業しても支援を続けてくださる方も多くおられるが、高齢の方も多いため、参加段階で天候等が大きく左右することも多い。

会の年間の計画に位置づけていただく面からも年度当初に期日を決定することが望ましいが、学校行事等も多い中で全てを決定することは困難で急な変更で会に迷惑をかけてしまうことも多い。

### 1 【事業の趣旨】

本校では、早くから学校支援地域本部事業が立ち上げられ、地域の自然や生き物、環境、農業、歴史、産業、福祉などさまざまな分野で活躍されている70名以上の方々に校区学習人材バンクとして登録していただいている。また、読み聞かせ活動や登下校の子どもの安全を見守ってくださるスクールガードにも多数の方々に活動していただいている。毎年実施している「ふるさと探訪オリエンテーリング」でも、地域の方々に地域の歴史的な旧跡や文化財について説明をしていただいたり、グループごとに引率して安全を見守っていただいたりしている。そうした中で、子どもたちと地域の方々との温かい交流が深められ、地域のよさを学んだり、深めたりすることができている。

### 2 【事業の概要、特色】

#### ◇活動名

「ふるさと探訪オリエンテーリング」

#### ◇ねらい

- ・地域の自然環境や文化財を積極的に学習活動に取り入れることにより、自然や文化を愛し、地域から学ぼうとする心情や郷土への愛着心を育む。
- ・地域の自然や歴史を観察したり、地域の美化活動に参加したりして地域に触れ、地域を身近に感じながら、地域の環境に関心をもつとともに、自然を大切にする心情や奉仕の精神を培う。
- ・たてわり班で行動することにより高学年のリーダー性、班や色集団での協力や信頼の気持ちを育てる。

#### ◇活動内容

- \*全校児童を16（4色×4班）の縦割り班に分け、班ごとに学区の自然や文化的な箇所をめぐる。
- \*「佐和山コース」「彦根城コース」「琵琶湖浜コース」の3コースを設定し、1年ごとにコースを変え、3年で全コースを巡るようにする。
- \*＜今年度のコース＞  
学校→ビニールハウス→水主水軍跡→松原橋（旧回転橋）→彦根港→お浜御殿→松原浜→学校

### 【西中学校区支援地域本部：城北小学校】

### 3 【事業の成果】



今年度は、事前に6年生の児童が「総合的な学習の時間」を使って、コース内の旧跡や文化財を見学したり地域の方に話を聞いたりして調べたことを、ポイント地点で縦割り班の児童に説明するという方法で実施した。班ごとに歩いてたどり着いたポイントで、6年生の児童がペープサートを使って低学年にも分かるように歴史や地域のよさについて説明した。

今回、地域の方々には、見守り隊として各班やコースの危険箇所にも1～2人ずつ就いてくださり、安全に巡ることができた。6年生の児童の説明を温かい眼差しでうなづいてくださったり、説明を付け加えてくださったりして、6年生の児童も安心して説明することができた。

### 4 【今後の課題】

この活動以外にも、「朝の読み聞かせ」や「ミシン操作教室」「音楽指導」「松原干拓の学習」「東山の竹林を使った竹細工学習」などにも地域の方々にお世話になっている。

時には、何とか都合を付けていただいても必要な人数に依頼できたとしても、天候の都合で延期になると人が集まらないという場合もある。しかし、学習のねらいを達成し、学習効果を上げるためには、子どもにどんな力を付けたいのか、そのために何をお願いしたいのかをはっきりさせて、どんなに忙しくて時間が取れなくても地域の方々の十分な打合せをすることを大切にして取り組んでいきたい。

## 1 【事業の趣旨】

西中学校の敷地は城跡の内堀でもあり広大で、グラウンドや前庭の草刈や剪定は容易ではない。夏になるとグラウンドも生徒や職員・PTAなどが何回となく作業するのだが追いつかない。前庭も昔からの樹木が歴史を感じさせる程で、毎年手を入れなければならない。

そこで今年から地域コーディネーターが地域の方々に呼びかけ、延べ28名の方々に支援していただき、除草と剪定を2回実施することができた。

## 2 【事業の概要・特色】

西中学校の校地の環境整備は、かねてからの課題であり、管理職や教職員が空いた時間を除草に費やすことも多く、過重負担になっている状況であった。

この度、学校支援事業の趣旨を生かし、地域のボランティアに支援を呼びかけたり、自治会組織にもお願いし、地域の学校としての取り組みになるよう働きかけ、いい方向で進めることができた。



## 3 【事業の成果】

個々にコーディネーターがお願いするのもいいのだが、各種団体への依頼にも今回成功することができた。

今回のグラウンドの除草は、生徒・教職員・PTA、そして地域ボランティアの支援という4者での実施であった。

夏の暑い日の作業であったため、高齢者であれば2時間前後が適当であることも確認できた。

## 4 【今後の課題】

地域の支援いただいた方々の意気込みを生徒やPTA・職員にも知っていただくとともに、地域と学校相互の思いを認め合う機会になればと思う。

支援いただいた方々の中には、かつてPTAだった方々が大多数で、20年ぶりに中学校に来た方もあり、懐かしさも手伝って、「これくらいのことであれば」と、積極的な支援を表明してくださったことが、今後に繋がればと思った。

## 【中央中学校区支援地域本部：平田小学校】

## 1 【事業の趣旨】

## (1) ねらい

- ・異学年色別縦割り班(以後：なかよし班)で活動することで、お互いを思いやり、共に協力して集団生活を行おうとする態度を育てる。
- ・平田学区の文化財や自然などに触れて、平田学区を再発見し、ふるさとを大切にしようとする心を養う。
- ・地域の人とのふれあいを通して、挨拶をしたり、安全に気をつけて行動したりすることで地域の一員であることの自覚がもてるようにする。

## 2 【事業の概要、特色】

## (1) 日程

平成23年11月18日(金)

9:15 はじめの会(体育館)

9:30 平田町のお話を聞こう

10:10 出発

AコースとBコースに分かれて出発する。

平田山班別に5年生が考えたなかよし遊び活動を行った。また、近江平公園において桜並木について説明していただいた。

12:10 学校到着、おわりの会

12:30 反省会

参加いただいたボランティアのみなさんから、今回のふれあい遠足について御意見を伺った。



## (2) コース

Aコース 学校→平田山→桜並木→学校

Bコース 学校→桜並木→平田山→学校

## (3) ボランティアの役割

学校支援ボランティアは各班に1名ずつ付き、児童の安全のための見守りを行う。

また、平田町や平田川沿いの桜並木について児童に説明する。

## 3 【事業の成果】

なかよし班は各班13～14名で、各色6つの班で構成されている。1名の教員が2つの班27～28名を引率して平田学区を歩くことになるため、安全面での課題が大きかった。しかし、今回21名の学校支援ボランティアの協力を得たことにより、安全に校区内を歩くことができた。

さらに、平田町の歴史や文化財、平田川沿いの桜並木についての話を聞いたり、地域を実際に歩いたりすることで、ふるさとや地域についての知識を深め愛情をもって見直す機会となった。また、ボランティアの方と児童と一緒に歩くことで、互いに親しい関係を築くきっかけにもなったようだ。



## 4 【今後の課題】

コーディネーターが活動支援のための人員確保をしてくださることが多いが、天候に左右される活動は、急に変更しなければならないので、日程変更のための効率のよい連絡網等の整備をしなければならない。

また、ボランティアの方の活動に対する思いは深く、今回も初めての活動ながら熱心に関わっていただいた。今後も活動を続けるに当たって、話し合いを深めていきたい。

【中央中学校区支援地域本部：金城小学校】

1【事業の趣旨】

子どもと地域住民、学校と家庭・地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの確かな学力や学びの質の向上を図るとともに、安全で安心な学校づくりをめざそうとするものである。

2【事業の概要、特色】

(1) 登下校時の安全パトロール



金城見廻り隊の方々が毎日要所に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守ってくださる。あわせて「おはよう。」「お帰り。」の声をかけてくださっている。

その日頃の見守りに対して、子ども達は感謝の気持ちを込めたメッセージカードを贈っている。



また、PTAも単位PTA大会時にボランティアを招待し感謝の意を表している。

(2) 絵本の読み聞かせ

朝の読書活動時を活用し、年間を通して水・木・金曜日に各クラスを回り、絵本の読み聞かせを行っていただいている。子どもたちはその日を楽しみにし、じっとお話を聞き入っている。



また、毎年、秋の全校集会では、読書の秋にちなんで、絵本を題材にした影絵を全校児童に見せてもらっている。

さらに、必要に応じて、図書室の本の整備にも手を貸していただいている。

(3) ゲストティーチャー

3年生「昔のあそび」（総合的な学習の時間）にゲストティーチャーとして地域の方々に昔の遊びを教えに来ていただいている。「輪ゴム鉄砲」「あやとり」「お手玉」



などを紹介していただき、子どもたちと一緒に遊んでいただいている。

子どもたちは、「〇〇名人」として憧れの気持ちを抱きながら、楽しく学習を進め、地域の方々との「豊かなつながり」づくりにも役

立っている。

(4) 学校花壇の世話（苗植え、水やり等）



F B C花壇や一人一鉢栽培活動にかかわって苗植えや水やりを本年度よりお願いすることにした。今後も、子どもたちとともに

に栽培活動を進めていってもらいたいと考えている。

3【事業の成果】

(1)～(3)については、数年来継続して実施してきている。(1)に関しては、登下校時の子どもたちの安全が確保され、子どもたちだけでなく保護者からの安心感も得られている。また、感謝カードなどの取組により、ボランティアとのつながりも深まってきている。(2)(3)に関しても、継続された取組により、教育活動の中に定着し学習上の効果を生み出している。

4【今後の課題】

ボランティアに学校側のニーズや願いを明確に提示しながら、学校がめざす姿を共有化したいと考える。そのためには、ボランティアとのコミュニケーションを充分に図る場と時間を生み出す必要がある。

また、さまざまな教育活動に対応できる人材を豊富に確保し、ボランティア活動を教育活動の中に位置づけ、定着化と活性化を図ることが重要だと考える。

さらに、本事業に対する教職員の理解を深めて協力を得ながら、教師とボランティアとの「豊かなつながり」（信頼関係）をつくっていくこともめざしていきたい。

1 【事業の趣旨】

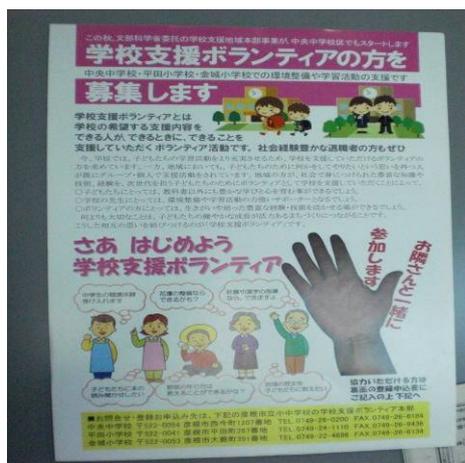
地域住民による学校への支援体制を構築することによって、生徒が様々なことを体験し多様な生き方を学ぶことができる体制づくりを確立する。

本校では、今年度から学校支援地域本部を設置し、学区内の2小学校と連携しながら学校と地域が一体となった学校づくりを目指している。地域コーディネーターを中心に学校の教職員と地域ボランティアが現在の子ども課題解決と身につけさせたい力を育成できるような活動の展開を図っている。

2 【事業の概要、特色】

◇ 広報活動による人材の発掘

今年度から始まる事業でもあるため、9月中旬に中央中学校区全戸に学校支援地域本部事業の設置を広く知らせるため、チラシを配布し広報活動および学校ボランティアの募集活動を行った。



◇ 環境整備

① 校地内（花壇）の整備

重機を必要とする花壇の整備を行い、今まで雑然としていた部分が一新された。



② 樹木の伐採

中庭を中心とした樹木の伐採など、これまで手の付けられなかった場所を重機を使うことできれいに整備することができた。



3 【事業の成果】

初めての取組で、成果といえるところまでは言えないが、今年度においては花壇の整備や中庭の樹木の伐採等、環境整備を通して間接的に学校生活をサポートする支援を行った。

このような中で、まだまだ潜在的に多くの支援者がおられるので、気軽に学校へ来ていただき、御自身の経験や専門性を生かしながら次年度は、子どもたちと一緒に活動することで成果を上げていきたい。

また、学校・家庭・地域の交流を深めることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てや地域の活性化につながるよう努めていきたい。

4 【今後の課題】

- ・ 地域の方の人材登録バンクづくりの推進を図る。
- ・ 本事業を実施するまでは、「学校は、敷居が高い」という思いを持った方がおられたが、広報活動やPRなどを積極的に進めていくことで地域と学校のつながりを深めていきたい。
- ・ 学校支援ボランティアに対して教職員に意識の差があるので研修会等を実施していきたい。
- ・ 地域やボランティアの方からのアイデアを取り入れ、学校を支援する輪を広げていきたい。

### 1 【事業の趣旨】

本校は、970人の大規模校で新興地域が増えてきているが、昔からの地域も多く、以前から農業体験を始め様々な面で地域から協力をいただいている。今年度から南中学校区で学校支援地域本部を立ち上げたことで、今までの取組を継承しながらも、さらに地域との連携を充実・発展していけるように事業を進めている。

### 2 【事業の概要、活動の実際】

#### ○事業の概要

##### ①読書ボランティア

- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の環境作り



##### ②スクールガード

- ・登下校時の通学路の見回り
- ・下校後の公園等の見回り

##### ③「生活科」・「総合的な学習の時間」の学習支援

- 1年生活科 「昔からの遊び」
- 2年生活科 「野菜を育てよう」
- 3年総合 「私たちの町の行事調べ」
- 4年総合 「人にやさしい町・環境」
- 5年総合 「お米博士になろう」
- 6年総合 「城南学区の歴史を探ろう」

### 【南中学校区支援地域本部：城南小学校】

### 3 【事業の成果】

- ・読書ボランティアの活動では、季節や学年にあった本を選定してくださるので、子ども達は読み聞かせを楽しみにしている。図書室の整備もしてくださるので利用しやすい環境になっている。
- ・スクールガード活動では、毎日見守り活動をしていただいているので、安全に地域で過ごすことができている。
- ・生活科や総合的な学習の時間における学習支援では、本物にふれる良い機会となっている。

～5年生児童の振り返りから～  
 (総合・お米博士になろう 稲刈り体験)  
 稲刈りをして楽しかったことは、かまで稲を刈ったことです。稲を刈る感触が気持ちよかったからです。人の手で稲刈りをするのは大変でした。落ち穂拾いをして、お米一粒一粒の大切さもわかりました。



### 4 【今後の課題】

今は、学校が地域から支援を受けていることが多いが、今後は学校から地域に進んで働きかけていく活動を積極的に取り入れたい。そのことで、学校と地域がともに活性化する相乗効果を生み出すと考えるのでさらによりよい関係作りを進めたい。

## 1 【事業の趣旨、目的】

地域のよさや地域の歴史、文化に精通されている方や専門的な技術をもった方から、子どもたちに御指導いただき、地域のよさや技術を子どもたちに伝えるとともに、地域の方々とのふれあいを深める機会としたい。

地域の方々が学校に来てくださって指導いただくことで、少しでも開かれた学校づくりにつなげ、地域の方と子どもたちのつながりを深める場としたい。

## 2 【事業の概要、特色】

〔ゲストティチャー型〕

◇地域の歴史や文化についての講話



〇〇町の歴史、神社や寺院の歴史、カナダやアメリカへの移民の歴史等、地域のよさや歴史について、写真や書物等の資料を使って子どもたちに説明いただいた。

◇キャリア教育

保育士・介護士・調理師・美容師・看護師

師・カメラマン・アスリートなどの仕事をされている方から、それぞれの職業のよさや苦勞等について講話いただき、6年生の子どもたちが準備していた質問に対して質疑応答の場を設定してきた。

◇クラブ活動

和室クラブでは、茶道を指導する資格をもったお二人から、実際に抹茶をたてる作法等を御指導いただいた。



◇昔遊びの名人

こま回し・お手玉・カロムなどの遊びの名人から遊び方を習い、一緒に遊んで交流を深めた。

◇ひょうたん名人

ひょうたん名人から苗植えから育て方、収穫後の絵付けまでを直接御指導いただいた。

## 【南中学校区支援地域本部：城陽小学校】

〔環境サポーター型〕

◇図書ボランティア

毎日中休みに、図書室の本の貸し出し手続きを作業していただいたり、新刊図書が入ったときの本の登録作業や本棚の本の整理、本の修理などもしていただいた。



七夕・クリスマスなど四季折々の年中行事に合わせて図書室の雰囲気づくりもしていただいた。

〔学習アシスタント型〕

◇本の読み聞かせ

毎週火曜日の午前8：30～8：40、各学級に読み聞かせボランティアとして本の読み聞かせをしていただいた。

◇音楽指導

特に音楽会の時期に、音楽の堪能な方に合唱や合奏の指導をお願いし、子どもたちだけでなく担任も音楽指導のあり方を学ぶよい機会となった。

◇校外学習時の引率補導

校区内の町探検活動時に各地域毎に引率の補助をしていただいた。

## 3 【事業の成果】

それまであまり学校に訪れることがなかった地域の方が、子どもたちの指導のために何度か学校訪問される毎に、学校とのつながりを深めることができた。

また、地域の方と子どもたちが顔なじみになったり、再度質問するときも自力で連絡を取ってインタビューしたり、子どもたちとのつながりも深くなった。

## 4 【今後の課題】

総合的な学習の時間における地域ボランティアの方が多いので、他教科や他領域の地域ボランティアを発掘していくことが求められている。

**1【事業の趣旨】**

若葉小学校では、今までから地域の高齢者の方々を中心に学校支援活動にご尽力いただいています。100%新興住宅街である若葉小学校区は、特に高齢者と児童の関わりを求める中で、地域のつながりが深まっていくことを願っています。そこで、若葉小学校においての学校支援地域本部事業では、この事業を通して、縦横のつながりを深めることを目的としています

**2【事業の概要、特色】****1 生活科や社会科の時間に対する支援**

1年生の生活科で昔遊び体験をします。地域の高齢者の方々が、独楽回し、お手玉、羽子板、剣玉、竹馬、竹とんぼなどといった遊びを1年生の子どもたちに手ほどきして一緒に遊んでいただきます。

3年生の社会科の学習で、昔の生活体験を学習します。洗濯板を使っての洗濯、火鉢に火をおこし、かき餅を焼く体験、かまどに火をおこす体験、はたきや座敷箒を使って掃除体験など、昔の生活での苦労話を交えて、子どもたちと交流していただきます。

年間通して、玄関にお花を生けていただいています。四季折々の花に、子どもたちはもちろん、来校されるお客さんの目を楽しませてくださっています。

お母さん方を中心に、図書の整理に来てくださいっています。子どもたちが少しでも借りやすくなるように、図書を整理してくださっています。

毎日、スクールガードとして登下校の見守りをしてくださっています。心強いです。

**3【事業の成果】**

毎年お願いしている内容の事業を、快く聞いてくださっています。今回の学校支援地域本部事業という名前がつけられる前から、変わりなくご協力いただいています。

毎年来てくださいしているおかげで、高齢者の方々も、本校の児童を名前を含めてご存知であり、子どもたちもよく知っています。今年度は、金曜日の午前中にグランドでグランドゴルフの練習をされるようになり、子どもたちがグランドに遊びに行ったときにふれ合うということもありました。異世代交流が自然な形でできることが成果であると考えます。

**4【今後の課題】**

若葉小学校では、以前から支援をいただいている方々が中心となってこの事業を担ってくださいしています。これはどうしても、組織が固定されてしまうという事が避けて通れません。いつも同じ方をお願いすることになります。

例えば、生花では、今まで生けてくださっていた先生が、ご高齢でいらっしやったので、昨年度で、この活動を終わられました。幸い、次の方へ引き継いでくださっていたので、今年度も、見事なお花を生けてくださっています。このようにうまくいくといいのですが、全てがそうなるとは限りません。図書の整理ボランティアは募ってもなかなか集まらず、お母さん方の口コミで来てくださっていますが、今後どうなるかわかりません。組織づくりや支援してくださる方を見つけてくる方法など、いくつか課題があります。



## 1 【事業の趣旨】

「学校支援地域本部事業彦根南サポートオフィス」は、今年度から始まった南中学校と区域内小学校の計5校で運営されている。本事業は、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子育ての体制を整えることを目的とし、学校教育に地域の多彩な人材を活用することによって、学力向上やキャリア教育、体験的・実践的教育、さらに教育環境整備など、学校教育のさらなる充実をめざすものである。本校は、これまでに学習の都度ゲストティーチャーやボランティアとして教育支援をしていただいているが、今後は、地域コーディネーターを中心に、さらに多くの学校支援者を募り、学校ボランティアに登録してもらいたいと願って地域に働きかけを行う。また、南中学区内でボランティアの交流を深め、より多彩な人材を活用した活動につなげたい。

## 2 【事業の概要、特色】

本年度の活動概要

- ・地域コーディネーターの指名
- ・南中学校区学校支援地域コーディネーター会議の開催
- ・学校支援ボランティア募集ポスターおよびリーフレットの作成配布
- ・「ボランティア便り」の作成配布
- ・数回にわたる地域コーディネーターとの打合せ
- ・学区内各自治会を通じた人材募集
- ・次年度の本格的活動へ向けた構想づくり  
クラブ活動講師および栽培活動指導について募集することを核に、人の輪を広げていくこと

## 【南中学校区支援地域本部：亀山小学校】

### 3 【事業の成果】

- ・募集用ポスターの作成と配布
- ・啓発用リーフレットの作成
- ・学区内に周知と募集の呼びかけ
- ・地域コーディネーターに退職教員を起用したところ、大阪府でのこの方の経験にもとづく助言をいただきながら、事業の体制づくりを進めることができた。
- ・まだ不十分ではあるが、募集等の広報活動を通して、地域に支援されながら教育を充実させていくという今後の学校の姿を示すことができていると考えられる。

- ・地域人材による5年生図工科の指導  
専門家からの的確な指導によって、子どもの対象の見方が変わり、作品制作につながった。



### 4 【今後の課題】

- ・今年度学校が協力を得たボランティア活動は、従来から個別に関係をつくってきた方々によるものであり、本事業を通じたものではなかった。学校とコーディネーター、そして地域が本事業について一定のコンセンサスを形成できるためには、募集依頼と活動の様子等の広報活動の積み上げを行うことが求められる。また、どのような組織が形成できるかは、今後の推移を見る必要がある。地域に浸透して軌道に乗るまでに一定の取組が求められるが、ひとたび継続的な支援活動が実現すれば、学校が得るものは大きいと考えられる。
- ・高齢化が進む本学区では、ボランティアの大幅な増加は見込むことができない。したがって、南中学区という規模でボランティアを交換交流しながら進めることが求められるだろう。

### 1【事業の趣旨】

「彦根南サポートオフィス」は、南中学校区を対象支援地域とし、南中学校を拠点校として、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

南中学校区は、1中学校と4小学校の大規模校区であり、地域による温度差もあることから、事業のスタートにあたり、事業内容の啓発と保護者・地域へのPRを軸に活動を開始した。

- ◎ 子どもたちの社会性・自主性・創造性等豊かな人間性を涵養する
  - ◎ 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実
  - ◎ 地域社会全体の教育力の向上
- 以上を念頭に置き、既に独自でボランティア活動を展開されていた小学校とも連携を取り合って、初年度の活動が軌道に乗るよう取り組んでいる。

### 2【事業の概要、特色】

#### ○ 活動の経過

- 8/26 保護者向けボランティア募集チラシ作成・配布（南中）  
・まずは保護者に向けて、事業スタートを告知し、ボランティアを募る。  
図書ボランティア応募者2名。
- 9/26 校区内学校支援地域コーディネーター会議  
・校区内1中学校4小学校の地域支援コーディネーターと教頭先生に集まっていたいただき、今後の活動・連携の仕方や課題について話し合う。
- 10/19 図書ボランティアミーティング
- 10/22 図書ボランティア活動開始

#### ○ 「学校支援ボランティア募集ポスター」の作成



初年度ということで、事業の告知とPR準備を進めた。校区内の施設や市内の各大学へ、掲示をお願いした。

#### ○ 図書ボランティア



10/22・11/16  
12/22の3回

廃棄図書の整理を中心に活動していただく。

#### ○ 放課後学習支援ボランティア

12/5・6・9・12・13  
の5日間

中学校卒業生の大学生チューターを中心に、放課後50分間の学習支援を行う。



### 3【事業の成果】

既にボランティア活動を活発にされている各小学校に加えて、中学校でも活動を開始することが出来た。

また「ボランティア便り」第1号を発行し、配布した。活動内容を家庭・地域に発信していくことで、ボランティア活動への理解と協力が得やすくなることを期待している。

今後、各学校の紹介やボランティア内容の説明・募集を載せた「PRリーフレット」の作成を予定しており、準備を進めている。これにより、地域の自治会・老人会など各団体へ配布し協力をお願いすることで、ボランティアの人数確保と地域の方との交流に繋げていきたい。

### 4【今後の課題】

学校支援ボランティアの活動がスタートしたばかりで、まだまだPRが不足していると感じる。活動を軌道に乗せるためにも、人材の確保が第一であるので、「ボランティア便り」の発行を重ねて周知徹底を図っていきたい。

また、各小学校との連携の取り方を再考し、ゲストティーチャーなど特別な技能・知識を持った方に対して、共有して依頼できるようなシステムの構築も大切であると考えている。

地域ボランティアと学校側、双方が満足できる活動とするため、各先生方の要望もしっかりと受け止められるよう、アンケートの実施や組織作りに努めたい。

**1【事業の趣旨】**

地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組を有機的に組み合わせて、授業等における学習補助や教員の業務補助などの学校支援等様々な教育支援活動を行う。

**2【事業の概要・特色】****(1) 図書ボランティア活動**

毎週火曜日の午後から、保護者を中心に10名ほどの方々が当番制で、図書室での児童の本の貸し出し業務や、図書の補修・整理を中心とした支援活動を実施している。時には、低学年の児童を対象に読み聞かせなども行っている。

**(2) 農業実習ボランティア**

5年生の総合学習として、『稲作』を教育課程に位置づけている。本校の前にある学習田を利用して、地域の農業委員などのボランティアの協力を得て、田植え・稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔からの田植えの方法を教えてください実際に苗を植えた。また、稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲を千歯ごきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験したり、コンバインを使って脱穀する様子を見学したり、コンバイ

**【彦根中学校区支援地域本部：河瀬小学校】**

ンに同乗させてもらったりするなど、ボランティアの協力なしにはできない貴重な体験をすることができた。

**(3) ゲートボールクラブの指導**

地域のゲートボール愛好者をボランティアに年間20回程度のクラブ活動で、「ゲートボールクラブ」の指導をしていただいている。ゲートボール独自のルールやボールの打ち方などきめ細やかに一人ひとりに指導をしていただき、子どもたちはゲームを楽しむことができている。

**3【事業の成果】**

様々な学校の教育活動に、自発的なボランティアが支援をしていただいている。きっかけは、地域の活動を知った教師が直接支援を依頼することや保護者等からの申し出を受けたりすることがある。どの活動も子どもたちの学習活動などを充実させることに役立っており、専門性を活かしたものや、教員が時間的な制限の中で取り組めないような活動への有効な支援になっていることが多い。

**4【今後の課題】**

さらに多くの方々に参画を呼びかけるために、本年度彦根中学校区で案内パンフレットを作成し、校区全戸に配布し広く呼びかけることにした。学校への支援が地域の方々にとって『敷居の高さ』を感じさせないようなアプローチが必要である。

また、学期末などに「感謝の会」を開いてボランティアの方にお礼を言う場面を作るなど、ボランティアの方に『子どもたちの役に立った』と思っただけのような学校側の対応が必要である。

### 1【事業の趣旨】

本校を取り巻く地域環境は、都市化の進展にともない、地域における人と人とのつながりが希薄化しつつある。このことは同時に、子育てに関する地域の教育力を低下させる要因ともなっている。

学校という「子育て・教育」の場に、地域の方々がボランティアとして関わっていただくことは、学校教育への理解を深めていただくとともに、学校が抱える今日的課題を共有していただく機会ともなる。また、ボランティア同士の人的ネットワークの再構築を期することもでき、地域の教育力の再生につながることを期待できる。

さらに、教師とボランティアの方々の役割の違いを自覚した上で交流を深めることは、教師の視野を広げることにもつながり、学校と地域の信頼関係を一層深めることが期待できる。

以上のことから、今年度、本校では、地域の高齢者の方と昔の遊びなど、様々な遊びを一緒に体験することを通して、子ども達に豊かな人間関係を培うことや体験を通して創造性や自主性を育むことをねらい、本事業を進めた。

### 2【事業の概要、特色】

本事業は、過去数年の積み上げをもとに、今年度さらに充実・発展させたものである。そのため、地域の方々の関心も高く、前期・後期（年2回実施）を合わせ、総勢100名を超える方々からの協力を得て実施した。

#### ◇活動名

『わくわくタイム』

～町の先生とふれあおう～

#### ◇ねらい

- ・地域の方や異学年の友だちとの交流を通して、豊かな人間関係をつくる。
- ・さまざまな遊びなどの体験を通して、創造性や自主性を育む。

#### ◇活動内容

- ・地域の高齢者の方と昔の遊び等を一緒に体験する。

### 3【事業の成果】



#### (1) 学校とボランティアとの関係強化

ボランティア活動の場では、教師とボランティアの方々との連携が十分保てるよう、事前・事後を通してコーディネートに力を注いできた。現在、こうした取組が次なる活動を生み、本校では、「わくわくタイム」活動の他に、「読み聞かせの会」「ほたる観察会」「3世代交流～餅つき大会～」「福祉体験活動」をはじめ、各教科学習の中における学校支援の輪が広がりを見せている。

#### (2) ボランティアの方とのふれあい

ボランティアの方々とのふれあいが日常化することにより、ボランティアの方と子どもたちとの間には親和な関係が築かれ、「ありがとう」という感謝の言葉が自然と発せられるなど、豊かな心情を培う上でも有意義であった。

#### (3) 地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成・高揚

ボランティア活動を通して、子どもたちの飾らない姿を見つめて頂いたことは、現在の学校が抱える課題について、理解と協力を得ることにつながった。そして、「地域とともに子どもたちを育てよう」という意識の醸成を図ることができた。

### 4【今後の課題】

今後は、皆が一層積極的に意見交換できる場づくりに努め、課題を克服する手だてを共に考え・指摘し合いながら、地域の学校として、具体的に一つずつ向上させられるよう事業の定着を図ることが必要である。

## 1 【事業の趣旨】

彦根中学校区は、彦根中学校と河瀬・高宮小学校を対象に学校を支援していく体制を計画している。今年度は、事業実施の初年度であり、先進校区の取組を参考に組織の構築と事業の具体的な計画を協議した。3つの小中学校から、それぞれ支援してほしい内容を挙げ、今後、ボランティアの人材が確保できた段階で依頼していく予定を確認し、そのために、地域への発信、事業の周知に向けて取り組んでいる。

## 2 【事業の概要、特色】

6/22(水) 第1回打合せ

- ・地域コーディネーター（4名）の確認。
- ・各学校が必要とするボランティアを具体的に挙げる。
- ・小学校は今までの実績で人材バンクがあり、中学校にもつなげてく事を確認。

8/5(金) 第2回打合せ

- ・各校から、ボランティアの要望一覧提出。
- ・小学校では、すでに進めてきているボランティアと人材をこの事業に組み込んでいく事を確認。
- ・事業の周知と人材募集のチラシ作成について協議。

10/20(木) 第3回打合せ

- ・チラシ作成の検討会議

10/25(火) 第4回打合せ

- ・チラシ作成の検討会議

11/1(火) 第5回打合せ

- ・養成講座の報告（事業の進め方や情報提供、取組状況の情報交換、課題と工夫や解決方法などについて）
- ・チラシの最終確認。

11/8(火) 第6回打合せ

- ・チラシの校正、検討。
- ・外部からの問い合わせに対する電話対応について協議。

11/16(水) 第7回打合せ

- ・チラシを元にポスターについての検討。
- ・校区内全戸配布計画について協議。

12/中旬

- ・チラシを校区内全戸に配布。

## 【彦根中学校区支援地域本部：彦根中学校】

### 3 【事業の成果】

- ・コーディネーターに、事業の趣旨を理解していただき、学校教育活動の支援に対して、十分な理解を得られた。
- ・事業を進めるために、チラシ配布やポスター掲示などをおこなうことで、まず地域への周知徹底を図った。



チラシの表  
(ポスターは、表面に準ずる内容)



チラシの裏

### 4 【今後の課題】

- ・2つ小学校区があり、コーディネーターを2人ずつで4名お願いし、事業に対する理解は十分得られている。コーディネーターの方と連携を図り、学校の事情に応じたボランティアをお願いしなければならない。
- ・3学期のボランティア支援が、次年度に広がるよう努める必要がある。

【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本小学校】

1 【事業の趣旨】

本校では、教育活動を4つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜びを」がある。地域の自然・産業・歴史遺産や人々に学び、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てたいと願っている。

内容としては、1・2年生の生活科、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生の社会科の米作り、6年生社会科の歴史学習、縦割り活動で行うウォークラリーなど様々な場面で地域とつながる活動が展開される。

2 【事業の概要、特色】

□ 1・2年生生活科 「川遊び」



1・2年生が、5月、仏生寺町の矢倉川に入って魚やかになどをつかむ体験を行った。青少年育成協議会の方や仏生寺老壮クラブの方が、川を整備し、当日も子どもたちの活動の支援をして下さった。

□ 5年総合・6年総合

「山とわたしたちの暮らし」

学区内の原町は、山から独自に水源を確保し水道を引いている。それに伴って、山を守る活動をされている。原町の方に、水源地を見学させてもらい、山を守る活動について教えてもらった。

6年生になってから、学区内男鬼町の森林を歩いたり、暮らしについてお話を聞いたりして、森林とくらしの関わりが深いことを実感することができた。

□ 縦割り活動

「中山道鳥居本ウォークラリー」



今年度の中山道鳥居本ウォークラリーは、中山道沿いの「専宗寺」と「小野八幡神社」をポイントにして行った。専宗寺では、地域の方から、聖徳太子ゆかりの寺であり、佐和山城とも関係があることを教えていただいた。

□ 4年総合 「矢倉川調査隊」



鳥居本にお住まいの彦根市環境保全員の池田さんの協力を得て、矢倉川の調査を行った。水質調査や、生き物調査から矢倉川がきれいな川であることが分かった。

3 【事業の成果】

子どもたちは、どの体験活動でもいきいきとした姿を見せ、大変意欲的に活動することができた。活動後に、お礼のお手紙を書くことで、振り返りをするとともに感謝の気持ちを伝えることができ、地域の方とのつながりが深まった。

4 【今後の課題】

今年度から、学校支援地域本部事業に鳥居本自治連合会が強く関わってくださることになった。事業の体制の維持と拡充を図ることが課題である。

【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本中学校】

## 1 【事業の趣旨】

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している。未来を担う子どもたちを健やかに育てるためには、学校・家庭・地域の連携協力を強化し、社会全体の教育力の向上に取り組む必要がある。

地域の大人が子どもに多く関わることで、多様な体験・経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待される。また、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。

鳥居本中学校区の小中は、1小学校と1中学校全学年単級の小規模校である。

鳥居本の地域は、自然が豊かで大変住みやすい町であるとともに歴史と文化のあふれる町でもある。

そこで、地域全体で学校を支援する仕組みを定着させるため、「鳥居本学校サポートオフィス」を立ち上げ今年で3年目を迎える。鳥居本小中学校区を対象支援地域とし、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

## 2 【事業の概要、特色】

### ○学習支援

中学校教員からの学習支援ボランティア希望調査をおこなった。それぞれの希望から地域コーディネーターを通して地域人材登録より可能な教科について詳細を打ち合わせて計画した。実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校してもらって授業支援をおこなった。今年度は、技術科、社会科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書で実施した。



☆ 3年社会科（租税について）



☆ 3年人権学習（部落問題学習）



☆ 2年技術科（電気について）



☆各学年 本の読み聞かせ（朝読書）  
毎月1回（7月、9月、10月、11月、12月）実施した



☆総合的な学習の時間

3年卒業研究として「鳥居本」を共通テーマに研究してきた成果の発表会の講師として3人の方々に講評をいただいた

なお、3学期には、学習支援として、家庭科（郷土料理）や理科（星座について）のゲストティーチャーを予定している。

○環境支援

鳥居本中学校のグラウンドが昨年度エコ化事業」として全面芝生化となった。そこで地域にも開放して活用してもらっている。活用していただいている地域の方々が、草刈り作業や水やり作業をしていただいている。

また、夏休みに日頃生徒ではなかなかできない箇所の清掃作業（今回は窓ふき）を地域支援（人材登録された方）ボランティアとして実施していただいた。

「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」を発足して、ゆりの球根を提供していただき、7月に生徒が一人一球根のプランタに植えた。



☆スプリンクラーによる芝生への散水



☆地域ボランティアによる美化活動（夏休み 校舎窓ふき作業）



ゆりの球根植え付け作業（全校生徒）



☆グラウンド芝生の水やり説明の様子

### ○その他の支援

地域の要望もあって、地域の行事に生徒がボランティアとして参加している。学区の運動会の役員や学区の文化祭でのソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究（3年「鳥居本について」）の発表は、毎年参加している。また、今年はとりいもと宿場まつりにおいて、全校生徒がソーランを発表した。



☆とりいもと宿場まつり（10月）

### ○広報活動

ブログを開設して、鳥居本小中学校がおこなっているボランティア活動を紹介したり、支援の依頼をお願いしたりして情報発信をおこなっている。

学校事務局と協力して更新を図り、活動の情報発信をすすめている。みなさま、ぜひ、検索してご覧ください。

[鳥居本中学校サポートオフィス | 検索](#)

### 3【事業の成果】

- 今年度から、学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会が積極的に関わってくださり、ボランティアの募集を呼びかけていただいて人材登録（約100名）ができた。その中から学習支援として授業へ講師として支援できたことが大きな成果である。
- 中学校教職員と地域関係者が、学校や生徒のことで自由に語れる雰囲気づくりができた。地域コーディネーターとの距離が縮まった。
- 広報活動として、ホームページ「鳥居本サポートオフィス」を設立し情報発信できた。

### 4【今後の課題】

- 放課後3年生を中心とした学習会の学習支援者学生（チューター）と教職経験者の確保

○地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていたただけの方々が多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるように改善に努めていきたい。

### ○今後に向けて

このような活動を展開するには、学校とコーディネーターとの連携が大切になってくる。また、小中それぞれのコーディネーターとの連携も大切になってくる。小中合同の支援地域協議会の開催が定期的に設けられるようにしていきたい。

今後の学校支援地域本部の在り方として地域全体（鳥居本学区全域）とタイアップして活動が進められるように、組織の充実を図ろうとしている。

## 【稲枝中学校校区支援地域本部：稲枝東小学校】

## 1【学校支援地域本部事業の概要】

本校では、読み聞かせボランティアをはじめ、園芸や児童支援等、18名の方に支援いただいている。

10名の読み聞かせボランティアさんは、毎月第1・3木曜日の朝読書の時間に各学級に入り、読み聞かせをしてくださっている。また、3名の園芸ボランティアさんは、農業の経験を生かし、専門的な助言や指導をしてくださり、畑や田んぼのお世話、総合的な学習の時間でのゲストティーチャーとしてお世話になっている。5名の児童支援ボランティアさんは、主に特別支援学級の児童に関わり、学習や生活の支援をしてくださっている。

その他、毎日の下校の見守りを、月・木曜日はスクールガードの皆さん、火・金曜日には保護者の方々、水曜日は子ども安全リーダーの方々と、毎日、地域の方々にご指導いただいている。

このように学校支援ボランティアの皆様は、本校教育に参画することで、子どもたちの情操教育、安全教育などに大きく貢献してくださっている。

## 2【トイレの神様事業の趣旨・概要】

今年度、新たに「トイレの神様プロジェクト」が始まり、子どもたちと一緒に校内のトイレ掃除をしてくださる方の募集が始まった。

12月現在、4名の方がトイレの神様プロジェクトに参加していただくことになった。都合



のよい日に、学校の掃除の時間に来ていただき、子どもたちと一緒にトイレ掃除をしていただくことで、ボランティア活動をする大人の姿を子どもたちに見せたり、子どもたちとふれあ

う時を共有したりすることが目的である。

## 3【事業の成果】

園芸ボランティアをはじめ、読み聞かせや児童支援ボランティアの方々の活動がしっかりと定着し、子どもたちも地域の方々のふれあいの場が増えるなど有意義な活動が実施できている。土作り、肥料のこと、世話の仕方等、教師も学ぶことが多い。

なお、トイレの神様プロジェクトは、まだ始まったばかりである。今後、この取組をしっかりと定着させ、さらに地域へ広がっていくことが大切であると考えている。

## 4【今後の課題】

- ・広報活動によって「できる人が、できる時に、できることを」の小さな善意の輪を一層拡大、定着させていくこと。
- ・子どもたちに、稲枝のよさ、人の温かさ、地域文化の多様性を伝えていくこと。
- ・ボランティアの方々に「責任感や義務感」をもたせることにならないよう、それよりも「やりがい」「楽しみ」を大切にする事。
- ・参画いただく活動のねらいや内容について事前や事後に、ボランティアさんの考えや意見を取り入れる工夫が必要であると感じている。

【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝西小学校】

1 【事業の趣旨】

- ・学校の教育活動だけでは不十分な点に支援を受け円滑な推進を図る。
- ・学校・家庭・地域が一丸となった取組の充実を図る。
- ・地域の方々の支援による、豊かな学びの場を生み出す。

2 【事業の概要、特色】

(1) 読み語り支援

現在7名の読み語りボランティアに、金曜日の朝の時間、本の読み聞かせを行っていただいている。

本校では、「読書びわこマラソン」など、読書活動に重点を置いた取組の充実を図っている。その一環として読み語りの時間を設けている。

この時間には、図書主任が定期的に当番表を作り届けているため、ボランティアにはそれぞれの学年に応じた本を選んでいただくなど、工夫をいただいている。

ボランティアによる読み聞かせは、より心に響くようで、子どもたちは話に引き込まれ聞き入っている。

終わった後は、ボランティア同士で交流の時間を持っていただくなど熱心に活動していただいている。

正面玄関には、お世話になっている方々が分かるよう、ボランティアの写真と名前を掲示している。また、読み聞かせをしてもらった本を中央廊下に並べ、子どもたちの豊かな読書活動へと広がるように努めている。



今日は何のお話かな。楽しみにしています。

(2) 学力支援

夏休みに地域の教員OBの力を借り、学力補充教室を開催している。

国語と算数について、夏休みの初め頃を中心に学力補充の時間を取っている。この夏は、7月21日から29日までの延べ7日間に、各学級5～8名程度の児童が参加し、教員OBと担任等が個別指導に当たった。

一人一人に温かく丁寧に指導していただき、子どもたちも充実した時間を過ごすことができた。

中には、以前から継続して来てくださっている方もおられ、地域の個々の児童の様子をよく理解したうえで、指導・支援していただくことができた。

(3) 体育学習支援

体育学習の支援として保護者にボランティアをお願いしている。

水泳学習の時に、各学年に指導の支援をしていただいた。夏休みの皆泳教室でも、泳げない子ども一人一人にきめ細かな支援に当たっていただき、自己記録を伸ばすことができた。

さらに、運動会の練習時には、学生ボランティアによる支援を受けた。

3 【事業の成果】

地域の方々から支援を受ける時間には、温かい雰囲気醸し出される。支援から受ける直接的な効果はもとより、雰囲気から得る教育効果は大きい。子どもたちの豊かな学びの場となっている。

また、学力支援や体育学習支援では、教師の支援が十分行き届きにくいところに、タイミングよく支援をしていただくことができた。また、その支援の仕方については教師にとっても学ぶところがあつた。

4 【今後の課題】

担当が替わっても、根強く息長く続いていく学校支援活動を行っていくには、読み語りボランティアのような自主組織づくりが課題となってくる。次年度は、支援活動の内容や輪を広げるとともに、組織の礎づくりに努めたい。

## 1 【事業の趣旨】

本校の支援事業は「地域の子どもは地域で育てる」の合言葉のもとに、地域・家庭・学校の連携を密にして、地域の教育力を生かして子どもの健全育成を図ろうとするものである。

## 2 【事業の概要、特色】

### ① 読書ボランティア活動

毎朝の読書の時間におはなしタイムを設定し読み聞かせ等の読書活動を実施している。

今年度は9名の登録があり、毎月第2・第4木曜日の15分間に各教室で、絵本などのお話の読み聞かせをお願いしている。少人数での読み聞かせや紙芝居は児童がとても心待ちにしている事業である。地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を養う意味でも意義のある活動になっている。

### ② 稲村かるたオリエンテーリング

本校恒例の稲村かるたオリエンテーリングは、地域の自然環境や文化財をめぐりながら郷土のよさを知り、自然や文化を愛し郷土を愛する心を育むことをねらいとして実施している。

縦割りグループで行動することを通して、異学年の児童間の協力と信頼の気持ちを育てることができる意義深い活動である。児童会の12班の縦割りグループごと



に、23年度は下岡部・上石寺・下石寺方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を訪れた。

朝の開会式にも民生児童委員さんや支援ボランティアの方々が参加してくださりその後児童と共に各ポイントを回って児童の安全確保、ふれあいに努めてくださった。ポイントでは教師や地域の方から説明を聞いたり、出された問題に答えたりするよう計画されており、下岡部の屋中寺跡・稲村

神社、蓮池の彦根梨、曾根沼干拓記念碑、下石寺分教場跡等のポイントでの話を地域の支援員の方々から熱心に聞くことができた。

到着した下石寺運動場では、湖岸清掃等の奉仕活動をしたり、集団ゲームをしたりしながら、異学年集団の仲間で楽しく活動をした。高学年が下学年の世話をするなど、

各学年の絆を深めることができた。

支援ボランティア・民生児童委員、保護者の方に温かく見守っていただき、

安全に活動することができた。

### ③ 環境整備活動

各学年の教科に関連した栽培活動の支援は、ひょうたん栽培を始め、米作りや農園、花壇の花作りなどに、多大な支援をいただいている。加えて今年度は、町づくり協議会の方々による校内の環境整備にも力を入れていただき、池の清掃や、運動場の整備などにも専門性を生かした支援をしていただいた。

## 3 【事業の成果】

従来から実施されている、読み聞かせ活動や、校外行事への支援活動・ふるさと学習への支援活動は人材バンクにより、充実した活動が実施できた。児童も地域の方々とのふれあいの場が増えるなど有意義に過ごすことができた。

さらに地域の各種組織の長で構成されている安心・安全町づくり協議会との連携により、広く環境整備面にも成果を上げていただくことができた。

## 4 【今後の課題】

人材バンクの登録により、人材はかなり増えてきたが、今後もさらなるPRに努め、専門的な技術や知識を生かしての活動はもとより、保護者や、地域の方々が無難に支援できる雰囲気づくりが必要になると考える。





## 【近江八幡市学校支援地域本部】

### 1 【事業の趣旨】

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを確立するために実施する。

そのために、近江八幡市に1つの学校支援地域本部を設置し、島小学校、沖島小学校、岡山小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校、八幡西中学校、安土中学校の9学校に各1名(八幡西中除く)の地域コーディネーターを配置して学校教育を支援するモデルシステムを学校を舞台にして構築する。9学校の取組を市内全域に発信して、地域全体で子どもを守り育てるための土壌を創りあげ、子どもと共にその効果を市内全域に広げていくことを目的とする。

### 2 【事業の概要、特色】

#### <ねらい>

- ① 地域の教育力の活性化をめざす
- ② 地域の方が社会教育で学んだ成果を生かす場をつくる
- ③ 教員が子どもと向き合う時間の拡充をめざす

#### 学校と地域との連携体制の構築を図るもの

地域住民が学校を支援するボランティアとして活動するための体制を整備;

### 近江八幡市学校支援地域本部実行委員会

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを確立するため、学校に地域コーディネーターを配置し、地域ボランティアの活用、地域教育力の向上等の推進支援に関するうえでの諸課題について協議し、連絡調整を図りながら普及を図る。

#### <活動内容>

- (1) 実行委員会の開催(年3回)
- (2) 支援ボランティア研修会の開催(年3回)
- (3) 学校支援メニューフェアの開催(年2回)
- (4) コーディネーター会議の開催(年3回)
- (5) 地域・企業との連携授業支援
  - ・ 島小(茶道師範、滋賀県交通安全協会、フジノ食品、おでかけ演奏会)
  - ・ 沖島小(茶道師範、京都新聞、フジノ食品)
  - ・ 金田小(おでかけ演奏会)
  - ・ 桐原小(おでかけ演奏会)

- ・ 馬淵小(フジノ食品)
- ・ 北里小(琵琶湖よし笛レイクリード)
- ・ 安土小(おでかけ演奏会)
- ・ 武佐小(ワコールツボミスクール)
- ・ 老蘇小(滋賀次世代文化芸術センター)
- ・ 安土中(茶道教室)
- (6) 滋賀の教師塾との連携
- (7) ボランティアリーフレットの作成
- (8) 実践事例集の作成
- (9) 市内学校への広報と支援(指導・助言)

### 近江八幡市学校支援地域本部

- 島小学校
- 沖島小学校
- 岡山小学校
- 北里小学校 地域コーディネーター
- 武佐小学校 の配置(8人)
- 安土小学校
- 老蘇小学校
- 八幡西中学校
- 安土中学校

各学校に学校支援ボランティア室をつくり、そこを拠点として活動を実施する。

#### <活動内容>

- (1) 地域教育協議会(会議)の開催
- (2) 支援ボランティア会議等の開催
- (3) 実際の支援活動
- (4) 成果発表会(報告会)の実施
- (5) 人材バンク作成と整備



・小中学校区に地域コーディネーターを配置し、地域教育協議会、学習支援ボランティア、学校担当で構成される。

・学校への支援ボランティアの人材を地域から募り、人材バンクの作成と学校支援ボランティアの組織、活動支援の調整と実施を行う。

・学校支援地域本部の広報、啓発チラシ・ポスターによる広報活動を行う。

#### ☆地域コーディネーターの活動☆

(1) 学校から要請された活動へボランティア派遣と調整および協力

(2) ボランティアの発掘と育成

(3) 学校支援ボランティアバンクの作成と整備

#### ☆支援ボランティアの活動☆

(1) 地域コーディネーターから支援ボランティアへの参加募集

(2) 参加希望のあるボランティアの登録(活動保険は市)

で一括加入)

(3) ボランティアは学校で活動支援

### 3 【事業の成果】

#### 近江八幡市学校支援地域本部実行委員会

構成；委員… 15名(事務局員2名)

(1) 実行委員会の開催

- ① 6月6日(月) 10:00～12:00
  - ・ 規程、実施要項、役員選出
  - ・ 年間事業計画と日程協議
- ② 12月9日(金) 13:30～16:00
  - ・ 岡山小学校視察(6年生社会科「戦争体験についての講話」)
  - ・ 学校支援地域本部の推進について
- ③ 2月13日(月) 13:15～16:45
  - ・ 今後の目標について

(2) 研修会の開催

① 学校支援ボランティア研修会

日時：6月14日(火) 13:30～17:15

会場：安土町総合支所防災センター会議室

参加者：46名(各学校のボランティア等)

第1部・ワークショップ

○子どもに寄り添うボランティアの大切さとは？

○地域と学校をつなぐコーディネーターとは  
津屋結唱子さん(滋賀次世代文化芸術センター副代表・トータルコーディネーター)

第2部・講演

「地域の力を学校へ」

齊藤俊信さん(滋賀次世代文化芸術センター長)

ワークショップでは、子ども支援に関わるボランティアにとって大切なこととして、コミュニケーション、利他愛の力、謙虚さであること、キーワードは、バランス感、思いやり感、直感、幸せ感、楽しみ感、一番大切なことは苦楽しいことであることを学んだ。講演では、齊藤前滋賀県教育長からヨコヨコ、ニコニコ、ドンドンのキャッチフレーズで、地域の力を学校へという理念に基づき、しが学校支援センターなど具体的な事業を次々と実現されたことや実行力・行動力・発想力・具体化力の大切さを学んだ。

滋賀次世代文化芸術センター長  
齊藤前県教育長



② 学校支援地域本部研修会

日時：11月29日(火) 14:30～16:45

会場：武佐小学校 和室・体育館

参加者：157名(各学校の教職員、支援ボランティア、企業等)

内容：講演・ぷちメニューフェア in 武佐小  
第1部・講演

○3つの幸せ

後藤敬一さん(滋賀ダイハツ販売株式会社社長)

滋賀掃除に学ぶ会代表世話人でもある後藤氏より、トイレ掃除に学ぶ3つの幸せと5つの効果について学ばせていただいた。近年は卒業記念に学校のトイレ掃除の指導を依頼する学校も多いそうである。

(株) 滋賀ダイハツ販売  
後藤社長



○第2部・ぷちメニューフェア in 武佐小

12団体・企業が学校支援プログラムをブースで紹介した。武佐小5・6年児童62名と武佐小教員も参加し、学校支援地域本部関係者とともに、プログラムを体験した。フェアを機に、沖島小と京都新聞社、武佐小と(株)ワコール、北里小と琵琶湖よし笛レイクリードとの連携授業も決まった。フェア後の企業・団体と教員の意見交換会の場もお互いの思いを知る貴重な機会となった。

③ 学校支援地域本部シンポジウム

日時：2月13日(月) 13:15～16:45

会場：ひまわり館 1Fホール

第1部・講演

「白熱教室～これからの学校支援の話をしよう～」

出口寿久さん(和歌山大学地域連携・生涯学習センター長・教授/元文部科学省社会教育課ボランティア活動推進専門官)

文部科学省で学校支援地域本部を企画した元担当官の出口教授が、なぜ学校支援地域本部を企画したのか、何をめざしたのかを会場の意見も求めながら熱く語った。

第2部・公開実行委員会

出口教授を司会・コーディネーターに、学校支援ボランティア等にも公開し、会場の意見も随時求める形で、実行委員会を開催し学校支援地域本部が今後目指す方向について熱く議論した。

(3) 学校支援メニューフェアの開催(年2回)

① 学校支援メニューフェア in 近江八幡

7月22日(金) 13:30～17:30

会場：安土町総合支所防災センター

滋賀県教育委員会生涯学習課と滋賀次世代

文化芸術センターの御協力もいただきながら、28の企業・団体が学校支援メニューを各ブースで教職員に紹介し、終了後意見交換会を行った。



(株)大阪ガスの液体窒素実験

## ②学校支援おちメニューフェア in 武佐小

7月の市全体のメニューフェアと比べれば、出展者も参加者も少なかったが、武佐小児童が参加したので活況を呈した。出展者と教職員がきめ細かく意見交換をできたので連携授業もフェア当日に3件決定した。



滋賀県獣医師会・うさぎの心音を聞こう

## (4)コーディネーター会議の開催(年3回)

- ① 6月27日(水)10:30~12:00 岡山小学校
- ② 7月6日(水)9:20~11:30 北里小学校
- ③ 10月18日(火)14:30~16:30 島小学校

「何をしたらよいかわからない」という新規コーディネーターの声に応じて、コーディネーターの意見・情報交換の場として会議を開催した。会議に合わせて地域との連携授業を視察したり、北里小・村井校長による学校支援の要諦についての講話を実施した。

## (5)地域・企業との連携授業支援

滋賀県や市開催のメニューフェア出展者などの中から、学校教育に生かせそうなプログラムを持つ企業・団体を生涯学習課から積極的に情報提供したり、連携授業を持ちかけて、学校と企業・団体をコーディネートした。

## (6)「滋賀の教師塾」との連携

滋賀県教育委員会教職員課との連携・協力により、「滋賀の教師塾」の塾生を学校支援

はちてい(はちまん・ティーチャーズ・エッグ)ボランティアとして、学校支援地域本部実施校に受け入れる事業を創設した。塾生に学校と塾の両者のニーズによる教育現場の体験実習を通して幅広い視野を持った教師を養成することが目的である。学習活動、特別活動、総合的な学習の時間への支援・援助等を主な実習内容とする。

23年度は3名の塾生を受け入れた。

- ・京都橋大学2名(小学校に配属)
- ・京都教育大学1名(中学校に配属)

## (7)ボランティアリーフレットの作成

守秘義務の徹底や児童・生徒への公平な対応など学校支援ボランティアとして基本的に身に付けておいてほしいことを簡単に紹介したリーフレットを作成してほしいという学校の要望に応じて、ボランティアの心構えなどを簡単に紹介したリーフレットを作成した。

## (8)実践事例集の作成

市全体としての取組状況と成果と課題、9学校の実践事例、次年度に向けての方向性について掲載する。

## (9)市内学校への広報と支援(指導・助言)

市内幼・小・中学校と関係機関等に実践事例集を配布したり、校長会、教頭会等で学校支援地域本部の研修会への参加を促すなど市内全小中学校への事業周知に努めた。

## 4【今後の課題】

### ○成果

21年度からのスタートで本事業も3年目となり、スムーズに事業を継続し、各本部とも充実した実践ができた。学校に地域の方々が来校されることで、子どもたちの表情が豊かになり、支援ボランティアの生きがいづくりにもつながった。双方にとって良い効果が表われている。当初、3校で始まった本事業も今年度は9校にまで拡充できた。

### ○課題

(1)地域コーディネーターと学校側の十分なコミュニケーションの時間を確保することが課題である。

(2)平成24年度以降も予算が減額になる中で実施校を拡充し事業を継続するためのアイデアと方策を検討したい。

(3)新学習指導要領により教師の負担が増加し教員が地域との連携に時間を割きにくくなっている。この部分を支援していきたい。

(4)今後、全小中学校に拡充していくための財源確保(特にコーディネーターの人件費)が課題である。

【学校支援地域本部名：島小学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

教育基本法には、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設され、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとで教育を進めていくことが不可欠となっている。

島小学校学校支援地域本部は、これを具体化するための中心的役割を担い、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的としている。

そして、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を図るため活動に取り組んでいる。

2 【事業の概要、特色】

本年度は、1年目ということもあり以下のような計画を立て取り組んだ。

実施期間	内 容	場 所
4月～3月	見守り隊・スクールガードの方々による下校指導	各通学路
月3回 火曜日	読書ボランティアによる絵本等の読み聞かせ	各教室
5月～3月	1年 ・「昔遊び名人」支援	その他
	2年 ・生活科「生き物探し」まち探検支援 ・焼きいも会支援	
	3年 ・「まち探検」支援 ・「ヨシ学習」支援 (ヨシ簾工場見学・ヨシ刈り体験等の支援) ・社会科「私たちの町で作り出される物」 (畑見学・愛菜館見学・ロッテ工場見学支援) ・農業や漁業に関する話をしてくださる方を依頼する際の支援 ・「昔の暮らし」に関する話をしてくださる方の依頼支援	
	4年 ・「菜種学習」支援 (菜種刈り・種落とし体験等の支援) ・馬淵浄水場見学支援 ・警察署見学等支援	
	5年 ・「田んぼの学校」支援 (田植え・稲刈り・魚道の生き物調べ)	

6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習（室町文化）「茶道体験」支援</li> <li>・「調理実習」支援</li> </ul>
はばたき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「そば学習」支援（そばの栽培・収穫・粉ひき・そば打ち体験の支援、石臼の話）</li> </ul>
全校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「島アドベンチャー」（全校遠足）実施支援</li> <li>・運動会実施支援</li> <li>・「島子ども祭り」実施支援</li> <li>・果実のなる木の世話（桃・干し柿作り支援）など</li> <li>・「スキー教室」（ボランティア募集）支援</li> </ul>

【歴史学習（茶道体験教室）】の支援

- 1 日時：6月29日5時間目
- 2 内容：6年「茶道体験教室」
- 3 概要：

この茶道体験教室は、社会科学習指導要領「京都の室町に幕府がおかれたころ、雪舟によって我が国の水墨画を代表する作品が生まれてきたことがわかるようにするとともに、ここで生まれた文化は今なお多くの人々に親しまれていること」「その際、能・茶の湯、生け花なども関連的に取り上げること」の学習を受けて設定した。

この体験教室の講師として、人生伝承塾の一環として遠州流の木俣先生にご指導をいただいた。木俣先生には、部屋に入る際の御挨拶の仕方や床の間の鑑賞の仕方や3段階の御挨拶の仕方等のお話の後、お手前を拝見した。その後、児童は2つのグループに分かれ、一方はお菓子のいただき方やお茶のいただき方、もう一方は、お茶をたてる体験等を行った。



茶 道  
体験教室の様子

【そば打ち体験教室】支援

- 1 日時：12月12日（月曜日）2～5時間目

2 内容：はばたき「そば打ち体験教室」支援

3 概要：

はばたき学級の子ども達が、そばを育て、実を収穫・乾燥し、自らの手で粉にひき、「そば打ち体験」を行った。その際に「そば打ち名人」である平井安春先生に指導していただき、自家製そばを味わった。



### 【3年社会科見学（愛菜館）】の支援

1 日時：10月13日木曜日3・4時間目

2 内容：3年社会科見学（愛菜館）の支援

3 概要：

社会科学学習指導要領「地域には、生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「地域の人々の生産や販売について、見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」を受けて、地域のお店「愛菜館」見学を設定した。

愛菜館では、マネージャーの方から来客数や野菜の種類、それらの野菜はどこから来ているのか、生産者の方々の人数、日頃心がけておられることなどをていねいに教えていただくことができた。また、お店の見学をさせていただき、売っている品物の種類を調べたり、数人のお客さんに「このお店に来られているわけ」を尋ねたりして学習を充実させることができた。

最後に、愛菜館の御厚意により、落花生の収穫体験をさせていただいた。多くの子どもたちにとって初めての体験であり、みんなが大きな袋をかかえ、お土産として持ち帰ることができた。



### 【校庭「実のなる木」のお世話】支援

1 日時：6月22日（水曜日）

2 内容：校庭にある「実のなる木（桃）」の袋かけ等の支援

3 概要：

日頃御協力いただいているサポーターの方々に、暑い中、100個以上にもわたり校庭の「桃の木」の袋かけをしていただくことができた。



### 【3年ヨシ学習】の支援

1 日時：見学10月17日（月曜日）

体験12月8日（木曜日）3・4時間目

2 内容：3年「ヨシ学習」及びヨシ刈り体験

3 概要：

地域の西川様のヨシ簾工場を見学させていただくと共に、管理されている場所をお借りして「ヨシ刈り体験」をさせていただいた。子ども達は、途中から「刈る係」「運び出す係」など、自然に役割分担をし、2束（約150本）を刈る体験を行うことができた。



ヨシ簾工場の見学↑

ヨシ刈りの様子↓



### 3【事業の成果と今後の課題】

本年度は、初年度ということもあり、「学校教育の充実」に寄与してもらえるよう地域の方々の支援を組織化するように心がけてきた。

上記の活動の他、「島アドベンチャー（全校遠足）」や「スキー教室」の支援（安全管理等を含む）をはじめとして、島学区町づくり協議会・島コミュニティセンターとの連携を図り、学校支援ボランティアの方々の組織化に努めた。

今後は、既存ボランティア団体の組織化の充実をより進めると共に、学校ボランティアに関心ある方々を新規に開拓して組織化を図り、学校教育の充実・生涯学習社会の実現、地域の教育力を高めることに寄与できるよう努めたい。

（学校支援コーディネーター後藤紀代子）

【学校支援地域本部名：沖島小学校支援地域本部】

の工夫や苦勞、努力や喜びについて学ぶ。

1【事業の趣旨】

近年、保護者や地域住民の願いや意見を学校経営に反映させたり、地域人材の協力を得て地域学習を推進したりするなど、地域に根ざした開かれた学校づくりが求められている。また、豊かな人間性や社会性を育むためには、児童の発達段階に応じた豊かな体験活動を重視した教育活動の充実に努めなければならない。そこで、地域住民がボランティアとして、学校教育を支援する「学校支援ボランティア」を設置し、学校・家庭・地域が一体となって学校を支援する体制づくりを確立するとともに、地域の教育力の向上を図っていききたい。そのため、学校が、家庭・地域へ情報を発信し、学校教育の理解と協力をいただき、地域人材の発掘と地域教材の開発に努める。



② ふな寿司体験

沖島の各家庭で漬けられている「ふなずし」の塩きり、洗って天日干し、御飯をつめて漬ける作業を体験して、郷土の食文化を傳承する。そして、新しく開発されたふなずしの漬け方について取材をして違いを調べた。

2【事業の概要、特色】

○人との出会い・体験活動の重視

(1) ふるさと学習

本校は、周囲をびわ湖に囲まれた自然豊かな環境にある。しかし、島は、若年層の島離れが進み、少子高齢化である。基幹産業である漁業は、外来魚が増え、昨年度の沖島漁業組合の漁獲量は、ピーク時の6分の1に当たる約1千トンであった。正組合員の数も3分の2の約100人まで減っている。また、漁具の出費や燃料費の高騰など支出が増えているが、魚の値段は20年前と変わらず、さらに値下がりをしていることもあり、展望が見えない厳しい状況である。そのため、昨年度、自治会・沖島漁業協同組合、「21世紀夢プラン」が中心となり、「うなぎ祭り」「ふなずしの講習会」「外来魚のペットフード作り」などを企画し、島の活性化を図っておられる。

以前は、祖父の仕事を手伝い、漁に出ていた児童がいたが、今は沖島で暮らしていても、漁業について知らないという実態がある。

そこで、地域の人が工夫を重ね、努力されてきたことや、沖島の漁業の再生を目指した熱い思いを子どもたちに感じとってほしいと願い、学校支援ボランティアの協力を得て、沖島漁業についての地域学習を行った。この学習を通して、子どもたちは、自信をもって地域のことを語れるようになってほしい。そのことがふるさとを誇りに思い、ふるさとを大切にすることにつながると考えている。

① 燻製やみりん干し作り体験活動

沖島漁業組合に協力していただいて、外来魚や商品にならないびわ湖の固有種(うぐい、はす)を使って、コロッケや燻製、みりん干しにして商品化を進めておられる取組を見学して、聞き取りをするとともに、背開きや天日干し、燻製にする活動を体験し、漁師の方



③ 漁業体験(うなぎ漁、エビ漁)

6年生の児童には、テーマを決めて、漁業体験をした。自分の目で見て、心で感じて、再生を目指して取り組んでおられる沖島の漁師の方の熱い思いを感じ、将来の沖島について考えた。



④ 職員研修

子どもへの学習支援だけでなく、職員研修にも協力していただいた。漁業組合長に沖島漁業の現状や将来の展望について話を聞く。また、ピワマス漁の漁業体験をして、漁師の工夫や苦勞について学ぶとともに、地域教材の開発に取り組んだ。

(2) 遠泳大会

本校の特色でもある遠泳大会は、波や風があり、4年生以上では、足のつかない自然の中で1km泳ぐことは、子ども

たちにとって貴重な体験であり、勇気やがんばる気持ちにつながる学習ある。また泳ぎ終えた時の達成感や充実感もすばらしいものがある。しかしこの遠泳大会を実施するためには、たくさんの保護者や地域の人々の支援が必要である。当日までに、会場の清掃から下学年用のコースと上学年用の1kmのコースのセッティングに協力いただいたり、琵琶湖での練習と当日には、救助艇として漁船を出してもらったりした。さらに終了後の昼食をつくっていただくなど、ほとんど指示をしなくても、動いてもらえるのは非常にありがたいことである。



### (3) 沖島太鼓

本校では、全校クラブとして1年生から6年生の全校児童による沖島太鼓に取り組んでいる。毎週火曜日に1時間練習し、普段は教師が指導しているが、年に数回専門の指導者に来ていただいて技術的なことなどを指導してもらっている。練習した成果は、入学式や市内音楽会で披露している。また、毎年地域の夏祭りや文化祭には、子どもたちの発表の場が設けられ、恒例行事となっている。島では、この沖島太鼓を大切にされ、自治会からも、沖島太鼓の活動を応援いただき、たいへん助かっている。



### (4) 茶道体験

体験学習の一つとして、地域支援コーディネーターの紹介で茶道体験を取り入れた。茶道の精神である相手を思いやる「おもてなし」の心を茶道の作法やお点前を通してふれることをねらいに実施した。子どもたちも初めての経



験とあって、少し緊張していたが、興味をもって、礼儀正しく学習することができた。

### (5) わくわく子ども料理教室

学校支援メニュー登録企業の協力により、シェフに学校に来ていただき、本格的な調理実習を子どもが主体となって行った。保護者は、子どもの様子を観覧し、作った料理を親子で食べながら、食生活について学ぶことができた。

## 3 【事業の成果】

- ・ふるさと学習は、島の方が協力的で、ゲストティーチャーとして話をしたり、学校の要望に答え、さまざまな体験活動をさせていただいた。地域の人と出会い、自ら体験することで、人々の思いや願いを心に感じたことを新聞などにまとめ、伝えることができた。また沖島の漁業の今後についてまとめると、今まで沖島漁業のマイナス面しか気づいていなかった子どもたちが、学習を通して、課題より明るい展望について多くまとめることができたことは、大きな成果であった。また漁業に従事する人たちからも、子どもたちが活性化に向けた取組を学んでくれることを評価していただいた。

- ・学校支援ボランティアの方々に地域の産業や文化を子どもたちに伝えていただいた。そして、そのことを通して、子どもたちとの人間関係を深めることができ、地域が学校教育の機能の一部として、学びの場になっている。

- ・地域の人との出会いは、子どもだけでなく、教師も人間関係や地域との連携を深めることができ、学習の教材化や充実を図ることができた。

## 4 【今後の課題】

- ・地域の方の中には、今まで体験したことや知識を子どもたちに伝えていきたいという熱い思いをもっておられる方がおられる。その方の生きがいや活力となる受け皿をつくっていくためには、学校のニーズを家庭や地域に発信するとともに、地域に足を運び、地域の方との出会いをつくっていくかなければならない。

- ・現在の受け皿は、ゲストティーチャーなど個別的なものやPTAとして、自主的な支援が多い。今後は、学校支援ボランティアとして体制的な受け皿を作り上げていく必要があるのではないかと。

【学校支援地域本部名：岡山小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

本校は近江八幡市における本事業の拡大を図るため、21年度の3学期から事業展開を行っている。

校区は田園に囲まれ、自然にも恵まれている。また、環境を考えた暮らしの新興住宅地もあり、県内外からの居住者もいる。

そして、本校区はコミュニティセンターの活動や町の行事が、非常に熱心に行われており、地域ぐるみで子どもを育てていこうとする気風がある。さらに学校への期待も強く、学校に対しても協力的で支援も大きい。まさに、学校を地域連携の核と捉えて、その伝統性、歴史性、文化性、シンボル性を大切にしつつ、住民相互の顔が見える関係づくり、子どもを中心に捉えた「縁結び」、「絆づくり」、さらには、小学校を核にした「まちづくり」を進めて行こうとする環境が整った地域と言える。

2【事業の概要、特色】

今年度の岡山小学校のめざす子ども像は、**お**—おもいやりのある子 **か**—かんがえる子 **や**—やる気のある子 **ま**—まなびあう子である。

これらの教育目標を受けて、本事業では地域と連携しながら、事業を進めてきた。

子ども達が将来の希望や夢の実現に向けて、教職員と学校支援ボランティアの方が、子ども達の「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成という、共通の願いに向けて一緒に活動することは、学校と家庭・地域の信頼関係を深めることにも繋がる。

これは、保護者だけでなく、地域に暮らす全ての大人の願いでもある。

また、学校支援ボランティアの方々にとっては、培ってこられた知識や技術、経験を発揮する場となるとともに、活動を通じて自らの生き甲斐や、人と人との繋がりを築いていくことにもなり、生涯学習の機会になると考える。

学校支援ボランティア活動の更なる広がりを通じ、未来を担う子ども達の育成と、地域の教育力の向上、地域の活性化に向けた環境づくりを進める。

《具体的な活動の様子》

本校では、本事業を受託する前からも学校支援ボランティアが関わる内容は多く展開されてきた。

①**ブラスバンド活動**

ブラスバンド活動は、昭和56年に滋賀県で開催された「琵琶湖国体」以前から編成されたのが始まりで、以来、今日まで33年の歴史を刻んでいる。この活動は、6年生全員が総合的な学習の時間に取り組み、

秋季運動会や校内の諸行事、学区体育フェスティバル等で発表している。

今年は、校区の奇妙な方の寄付金で、楽器や衣装が新しくなり、運動会でお披露目もあった。

この6年生の晴れの舞台は、会場を熱気に包み、低学年の児童さえ「私も6年生になったらトランペットを吹きたい。」と心揺さぶる。

また、本校の保護者や祖父母の中には、ブラスバンド経験者の方々も多く、親子のみならず、家族に共通した話題へと発展し、一家の絆を深める役割も果たしている。

②**生け花ボランティア**

毎週学校の正面玄関には、60代の女性ボランティアさんによる美しい生け花が飾られる。生け花の側には、花の色に合わせた色鉛筆で花の名前が記されている。

子ども達は、紙に記された花の名と、生け花の花を見比べ、友達と話し合う姿も見受けられる。

③**天井アートボランティア**

生け花の飾られた、正面玄関の奥の天井や壁面には、季節ごとに自然や「節気」・社会情報等に関わる、手作り作品が展示される。例えば12月はクリスマスを迎えるため、サンタクロースの衣装や、廃材を利用したトナカイ、トレイを再利用した星々が煌びやかに飾られている。なでしこジャパンの輝かしい活躍のスポーツ新聞や、数々の手作りブラックボックスも子ども達の人気の場所である。

④**お話玉手箱ボランティア**

毎週水曜日の始業前に、各学級で教職員とローテーションを組みながら、毎回6～7名のボランティアさんが、本の読み聞かせをしてくださる。

どの学級も、子ども達は真剣に静かに聴き入っている。

読み聞かせ後、コーディネーター室に集まったの話題は、次回の本の話題や情報交換等、ここでも地域の温かい絆が生まれている。そして、「子ども達から、元気をもたらえて嬉しいです。」との声がしばしば聞かれる。

⑤**図書ボランティア**

図書の整理や修繕、飾り付け等子ども達が図書室に魅力を感じ、多くの本との出合いを楽しんでもらうための工夫を懲らして下さっている。17名のボランティアさんが週1回午前・午後の2グループに分かれ活動している。

ここでも、入り口には季節の飾り物や新刊本の紹介等、楽しい工夫が見られる。

また、市立図書館ともよく連携され、研

修会にも積極的に参加されている。

## ⑥その他のボランティア事例(一部抜粋)

- ・校内環境整備 (PTA)
- ・スクールガード
- ・スクラム教室 (各学年)
- ・楽しい理科学習 (毎週火曜日 6年)
- ・英語活動 (5・6年)
- ・泥んこドッジボール大会 (公民館と共に)
- ・通学合宿 (4年以上有志公民館と共に)
- ・田んぼの子活動  
(5/2年田植え・稲刈り・収穫祭)
- ・河童応援団 (全学年水泳インストラクター)
- ・親子資源回収 (年2回)
- ・ゴミ探検隊 (4年 クリーンセンター・パッカー車)
- ・1年生を迎える会 (民生委員)
- ・岡山のお宝見つけツアー (3年)
- ・畑の名人 (夏野菜の育て方 2年)
- ・デンブンの学習 (6年市内理科研究会)
- ・ガラス細工 (2年PTA)
- ・大工名人さん訪問 (2年)
- ・ソロバン学習 (4年)
- ・エプロン製作 (5年ミシン学習)
- ・ナップサック製作 (6年ミシン学習)
- ・障害児者理解 (4年おうみ作業所長講話)
- ・コスモス探検 (2年大房町)
- ・金管コンサート (大阪プラスバンド)
- ・託児ボランティア (学習参観・期末懇談会)
- ・歯の健康 (5年歯科医)
- ・秋の宝物で工作 (1年地域住民)
- ・干拓事業 (4年青山氏の承水溝の話)
- ・ようこそ先輩 (6年山本氏の人権学習)
- ・おうみ作業所の見学 (4年)
- ・盲導犬と共に (4年原田氏とダグラス君)
- ・エコ学習 (5年理科  
県地球温暖化防止活動推進員 深尾氏 柏氏)



▲LED体験



▲ソーラー発電

- ・アイヌ学習 (4年アイヌ人居壁氏の生き方に学ぶ)
- ・認知症理解学習 (4年福祉教育  
市健康推進員16名)
- ・おばあちゃんのたんじょうび (1年福祉教育・幼稚園保護者5名のペープサート)
- ・校内マラソンボランティア (10名)
- ・平和学習 (6年 中国出兵者西川氏の戦争体験談 市内小中校関係者参加)
- ・大志を抱け (6年宮大工の重田氏の講話)
- ・高校生の夢 (6年 現役高校生の講話)
- ・体と心の健康 (4~6年保健学習  
助産師の講義)
- ・スキー教室 (5・6年 保護者有志)
- ・昔の遊び (1年生活科 祖父母)
- ・その他  
幼稚園や養護学校・福祉施設等との交流

## ⑦子ども達の感想 4年生のアイヌ学習より 居壁さんに出会って

アイヌの人は、毛が多いのでアイヌの人とわかるって言うけど、アイヌじゃない人も、いっぱい毛がある人がいるのに、くさいからあっちへ行けとか、おかしを売ってもらえなかったりしたのはかわいそうだった。人間に役立つものはすべてカムイ(神)とっていて、ぼくは、そんなこと思ったこともなかったです。ぼくは、人を助けてあげられる人になりたいです。自分もきずつきたくないし、人にもきずついてほしくないからです。これから、人がきずついていたら、助けてあげたいと思います。ぼくも、人をきずつけないように努力してがんばります。 中井 健登



アイヌの人は、すごいと思いました。なぜかというアイヌというのは、私は神にはじない人間という意味だからです。アイヌモシリが、日本人(和人)に勝手にとられ、さけをとったり、しかをとったりしたらダメと決められて、名前も日本風にかえられてとてもかわいそうでした。それでも、そんなことをした人たちをうらまないのですごかったです。また、その後も差別されたそうです。わたしは、自然を大切に、人を助けてあげられて、差別をしなくて、ありがたい気持ちを持っている人になりたいです。 山内 咲奈

## 3【事業の成果】

多様なボランティア活動を、学校教育目標の一助として取り組んできたことは、子どもたちの学びの真剣さとともに、ボランティアさん達の充実感も達成してきた。ここには、未熟ながらも学校支援コーディネーターを通して、担任教諭とボランティアさんの綿密な打合せがあったことだと思う。

さらに管理職の先生方の指導と援助が相まって、教員集団の温かさの中にも、教育に対する厳しさの賜物として、子ども達の心を打ち、揺さぶる、本物の教材・人材・話題・文化等が準備されたからだと思う。

ここに、地域住民の発する「おらが学校」が、存在しているといっても、過言ではないと言えるだろう。

## 4【今後の課題】

成果の多いこの事業の継続とともに、カリキュラムの内容との整合性とボランティアの自発性を大切にしていきたい。

さらに、子ども達の姿が見える学校現場に、学校支援地域コーディネーターを配属して戴きたい。

文責 学校支援地域本部事業  
コーディネーター 高木 敏子

## 1【事業の趣旨】

昨年度は、事業継続に向けて、組織の地域における位置づけを模索してきた。その結果、本地域本部は、北里学区まちづくり協議会の「子どもみらい部」に所属することになったとともに、一層地域との連携を深めることができた。

このような中スタートした3年目。教員は、地域コーディネーターが整備した人材バンクを利用するだけでなく、活用し、自らも地域とのつながりを求める実践を目指している。

一方、本年度より全面実施された新学習指導要領は、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視している。そこで、本地域本部を要とし、学校だけではなく、家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育に取り組む体制づくりを一層進めたい。

## 2【事業の概要、特色】

### (1) ボランティアポイントの取組

本年度は、北里商業協同組合の協力を得て、小学校・保育園・幼稚園へボランティアに来てくださった方々に商店街の買い物補助券を渡している。来校いただいた方への御礼をできるとともに地域の商店街の活性化につながる取組として定着を図るように考えている。

**北里学区保幼小ボランティア活動**  
**下期 ボランティアポイント**

お買上げ 1000円分(10ポイント)

- ・ポイント入力期限 平成24年5月31日
- ・キットカード加盟店でご自分のキットカードにポイント入力してもらって下さい。
- ・ポイント入力と引き替えにこのカードを加盟店にお渡し下さい。
- ・朱色角印なき物は無効

**すてきなこと「キット」はじまる！！**

**北里サービス会**

### (2) 校内研究とリンクした実践

本校では、今年度から、総合的な学習の時間と生活科を窓口「自ら求め 考え 発信する子どもの育成」を研究主題とし、校内研究に取り組んでいる。「ゆたかな体験」から「主体的に課題に向き合う子ども」を育てたいと考え、地域の方から学ぶ機会のあり方を工夫したいと考えた。コーディネ

### 【学校支援地域本部名：北里小学校支援地域本部】

ネーターを要にし、過去2年間御指導いただいた方に、教員自らが学習の目的やねらいと照らし合わせて、活用時期や活用方法を決め出していけるよう研究を深めている。地域コーディネーターを中心に地域へ積極的にかかわろうとする教職員集団を目指しているところである。

### (3) 読書活動を軸にした継続的な取組

今年度から落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指し、全校的に毎朝10分間読書に取り組んできた。木曜日には、図書ボランティアの読み聞かせをしていただいているが、今年度、木曜日は朝の打ち合わせをしないで、担任も教室で聞くようにした。また、読み聞かせノートを作っていただき、本の紹介もしてもらっている。図書室の整備をしていただいているボランティアの方は、多い時には、週3回来てくださる。また、地域の方で本の修理をしていただくボランティアの方の協力も得ている。



### (4) 人が繋がる情報収集と人を広げる発信

教職員の意識の向上を目指し、近江八幡市主催の学校支援メニューフェアを教職員研修と位置づけたり、地域の行事に参加したり、地域を歩いたりすることを呼びかけてきた。

また、地域コーディネーターが発行する広報誌「ネット輪〜ク」のみならず、学校便りや学級・学年通信で随時活動を知らせることで、数多く発信してきた。

#### 《実践事例A》グランド芝生化

本校は、今年度、グランドを全面芝生化した。(約1万㎡)6月5日の芝生植えには、18団体540人の支援者が集まってくくださった。地域組織に学校支援地域本部の取組が浸透しているので、呼びかけも地域組織に行うことができた。この活動には、ボランティアポイントも配布された。



### 《実践事例B》6年生平和学習

6年生では、総合的な学習の時間で「北里発地球平和大使」という学習に取り組んだ。学習の始まる9月までに担任と地域コーディネーター・教頭等が協議を繰り返し、単元全体をイメージしながら、ねらいや子どもの活動に沿った地域の方との出会いについて模索した。その結果、次の活動を実践した。

#### ①北里学区にある戦争を語るものを探そう

子ども達が、家で聞き取りをしたり、共同墓地や忠魂碑等を調べた後、地域の人に話を聞こうということで、地域コーディネーターと関わりのある戦争時代のくらしに詳しい方に来ていただき、話を聞くことになった。今回は、ただ、話を受け身的に聞くのではなく、自分達の調べたことを発表して、まだわかりにくい事を質問する「対話」形式の授業を仕組んだ。

#### ②戦時中のくらしを体験しよう

地域の戦争時代を調べていく中で、食について関心を示す子どもが多くなったところで、調理を体験することにした。前もって、担任が地域の方で当時の食事を再現できる人を探し、当日学区内の2人に来ていただいた。大根飯とすいとんをつくる事を通して、当時のくらしに迫った。

#### ③太平洋戦争について知ろう

広島への修学旅行を経て、原子爆弾や空襲などを学んだ子ども達は、自分たちができる平和への取組を考えるようになった。そこで、地域の方で戦争に行った人等からも話を聞くため、「平和を考える集い」を持つことにした。来てくださった3名は、地域コーディネーターが参加している「戦争にかかわる学習会」の代表を含む方々である。事前の打ち合わせで、話をするだけでなく、質疑応答・自由討議ができるような場をつくることを確認した。

### 《実践事例C》

子ども体験活動とわんぱく塾の共同開催本校では、教育課程外の教育活動（主に土曜日、2ヶ月に1回程度）を実施している。今まで工作やもちつき体験・炭焼き体験等を実施してきた。また、学区のまちづくり協議会の子ども未来部では、コミュニティセンターで行う行事として子ども体験活動がさかんである。（なれ寿司作り・生け花体験等）そこで、今年度は、共催する行事をもつこととした。そのひとつが、フラッグフットボール教室である。地域の方を含めた指導者に来ていただき、小学校の芝生グラウンドでたくさん子どもが新しいスポーツに親しんだ。

### 3【事業の成果】

#### (1)地域ぐるみで取り組む

今年度は、教育活動に協力いただいた方に御礼の手紙等子どもの作品の他に、ボランティアポイントを渡すことができた。（現保護者を除く）来てくださった方々は大変喜ばれていた。ポイントのおかげで、学校からの感謝の気持ちを表すことができたとともに地域の活性化につながったのではないかと考えている。

#### (2)地域の方から学び地域へ発信する

校内研究とリンクした実践を深めることで、単に話を聞いたり、教えていただいたりするだけでなく、自分から課題を持って地域の方との関わりを大事にする子どもの様子がうかがえるようになった。6年生では、学習のまとめとして北里平和資料館を昇降口につくり、保護者や学校評議員の方々を始め、多くの地域の方に参観いただいた。4年生では、今までお世話になってきた人の中から自分で選んで手紙を書く取組もできた。

#### (3)キーステーションとしての図書室

本校、図書室はこの1年間で大きく変貌した。ボランティアの方々が、部屋のレイアウトや飾り付けまでしてくださり、子どもが訪れる機会も増えた。また、読み聞かせも一段と工夫が加わった。学校が今年重点課題に対する具体的方策として一番に掲げてきた「読書習慣の確立」を推進できた。図書室での話し合いから生まれた活動もいくつもあった。

### 4【今後の課題】

3年目を経過した今、教職員一人ひとりが地域本部担当者として動ける組織づくりが求められている。教職員が地域に愛着をもち、地域とともに子どもを育てるための事業として改めて捉え直すことによって更なる充実を図っていきたい。

## 1【事業の趣旨】

本校は、要・準要保護や一人親家庭の児童が共に 1/4 以上を占め、家庭の教育力も十分とは言えず、生活や学力に重い課題をもつ児童が多く在籍している。また、近年児童数減少による学年単学級が増え、担任一人での教科学習、生活指導、行事の計画・調整などの業務が増加し、子ども一人ひとりに向き合いきめ細やかな指導をすることが難しくなっている。

そこで、教員が子どもと向き合う時間の拡充と地域全体で学校を支援することをめざし、一昨年度から本事業を実施してきた。学校を地域の人の力を発揮する場として位置づけ、地域の目が子どもに注がれることで、「地域の子どもを育てる」ための地域教育力の向上をめざすものである。

## 2【事業の概要、特色】

本校では、この事業以前から田んぼや畑のボランティア、地域の文化や歴史について「ゲストティーチャー」としての支援、また、毎年児童会行事『子どもまつり』に参加して下さる地域の方がおられた。一昨年から事業の展開により、たくさんの方がボランティアとして学校の取り組みに参加して下さるようになった。

保護者のボランティア登録者が少ないという昨年度の反省から、昨年度登録された方は引き続き登録していただくとともに、再度全保護者へ登録を呼びかけ、今年度は 89 名の方に登録していただいた。また、本校ではスクールガード（約 120 名）についてはこの事業とは別に活動を依頼している。現在、学校が地域の方の力を発揮できる場になっていて、今年度もたくさんの支援を受けることができた。

### ◆ 活動の紹介

- ・ボランティア室の設営（拠点づくり）  
活動の事前・事後の様子を話し合ったり、時には教育や生活について語り合ったりする憩いの場となっている。

- ・「ボランティア通信」の発行  
（「学校だより」といっしょに支援ボランティア・教職員に配布）
- ・活動内容を伝える掲示物の作成（児童用）
- ・4つの大きな活動内容
  - ①学習支援（読書・体育・家庭・音楽・社会・生活・総合学習）
  - ②環境整備（畑・田・花壇・運動場・学校・図書室・家庭科室など）
  - ③クラブ（バトミントン）
  - ④行事（子どもまつり・運動会など）

### 〈事例1〉家庭科の支援

今年度も、5年生の『玉どめ・玉結び・なみぬい』の基礎縫い・『小物作り』・ミシンを使っての『エプロン作り』・『ゆで野菜のサラダ作り』・『ごはんのみそ汁作り』、6年生の『ナップザック作り』・『朝食に合うおかず作り』・『家族へのプレゼント作り』（2月）・『お弁当作り』（2月）など、家庭科ボランティアさんにたくさんの御支援をいただいた。担任一人だけでは個別指導が行き届かないところに常時7・8人の支援参加があり、「針や布の持ち方」「裁ちばさみの使い方」「糸の始末の仕方」「アイロンのかけ方」「包丁の持ち方」「野菜を入れるタイミング」など家庭科実習に関するコツをしっかりと習得させることができた。また、子どもたちの学習意欲を高めることができた。そのほか、1年生の『サラダ・お団子作り』・『クリスマスケーキ作り』・『ぜんざい作り』・『おでん作り』（3月）など家庭科以外の活動にも保護者と一緒に参加していただき、ボランティアの輪が広がっている。



### 〈事例2〉体育『水泳』の支援

今年度は、2名の水泳ボランティアさんが1年生から6年生までの指導にきてくださった。「今日は一日プールにつかりっぱなしやった。」とボランティアさんが言われる

ほど、暑い中、熱心に指導していただいた。おかげで低学年では顔つけやふし浮きができるようになり、中高学年では息つきや平泳ぎの足のけり方が上達し、それぞれ個別指導の成果があらわれた。



### 〈事例3〉花壇作り

犬小屋を撤去した跡地に花壇を作りたいとお願いしたところ、ロコミですぐに10人ものボランティアさんが集まってくださった。花作りの得意な方たちばかりで、腐葉土や肥料入れ・パンジーとビオラの苗植えなど、手際よくあっという間に作業を終えステキな花壇ができあがった。また、ほかの所まできれいに整備し葉ボタンの苗を寄付していただくなど、手厚い支援をいただいた。

### 〈事例4〉たけのこ掘り

今年度は、1年生と6年生の交流遠足で地域の広場に出かけ、竹藪でたけのこ掘りを体験させていただいた。1年生と6年生がペアを組み10人のボランティアさんの協力も得て、たくさんのたけのこを収穫することができた。子どもの感想に「大きいたけのこより小さい方がおいしいことを初めて知りました。」とあり貴重な体験となった。また、土の中からカブトムシの幼虫がたくさん出てきて学校で飼うことになり、来校された他のボランティアさんから飼育の仕方を助言していただくなど交流が広がった。



いことを初めて知りました。」とあり貴重な体験となった。また、土の中からカブトムシの幼虫がたくさん出てきて学校で飼うことになり、来校された他のボランティアさんから飼育の仕方を助言していただくなど交流が広がった。

### 〈事例4〉どろ料理

5年生の総合学習で『地域のお宝発見』

と題して食肉センターの見学に行ったあと、地域の方をゲストティーチャーに招いて、すじ肉や小米を使った地域の名物「ど



ろ料理」の作り方を教えていただいた。子どもたちはおいしくて何杯もおかわりしていたが、昔の人の知恵と工夫に感心し、郷土のすばらしさにふれる学習となった。

### 〈その他〉

今年度、図書室に新しいパソコンソフトを導入し、7,500冊の図書登録・バーコード貼り・図書の整理などをしていただいた。また、朝の読書指導、地域学習、外国の文化、クラブ活動、運動会等学校行事時の駐車誘導など、幅広い活動にボランティアの輪が広がってきた。そのことによって、子どもたちは「地域の人たちからも大切にされている。」という実感を持つことができるようになった。そのお礼として運動会や音楽会やパーティに招待したり手紙や年賀状を書いたりして感謝の気持ちをあらわしている。

## 3【事業の成果】

きめ細やかな指導が行き届くことで、子どもたちにとってはわからないことや困ったことがすぐ教えてもらえるので、「わかる」「できる」ようになり学習や活動への意欲が高まる。また、地域の人を身近に感じるようになり、地域の方も人の役に立つ「喜び」「生きがい」につながっている。教師もボランティアを活用した取組を幅広く行うようになった。地域に住んでいながら昨年度まではあまり地域とつながりがなかったコーディネーターとしては、今年度前任者からこの役割を引き継ぎ、さまざまな人と出会いボランティアの大切さを学ぶことができた。

## 4【今後の課題】

今年度、多くの方に支援をいただいたが、登録したもののまだ活動されていない方がおられ、さらなるコーディネートの充実が必要と反省するところである。前述のような効果もあり、学校のさまざまなニーズに対応するコーディネーターの役割は大きい。今後もこの事業が継続されることを願う。また、この事業が終了しても地域での支援活動が続くよう、システムの「要」となる人材を発掘し、ボランティアによる自主的運営体制をつくる必要があると考える。

## 【学校支援地域本部名：八幡西中学校支援地域本部】

## 1 【事業の趣旨】

## 《目的》

中学校現場においては、教員の多忙化により、生徒指導や教育相談など、個々の生徒に対してきめ細やかな指導をする時間の確保が難しくなっている。

例えば、本校において、不登校生徒や不登校傾向を示す生徒、保健室や別室で一日を過ごす生徒、さらに、学校には来ているが、授業や教室に入れない生徒、学習についていけず学習意欲をなくしている生徒、怠学で学校に来ていない生徒などに対して、さまざまな対応が求められている。

また、個人を優先したものの考え方や、人間関係の希薄さなどが、地域の教育力の低下につながっており、本校でも教育課題のひとつになっている。

そこで、このようなことを踏まえて地域全体で学校教育を支援し、地域の人材を活用することで、教員と地域住民との交流の機会をつくり、学校と地域の連携を深めるとともに、教員と生徒が向き合う時間を充実させることをめざす。そして、生徒自身にも地域に住むひとりとしての自覚を持たせ、地域の活性化に寄与することを目的とする。

## 2 【事業の概要、特色】

- (1)平成23年度八幡西中学校教育協議会の設置(4月)及び、役員の一部改選と協議会の開催(4・8・12・1月)
  - ◎支援活動実施計画の策定と実施要綱の広報活動及び、ボランティアの募集活動を行う。
- (2)学習支援活動の実施(5～3月)
  - ◎不登校傾向を示す生徒及び、保健室登校の生徒の学習支援を行う。学習できる部屋の確保と学習教材の調達及び、学習支援ボランティアの人材の確保をする。
  - ◎読書活動の一環として図書館の利用を活発化させるため、図書の整理と拡充及び、図書の管理(製本・修理・登録・廃棄など)を行う。
- (3)部活動支援活動の実施(4～3月)
  - ◎前年度から指導にあたっていただいている部については、引き続き指導をお願いし、今年度から新たに指導を願う部については、広報活動を行い、地域人材を活用して指導していただく。
- (4)各種学校行事への支援
  - ◎PTAとの協力の下、行事内容に詳しい卒業生の保護者(PTAのOB・OG)

- や八幡西中学校に興味関心のある地域の人たちに参加を依頼する。
- (5)補導活動及び、登下校時のパトロール
  - ◎少年補導員の指導の下、主に長期休業中の街頭補導活動(昼間・夜間)や不審者に対する予防策として登下校時の安全パトロールを実施する。
- (6)環境整備活動への協力支援
  - ◎県下一斉で行われる環境活動(年間3回)に取り組む。また、PTA本部やPTA環境整備部と協力し、校舎の美化活動や花植えなどを行う。
- (7)地域コミュニティセンターとの共同事業への参画
  - ◎桐原学区コミュニティーセンターの事業である「地域花いっぱい運動」の拠点となり、季節の花の育成と栽培及び、地域施設への頒布を行う。
- (8)事業成果報告会の実施
  - ◎本年度の学校支援事業の実施状況や活動成果及び、次年度に向けた取り組みについて報告する。

※本年度は(3)(4)及び(6)を中心に取り組む。

## 3 【事業の成果】

- (1)部活動支援活動の実施
 

部活動については、毎年、力強い御指導や御支援をいただいています。23年度、御支援いただいた部活動は、軟式野球部・ソフトボール部・男女軟式テニス部です。ほぼ、1年を通してお世話になりました。これらの部活動の支援員さんについては、学校支援地域本部を立ち上げる以前から、御支援をいただけてきました。普段の部活動での指導はもとより、練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指示を出したり、指導をしていただいています。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、精神面や生活面でも指導していただいています。



ノックをする支援員さん



部員を指導中の支援員さん

生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導や維持が難しくなっている中で、支援員さんによる部活動支援は、生徒の部活動を保障するとともに、学校の活性化にもつながります。

今後も、これらの部活動については、御指導や御支援を継続してお願いすることになりました。

#### (2)の各種学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんにしていただきました。

30周年記念事業の一つとしてホームページを一新していただき、好評を得ています。その更新作業も、職員ではなかなか難しいのですが、支援員さんにより定期的に更新をしていただいています。

#### (3)環境整備支援

平成23年度は、本校創立30周年にあたる記念すべき年です。11月19日には記念式典を多くの来賓や地域の方々をお招きし、保護者、生徒とともに盛大に開催することができました。

今年度は、支援員さんに、記念式典に合わせて、本校中庭の花壇を中心とした花植えの計画を立案していただきました。また、30周年記念事業の一つとして、支援員さんとPTAによる環境整備事業と位置づけ年間を通して計画的に取り組んでいただきました。

大きくは、夏休みの一斉除草作業と、記念式典2週間前に行ったビオラとパンジーのプランターへの花植え活動(式典当日、体育館への渡り廊下にプランターを並べて花道としました。)をPTA本部・環境整備部と支援員さんとの合同で取り組み、除草や水やりといった日常のお世話を支援員さんにしていただきました。

支援員さんには、暑い夏の日も寒い冬の日も、休みの日も欠かすことなく水やりや草取りに来ていただき、終われば私たち職員に声をかけることもなく黙って帰られる姿には頭の下がる思いでした。また、中庭の草刈り機による除草も、休日の早朝に2度していただきました。

中庭の花壇には、ミニひまわり、アリッサム、マリーゴールドが植えられ、黄や白、ピンク、オレンジと色とりどりの花が、花

道としたプランターのビオラやパンジーとともに、30周年記念式典当日を美しく彩りました。

正面玄関の植え込みも、1年を通して計画的にさせていただき、5月から途切れることなく、美しい花の数々が本校を訪れる方々の目を楽しませてくれました。

ナスタチウム、百日草が春から夏にかけて、7月にはミニひまわりが、そして、式典当日には、ストックと桜草が鮮やかにピンクの花びらをつけ、来校された来賓の方々を出迎えました。

3月の卒業式、4月の入学式の頃には、さらにチューリップが花を咲かせ、ストック、桜草とともに、ピンクのグラデーションで華やかに彩る予定です。

また、中庭の校長室に面した花壇にも同じようにチューリップ、ストック、桜草が植えられ、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様の目にも届くようにと、細やかな心配りをいただいています。

他にも、記念式典に合わせ、生徒昇降口前のひさしの天井部分やタイルの目地を、高压洗浄機を使って、休日の早朝から清掃作業をしていただきました。



“昇降口を清掃中の支援員さん

#### 4【今後の課題】

学校支援地域本部事業を立ち上げ3年目になる。今年度は、諸事情からコーディネーターの設置を見送ったが、過去2年間支援をいただいた方々や、それ以前から本校に関わり、支援をいただいていた方々から、今年も変わらぬ支援を、あるいは今まで以上の支援をいただいた。確かに実際に支援いただいた人数は昨年度より減少したものの、これは定着という意味では、過去2年間事業を続けてきた成果であると考えている。

しかし、地域の人や、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを今年も痛感する。そこには思ったように人を集められない現実がある。さまざまな原因が考えられるだろうが、一言で言うとやはり中学校の敷居は高いようである。

特に別室登校生徒等の学習補助など、直接生徒に関わる支援については保護者ではなかなか難しい。生徒にとって身近な存在になる本校卒業生の大学生の掘り起こしが必要であると考えている。若者から、年配の方々まで、幅広い年代の方々が学校に関わっていただけるように取り組みたい。

## 【学校支援地域本部名：老蘇小学校支援地域本部】

## 1 【事業の趣旨】

本地域は豊かな自然に恵まれた田園の広がる農村地帯である。近年宅地開発もなされ、新しく若い世代の流入も見られる。

本校は全学年単一学級であるため、担任一人が、教科学習、生活指導、行事計画の調整業務等にあたらなければならない、多忙である。そのため、個々の教育や一人ひとりに向き合う指導が難しくなっている。

そこで、本年度学校支援地域本部事業指定を受け、教師が児童と向き合う時間の拡充と、地域全体で学校を支援することをめざし、4月より本事業を実施することとなった。

学校を地域の人の力を発揮していただく場として位置づけ、地域の子どもを育てる地域教育力の向上をめざすものである。

## 2 【事業の概要、特色】

- (1) 本年度よりボランティア募集を行い登録をしていただく。
- (2) 授業における活動年間計画に沿って支援者の依頼をする。
- (3) 情報の発信  
2学期よりボランティア通信を月一度の割合で発刊し、地域に回覧の形で配布し、活動の周知を計る。
- (4) 活動の紹介
  - ・以前より活動をされているグループ「くすくすさん」は毎週水曜日朝に読み聞かせ活動を積極的に取り組んでいただいている。
  - ・交通安全教室において、学区内コースの歩行、自転車走行時の監視、見守り。
  - ・縦割り遠足への随行
  - ・農業関連（菜の花、さつまいも、玉葱）の作物生育の支援

- ・学校花壇の整備、中庭の清掃
  - ・マラソン大会での監視、見守り等
- 地域の方々の学校教育にたいする思いは暖かく協力し、支援いただいている。また、学年別に見てみると

## 1年生

- ・いちごの苗の植え付けの支援
- ・道徳のお話を紙芝居を通して学習支援

## 2年生

- ・たけのこ掘り



- ・地域めぐりの随行支援

## 3年生

- ・いちご園の見学、たまねぎ植え
- ・地域のお店やさんにお話を聞く

## 4年生

- ・西の湖学習の支援、菜の花学習



## 5年生

- ・水田学習、ブロッコリーの収穫体験
- ・地域の工場見学をさせていただく。
- ・救急救命士の方に東日本大震災のお話を聞く

## 6年生

- ・ほんものの文化にふれる茶道体験をさせてい

ただく。その後、茶碗製作をする。(滋賀県次世代文化芸術センターとの連携支援による)

- ・獣医さんによる生き物とのかかわり方と命を守る大切さについてお話を聞く

(5年生)



(6年生)



- ・老蘇小学校オープンスクールデーにびわ湖フィルハーモニー、地域の老人クラブ、営農組合、保護者の方の支援で、オーケストラ、おにぎり作り、餅つきをしていただいた。また、しめ縄つくりやグランドゴルフを教えていただいた。



### 3 【事業の成果】

環境整備においてボランティアの方に自発的に取り組んでいただいている。

子どもたちがボランティアの方とより深いふれあいができるようになってきている。

ボランティアの方にとっても培ってこられた技術や経験を子どもたちに教えることにより生きがいや充実感を得ることにつながっている。

### 4 【今後の課題】

- ・支援活動を継続していただくためにボランティアの方を広く募集し登録の推進をはからなければならない。
- ・教職員の要望に応えられるようなボランティアの方を発掘していく。
- ・登録されているボランティアの方と教職員との連携がうまくいっていない場合、しっかりと周知し連携できるようにしていかなければならない。
- ・将来的には組織として動くことができる核作りをしていかなければならないと考える。
- ・学校の教育課程の中で総合的な学習の時間の意味合いを多く含む学校支援本部事業の取組を教育課程と整合し、系統立てていくことが今後、重要だと考える。



## 【学校支援地域本部名：安土小学校支援地域本部】

## 1 【事業の趣旨】

昨年度まで「安土地域子ども支援推進本部」として、保育園や幼稚園、小中学校などの6校園を対象に、広域にわたる事業展開をしてきた。地域における人と人とのつながりが希薄化し、子育てや青少年の育成に関する地域の教育力の低下が叫ばれている現状。また、年々課題が多様化することによる教職員の負担の増加などに対して何らかの手立てや工夫が必要となってきた中で、事業であった。

今年度については、本校に配置されたコーディネーターを核として、体制の組み直しに努力してきた。

学校での学習活動や校外学習などの直接的な支援、生徒指導や生活指導などの側面からの支援も含め、教職員が子どもとゆとりを持って向き合うことができるよう、また、地域の多くの方にも学校を支えながら持つておられる力を発揮していただける場として位置づけ、事業を進めたいと考えたのである。

この取組が、学校の教育力を大きなものとすると同時に、地域の教育力を向上させることにつながるものと考えているのである。

## 2 【事業の概要、特色】

## (1) 概要

基本的には、昨年度までに安土地域でボランティアとして登録された方を引き継ぐ形でスタートした。昨年度までは学習活動とは直接関わらない環境整備作業や行事での支援活動が中心であった。今年度は、学習活動に関わることでその支援を組み込みながら、児童と触れ合う機会を少しでも多く持つように考えた。

1月現在で、約130人に活動していただいている。

## (2) 主な活動

- 学習支援
  - 読書・生活科・社会科・総合的な学習の時間
- 環境整備
  - 田畑・運動場
- クラブ活動
  - 茶道
- 行事
  - 安土っ子フェスティバル・講演会等の託児

## (3) 特色

学校とボランティアの方々との連携を深めることよりも、教職員とコーディネーターとの連携強化を図り、学習活動においてどんなボランティアが必要なのか、どのような形で子どもたちと関わっていただくのか、などの学習計画と、コーディネーターの持っている情報について、日常的に交流しやすい環境を作ることが大切であると考えた。

年度当初は、職員がコーディネーターにどんなことを依頼すればよいのか戸惑いがあったが、徐々に連携がスムーズにとれるようになっていった。

まだまだ継続して取組を展開されている先進校のような積み重ねはないが、改めて本学区にはすばらしい力を持たれた人材がたくさんおられ、たくさんの方の支援をいただきながら学習活動を進めることができることに感謝している。

## 〈事例紹介1 =お話ボランティア=〉

本校では、ほぼ毎週木曜日の朝、始業前の時間帯で「お話ボランティアサークル『よきよき』」の皆さんに読み聞かせをしていただいている。この活動は以前からあり、子どもたちにも定着している。毎週8学級ずつ、子どもたちの発達段階や興味関心、季節などを考えての本を読んでくださ



っている。また、昼休みには、郷土の自作紙芝居なども紹介していただいている。

子どもたちの生活に、本や読書が自然と位置付き、11月の読書月間では、1月に5冊以上読書した児童の割合が95パーセント、10冊以上読書した児童の割合は69パーセントにもなった。

子どもたちが本を読んでもらうことをきっかけにして、自分から進んで読み広げることにつながっている。

#### 〈事例紹介2 学習支援〉

各学年ともに、多くのゲストティーチャーをお迎えしての活動を進めることが出来るようになった。

たとえば、1年生の昔遊び大会では、106名の児童に対して、23名の昔遊び名人が来校され、若いも若きもともに楽しく充実した時間を共有することが出来た。そのとき子どもたちが名人の方々を見つめるまなざしは、尊敬の気持ちでキラキラ輝いていた。



また、3年生の昔の暮らしや当時の道具などの学習では、14名の博士が3学級に別れて、子どもたちが知らない昔のことをとても新鮮に語っていただいた。



#### 〈事例紹介3〉

＝運動場芝生の散水ボランティア＝

本校は、昨年度の6月にポット苗方式による運動場総芝生化を実施した。今年度は2シーズン目を迎えたが、夏の厳しい暑さの中での水やりは大変なものである。

この水やりについても、保護者や地域の方、老人会、グランドゴルフ協会の方々が散水ボランティアに手を挙げていただき、

夏休みのほとんど毎日協力を得ることが出来た。

### 3【事業の成果】

昨年度までのように安土地域としてこの事業を展開しているのと異なり、学校の中にコーディネーターが配置されていることにより、担任の思いや要望が伝えやすくなった。また、支援して下さる多くのボランティアの方々と出会い、触れ合うことができる機会が増えたことは言うまでもない。

子どもたちにとってみても、地域の方々を身近に感じ、コミュニケーションを取ることに対する抵抗感も小さくなったように感じた。

多様な形で学校を支援していただくということが、子どもに向き合う教師のゆとりにつながることはもちろんだが、子どもも含めて、人と人とがより深くつながり合う事業でもあったと感じる。

さらに、学習意欲の高まりや子どもたちの読書活動の広がりなどにつながって来たことが大きな成果だと感じている。

### 4【今後の課題】

- ・今後、さらに多様な形での学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくことが求められる。また、ボランティアの方々や地域の方々に、多様な活動を通信などで発信していくことによる理解と協力の輪の拡大を期待している。
- ・コーディネーターを核として、ボランティア活動が定着していくためには、登録された方々に対して定期的にニーズに応じて活躍する場がなければならない。このことを考えると、その場その場、必要に応じて場を設定するものと、年間を見通して、一定の活動を計画していくとのバランスも考えていく必要があると考える。
- ・子どもたちとのふれあいの場がさらに膨らんできたとき、行事への招待状をボランティアの方々に送って、ともに参加していただいたり、学習発表の機会に聞いていただいたり、双方向の交流が深められたらと考えている。
- ・学校に対する支援の活動以外にも、ボランティアの方々の研修会の計画や交換会などの実施も必要になってくると考えている。

### 1【事業の趣旨】

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校」づくりを進めている。

しかし、近年、地域における人と人との繋がりが希薄になる傾向があり、これが中学生に関わる地域の教育力の低下にもつながっているのも事実である。

このことは、本校の校区についてもその傾向が見られる。市内4中学校区の中で、本校区は最も小さく地域の方々はおおむね学校教育に協力的であるが、近年は新興住宅地も増え、また、家族の形態にもさまざまな形が見られ、従来から多くあった祖母や地域の関わりの中での子育てや教育力が弱くなっている現実もある。

以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。例えば、毎年2年生で行っている「職場体験」では、商工会等の協力のもと校区内の事業所での受入を原則に進めており、職場体験の中で生徒たちと地域の方々の結びつきやお互いへの関心を高めあうことを推進している。また、一方では、保護者や地域の方々に学校に来ていただき、生徒たちや学校の様子を見ていただく機会として毎年1月に一週間の「学校公開週間」「オープンスクールデー」を開催している。

そのような中で、地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで本校が掲げる、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりもさらに進むはずであると考える本事業に取り組んできた。

### 2【事業の概要、特色】

近江八幡市との合併一年目の昨年度は、安土地区中学校1校、小学校2校、幼稚園2園、保育園1園を対象に本事業が行われ、支所にコーディネーターが配置されていた。

しかし、今年度は各校で本事業に取り組むことになり、それぞれに担当コーディネーターが配置されている。

そこで、本校ではまず中学校対象のボランティアの再登録からする必要があった。

4月当初から、コーディネーターを中心にボランティアの再登録作業と新規ボランティアの発掘を進めた。その結果、下記のようなボランティアの方々の登録をお願いすることができた。

#### ①環境整備ボランティア（32名）

中庭や校舎周辺の植栽の剪定・除草作業。また、必要に応じて他の学校環境整備に関わる支援活動。

### 【地域本部名：安土中学校支援地域本部】

#### ②読書活動ボランティア（10名）

毎月1回の読みきかせや図書の整理など、図書に関する支援活動。

#### ③茶道ボランティア（10名）

本校の特色ある教育活動の1つである茶道体験学習に関わる支援活動。

以上52名の登録があるが、それ以外にも学校や教員の要望に応じて地域の人材の中からボランティアを要請している。今年度は以下の活動を行うことができた。

### 【環境整備活動】

本校には中庭に和風庭園があり、その一角に茶室「天正庵」が建てられている。ツツジや松、モミジ、桜などの豊かな植栽が見られるが、その手入れが大きな課題となっている。また、同時に校舎周辺や敷地内に植えられている1000株以上の紫陽花の手入れにも悩んでいたところである。



ボランティアによる紫陽花の剪定

- 6月13日（月）  
中庭の植栽の剪定と除草活動  
ボランティア参加13名が参加
- 7月11日（月）  
紫陽花の剪定  
ボランティア12名が参加  
活動終了後に懇談会を持ち、意見交換を行う。
- 3月上旬（予定）  
中庭の植栽の剪定と除草

### 【茶道体験】

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長が茶道をこよなく愛したと言われている。また、その信長がお茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。

そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の1つとして、茶道体験学習を行ってきた。毎年1年生は全員が和室と天正庵を活用し茶道体験学習を行い、お茶の作法を地域のボランティアより学び、2人1組で実際にお茶を点ていただくという体験まで行っている。また、部活のない水曜日の放課後には、学

期に1回、希望者向けに茶道体験教室も開催している。さらに今年度は、本校の文化祭である「天正祭」において、保護者向けの茶道教室を開催した。当日は、事前予約の方々を含め62名もの参加を得、大変好評であった。



天正庵での茶道体験学習

- 6月13日(月)  
茶室「天正庵」の掃除と燻蒸ボランティア3名が参加
- 6月29日(水)  
天正庵で裏千家ボランティア3名による茶道体験教室  
生徒12名が参加
- 9月28日(水)  
天正庵で煎茶三井古流ボランティア3名による茶道体験教室  
生徒5名が参加
- 10月15日(土)  
本校文化祭「天正祭」での保護者向け茶道体験  
PTAとの連携  
裏千家ボランティア3名  
煎茶三井古流ボランティア3名  
保護者や地域の方々62名が参加
- 11月8日(火)  
茶室「天正庵」の掃除と燻蒸ボランティア2名が参加
- 11月16日(水)  
和室と天正庵での1年生全員を対象とした茶道体験学習  
裏千家ボランティア8名

----- 生徒の感想 -----

お茶はとても温かく、心が落ち着いた。お茶を点てる機会がめったにないことなので貴重な体験ができた。相手を思いやる心は大切にしたい。昔からのやり方で天正庵に入った。刀など身につけたものを全部とり、無になって茶室に入ることも学びました。

- 3月初旬(予定)  
天正庵で茶道体験教室

【読書ボランティア】

本校1、2年生は朝の「こっこタイム」で朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取

り組んでいる。そんな中、月に一度の読みかかせを読書ボランティアに依頼している。また、8月には図書の本の整理の活動も行われた。

- 読みかかせ活動  
毎月第1火曜日に実施  
毎回、読書ボランティア8名が参加
  - 8月2日(火)  
図書室の書籍整理  
ボランティア6名が参加
  - 12月6日  
読書ボランティアとの懇談会  
生徒の様子や読書活動についての交流
- 【その他】  
今年度から家庭科の授業で地域学習に取り組むことになりました。地域の人材を活用し、西の湖の環境保全活動を行う傍ら、西の湖のヨシを食材として活用する取り組みを進めておられる方や地産地消を推進されている方を招いての授業が行われました。ボランティアとして未登録の人材と学校の授業をコーディネートが結ぶ役割を果たしました。
- 6月28日(火)  
地域の人材を学校に招き、西の湖の環境とヨシについての講演
  - 6月30日(木)  
地域の食材やヨシを使った調理実習  
地域ボランティア2名が参加

3 【事業の成果】

「安土の子は安土で」というこれまでの積み上げの上にさらに地域の方々に学校支援として関わっていただき、少しずつ中学生や中学校への関心も高まってきていると考えている。

また子どもたちにとっても、ボランティアの方々の姿を学校内で見える機会が増え、地域の方々の思いを感じることで大きな教育となっているはずである。

さらに、環境整備活動については、職員では十分にできない分野にボランティアの力が入ることで日々の教育環境が整えられると同時に学校の負担が軽減されており、この効果は大きい。

4 【今後の課題】

今後も学校と地域を結び、学校にさまざまな地域の人材や力を取り入れていく。そのためにはさらに多くのボランティアの発掘が必要である。また、支援活動の多くはコーディネータの調整によるところが大きい。将来は日常的に地域の方々が学校に入り環境整備を中心とした活動を展開するということが大切であると考えている。今年度は中学校単年度の支援事業の一年目であったが、次年度以降も規模を大きくすることを目指すのではなく、現在の活動をよりスムーズにきめ細やかに実施する事が方向性の1つであると思う。

【学校支援地域本部名：栗東中学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

本校の学校支援地域本部事業は、平成19年度末に問題行動が顕著化していた学校の状態を改善させようと地域住民・PTAが「栗中改革サポーター」を発足させたことが始まりである。教職員だけでなく、地域住民や保護者を含めた大人の目を校内に増やし、校内巡回や清掃活動を通して生徒たちを見守る取組を始めたのである。4年間の継続した取組により今では地域住民や保護者が校内で活動する姿が自然な光景となってきた。栗中サポーター活動により学校の環境が改善されただけでなく、生徒の表情も明るくなり、感謝の気持ちをもつ生徒が増えるなど多くの変容が見られるようになった。

栗中サポーター支援により学校が落ち着きを取り戻しつつあるため、今年度からは、栗中サポーター活動を生徒指導中心の支援だけでなく、学校教育全般の支援へと広がっていった。

2 【事業の概要、特色】

活動内容

地域住民サポーター25名、保護者サポーター13名、合計38名の栗中サポーターに次の6つの活動に取り組んでいただいている。

① 学習環境支援

校内美化を兼ね授業中の校内を巡回。生徒の学習の様子や校舎内外の破損状況等を確認。



② 図書室支援

書籍整理、室内清掃など図書室環境の向上を担う。図書委員会とサポーターとの協同作業も行う。



③ 清掃支援

日常の清掃時間に生徒と共に校舎内の清掃活動を行う。



④ 環境整備支援

花の植え替えや除草作業などの環境整備作業を行う。主にPTA環境整備作業との合同実施が多い。



⑤ 交通マナーアップ

登下校時の危険箇所での交通立番。通学路の危険箇所や生徒の通学状況の報告が学校での通学指導に活かされている。



⑥ 学校行事支援

進路説明会駐車場係



三者懇談期間  
駐輪場パトロール



1年生校外学習  
交通立番



学校をきれいに  
する取組



広報活動

・サポーター通信として月1回「栗の葉」を約900部作成しており、保護者、自治会長、民生児童委員、補導員等に届け栗中サポーターの活躍を写真や文章で家庭、地域に広める手段としている。また地域への配布手段としては近隣の生徒が自治会長や民生委員等の各家庭へ直接届けている。月1回ではあるが、この「サポーター通信」お届けの際に、地域の方と中学生が顔を合わせ言葉を交わすこともあり、「サポーター通信」が生徒と住民との地域交流の役目も果たしている。



表面には宛名と「この封筒は栗東中学校  
〇年〇組〇〇がお届けしています。」と  
配達生徒名を記載。

・入学説明会、PTA総会など保護者が集まる機会を利用し、栗中サポーター活動を掲示物やちらしなどを用いてアピールし、新規サポーターの勧誘に努めている。万が一に備え、活動して頂く方にはサポーター保険に加入するため栗中サポーターに登録していただいている。しかし保護者の中には興味はあるがなかなか登録まではしていただけない方が多く、その対策として期間限定の短期サポーターを募集し、まずは栗中サポーター活動を体験していただく取り組みをしている。参加された方々には実際に栗中サポーターと一緒に活動していただき、活動のやりがいや必要性を知っていただいた上でサポーター登録につなげている。

今年度は図書室の全蔵書をバーコード登録する作業を1ヶ月集中で実施。この期間に短期サポーターを募集したところ10名の参加があった。栗中サポーターと共に活動していただくことで、栗中サポーター活動を体験していただくよい機会となり、この期間限定の活動を経てその後栗中サポーター登録をされた方もおられる。



・地域の情報発信所である各3カ所のコミュニティセンターの協力を得て、サポーター通信の掲示や、募集ちらしの設置、広報紙への募集記事の掲載などを行った。実際にそれらを見ていただいた地域の方がお電話をくださり、栗中サポーター登録をしていただいている。

### 3【事業の成果】

・栗中サポーター活動を4年間継続して取り組んだことにより、活動内容、組織運営面でより充実し、安定した活動を行えるようになってきた。なによりこの4年間、活動を栗中サポーター結成当時から、またはそれ以前から学校を支えてきていただいている地域住民の存在は大きい。職員はある年数によって入れ替わるが、保護者を含めた地域住民は変わらず「地域の学校」を支え発展させようという思いで学校教育に関わってくださっている。当初はそんな地域の方々の思いと学校の受け入れとにずれ違いがみられることもあったが、数年の活動の積み重ねにより地域住民の学校に対する思いが職員にも伝わり、学校と地域との絆が強まっているのではないかと考える。

また、これまで学校の良くない面が地域に知られがちであったが、栗中サポーターが学校に入ってくださることで地域住民が実際に生徒たちと活動していただき、生徒の良い面や、学校・職員の日々の努力などを地域に持ち帰り、広めて頂くきっかけともなっている。それらは結果的に学校と地域全体を結びつける大きな力となっているように思われる。

本校では、地域住民が学校教育活動に関わり職員とともに生徒を育て見守るこの事業により、学校教育環境の向上、生徒の学校生活の落ち着き、職員の業務軽減の3つの側面で成果が表れている。

### 4【今後の課題】

・今年度は国、県、市の三者の財政支援により学校支援地域本部の運営がほぼ前年度同様に行うことができた。しかしながら、今後財政支援がなくなり、本部を自立した団体として運営させていくとなるとサポーター活動保険、消耗品等の費用の捻出が難しくなる。また学校とサポーターをつなぐ役割であるコーディネーターの業務が職員の現在の業務にプラスされてしまい、「教職員が生徒と向き合う時間の拡充」というこの事業の本来の趣旨からはずれてしまう。学校支援地域本部の推進をもっと地域、保護者に浸透させその必要性を認識していただき、新しい運営の形を見いだしていく必要がある。そのためにもPTAや、地域社会団体との連携をさらに深め、長くつづけていける学校支援活動にしていきたいと考える。

## 【学校支援地域本部名：岩根小学校支援地域本部】

## 1 【事業の趣旨】

地域の活性化に向けた学校を拠点とした取組の一つとして、高齢者（80歳以上）を学校に招き、子どもたちとのふれあいの時間をもつことにより、世代を超えた者が互いに一住民としてつながっていくことをねらいとした活動である。

一昨年前までは、子どもたち（1年生）が地域のセンターに出向いての催しであったものを、昨年度初めて学校を会場に実施し、およそ60名の高齢者の方々にも好評であったことから、今年度はふれあう子どもたちの対象を1年生と3年生に広げ、ふだん学校へ来る機会のない高齢者の方々との互いの学び合いの場を、地元民生委員さんや健康推進委員さんにお世話になり、本校多目的ホールにて実施した。

## 2 【事業の概要、特色】

地域のまちづくりセンターと地域総合センターが事務局となり、民生児童委員さんと健康推進委員さんが実行委員となって参加高齢者の把握と送迎手配、当日の内容や昼食準備を進めてくださった。学校側は、交流を行う1年生と3年生、そして6年生代表児童の指導を進めた。

当日は57名の方が出席して下さり、3年生は歌と演奏の発表、1年生は共に昔遊びの時間を過ごし、6年生代表2名が歓迎のあいさつを行った。また、昼食後の休憩時には、自由に校舎内を見学していただく時間も確保し、地域の高齢者の方とお世話をしてくださった約20名の方に午前10時から午後3時まで本校で過ごしていただいた。さらに、開会行事を含めて時間の許す範囲で市行政の方や地域の区長さん等も参列していただき、合わせて90名ほどの方が本校にお越しいただくことができた。

保護者以外のこれほど大勢の地域の方、しかも高齢の方に学校にお越しいただき、子どもたちと時間を共有していただく活動は大変貴重であると捉えている。



## 3 【事業の成果】

- ふだん学校へ足を運んでいただく機会が皆無と言っていい80歳以上の方たちにお越しいただき、ほぼ一日過ごしていただくことに大きな意義がある。
- しかもお越しいただいた方たちに子どもの授業の様子を見ていただくことで、学校との距離感を縮めていただくことができた。
- お世話をしてくださる多くの方たちと学校の協働によって、小学生と地域役員さんと教職員に地域を活性化していくための一体感が生まれた。



## 4 【今後の課題】

- 昨年よりも高齢の方の参加が減少した。この原因としては「昨年、校舎を見学したから」という声もあり、今後の取組の課題と言える。内容の工夫、充実を考えていかねばならない。
- 高齢者とのふれあいが2つの学年と6年生の代表であったが、もうひと学年増やし、全校の約半分の児童がふれあう機会をつくっていくことも可能であろう。内容の工夫と合わせて、来年度の検討課題である。
- 双方の学び合いという観点からすると、子どもたちの一方的な関わりではなく、高齢者の方からの働きかけも工夫次第では可能であろう。ぜひ来年度は検討していきたい。
- 今後も継続していける取組にするために、できるだけ事前の準備等に時間をかけずに、しかも目的を達成していく工夫を心がけていくことが大切である。あくまでも、日常的なふれあい感覚を醸し出せるような取組でありたい。



【本部名：菩提寺北小学校支援地域本部】

**\*菩提寺北小学校 木製遊具更新計画\***

**1 【事業の趣旨】**

菩提寺北小学校の運動場に開校当時から設置されている木製遊具は老朽化して使用禁止になっている。その木製遊具を撤去して、その後に新しいウッドステージを製作する。また、撤去の際に出た使える古材を再利用して『親子でウッドクラフト作り』を計画。

**方針**

- \* 親子が参加して自分たちの手で作る。
- \* 複雑なモノではなく、みんなが協力して造れるものを造る。
- \* 継続的に維持管理できるモノにする。
- \* 古材を再利用する。
- \* 危険にならないものを造る。



[老朽化した木製遊具]

**2 【事業の体制、予算】**

**事業の体制**

主催：あすなる応援団活動  
あすなる後援会  
菩提寺北小学校 PTA

後援：菩提寺まちづくり協議会  
3区自治会

**事業の予算**

この事業の趣旨に則った基金に申請してこの事業の資金とした。

- \* 緑と水の基金（国より） 50万円
- \* 森づくり基金（県より） 20万円
- \* あすなる後援会（自己資金）10万円

**3 【事業の概要、特色】**

**事業の概要**

① 11月5日(土)「あすなる音楽集会」の後、午後に全校児童(332人)・保護者が分担して作業をし「ウッドステージ&ウッドクラフト製作」をおこなった。

- \* あすなる応援団活動会長のもと、地域・保護者ボランティアが10月より木製遊具を撤去し整地・コンクリート下地打ちをした。



[遊具の撤去]



[コンクリートの下地打ち]

- \* 旧遊具古材が、検討の結果ほとんど腐食しておらず再活用できることがわかったので、ウッドステージ前にベンチ、トーテムポール、ウッドワッペン、スタードームなどを子どもとともに造ることにした。

② 11月5日(土)当日。子どもたちはクラスごとに、トーテムポールとスタードームを作製し、一人ずつはウッドワッペンを作製した。高学年は、ウッドステージの防腐剤塗りも担当。説明をするのは、あすなるスタッフのボランティアのお母さん。



③



ウッドワッペンに「あすなろちゃん」の焼き印を押してもらおう



[ウッドワッペンに色つけ]



[各クラスでトーテムポールに絵付]



[スタードームの組みたてを試す  
応援団活動のメンバーと教職員]

### 事業の特色

\* この事業を小学校は5,6時間目の授業として位置づけて、全校生徒での図工の時間とし、学校公開日と重ね、親子で取り組める企画とした。

### 完成したウッドステージ&ウッドクラフト



[スタードーム]



[トーテムポール]



[あすなろちゃんの焼き印付ウッドワッペン]

#### 4【事業の成果】

あすなる応援団活動のメンバーを中心に児童、地域のサポーター会の方々や、保護者ボランティア、あすなるスタッフのお母さんたち、PTA本部役員、教職員が一丸となつての、事業となった。

当日に至るまでに、1ヶ月かけて使用不能になっていた木製遊具を撤去し、整地しコンクリート下地打ちなど、本格的な工事もボランティアですべてしていただき、素晴らしいウッドステージができたのは、地域力の結集だと、深く感じる。

ウッドステージは4m×8mで、1学級の児童がステージ上で学習活動できる広さとした。また、子どもたちが製作した各クラス1本ずつのメモリアルトートেমポールを立てて、この事業の記念となった。

木製遊具更新計画事業は、まだまだ継続中で、ベンチや、切り株型腰掛など、追々足していく予定である。

#### 5【今後の課題】

今回の事業を通して資金を公の基金に申請して、通ったことが大きかったと思う。それによって、この事業の幅が広がった。これからの、ひとつのやり方にもなると考えられる。

今後、年月を経ていくにしたがって、支えていく資金作りは、一番の課題になると考えられる。

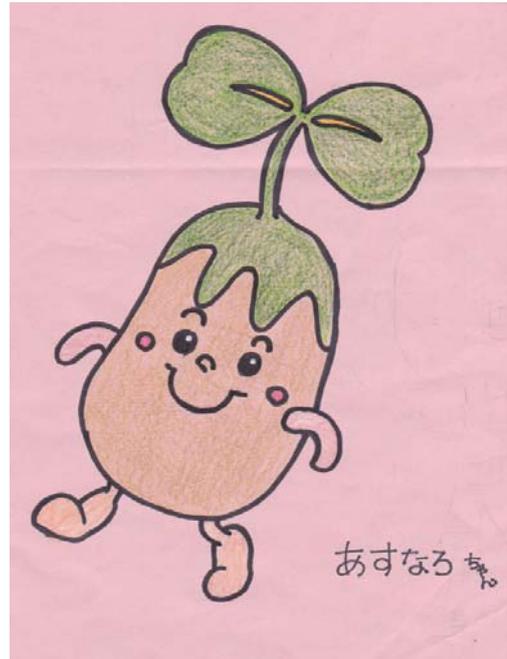
11月5日の当日、あすなるスタッフのお母さんボランティアによる、『あすなるカフェ』の様子



看板娘の「あすなるちゃん」



今年度より、公募して、全校生徒の投票によって選ばれた、菩提寺北小学校のキャラクター『あすなるちゃん』が色々な行事で大活躍！！



あすなるちゃんの前画



あすなるちゃんの前ぐるみ

### 1【事業の趣旨】

本事業は、“活力のある学校を創る”を教育目標に掲げる菩提寺小学校と、地域、保護者の連携を深めることで、地域ぐるみで子どもの健全育成を図ると共に、多様な関わり方で学校を支援することを通して学校の教育活動の充実および安心安全な環境をつくることを目指している。

### 2【事業の概要、特色】

今年度は、昨年度の取組を基盤にして、学校支援の取組が、人的・内容的により有機的に関連することを目的に、これまでの取組を整理統合したり新しく生み出したりすることを目指してきた。実行委員会を定期的に開催して年間の流れを確認しながら、基本的には昨年度の支援を継続する中で、今後の望ましい在り方について検討を重ねて進めてきた。

#### ①学習支援

各学年の授業に対する協力、サポート。  
 <家庭科ミシン指導・書写指導等>

#### ②特別活動支援

学年や全校的な特別活動に対する支援  
 <たてわり全校遠足や収穫祭等>

#### ③教育相談支援

個別に課題を抱える子どもに寄り添い、円滑な学校生活を送れるよう支援。

#### ④クラブ活動支援

専門的な指導や子どもたちへの対応等の支援。<日本の文化、将棋、家庭>

#### ⑤読書活動支援

昼休みお話放送と、子どもたちへの読書活動を支援。

<朝のお話会、図書室蔵書の整理・修理>

#### ⑥環境整備支援

学校内の花壇や植栽などの環境を整備し、学校生活を支援。

<校内の樹木剪定、玄関の花、中庭・坂道花壇の苗植え>

#### ⑦見守り・安全支援

地域の皆さんによる子どもたちの登下校を安全に見守る支援。



### 【地域本部名：菩提寺小学校支援地域本部】

### 3【事業の成果】

◆ 学校の教育活動にとって

いろいろな活動にボランティアの支援を受けることで、教師が児童に物理的に多くの時間を持つことができるようになり、学習内容面、安心・安全面の両面で活動が充実し、子どもたちの学習意欲を高めることにつながった。

◆ 保護者・地域にとって

学習参観以外の場で、授業や学校の活動に参画する機会が増えたことで、学校への関心を高めることができた。また、御自身の知識や経験、技能が、児童の教育に生きて働くことを知っていただくことで、学校をキーステーションにした地域の教育力の可能性について考えていただくきっかけとすることができた。

◆ 学校と地域ボランティアとの交流会

8月末に初めての交流会を開催。60名を超える参加者（ボランティア・教職員）があった。普段は時間もなかなかとれず、ゆっ



くり話をすることもできないが、ボランティア・教職員の立場で意見を交わし、学校に対する夢や願いを語り合うなど、有意義な場にする事ができた。

◆ たくさんのボランティアさんが来校することで、学校の様子を知ってもらうとともに、子どもたちとより多くの関わりを持つことができた。また、全戸配布の新聞やHPなどの広報活動を進めることで、地域での認知度を高めることができた。

### 4【今後の課題】

◆ 地域からの支援は増えてきたが、本校保護者の関心がまだまだ少ないように感じる。新しい試みとして、保護者を対象に学習参観の機会に「ほっ♪とサロン」を開催予定。地域の支援者と一緒に交流を持つ場になればと思っている。

◆ 今年度行った交流会のように、学校・家庭・地域のそれぞれの立場で意見や思いを語り合える場を作り、より強い繋がりを持ちたいと思う。

### 【学校支援地域本部名：水戸小学校支援地域本部】

#### 1 【事業の趣旨】

昨年より地域ぐるみで学校運営を支援する体制（水戸っこ応援団）を立ち上げた。本事業を通じて教員の子どもと向き合う時間の拡充、学校を中心に家庭・地域と連携し子どもの健全育成と「心のふるさとづくり」を図る。

#### 2 【事業の概要、特色】

(1) 多くの人にこの取組を知ってもらうため、4月の入学式で新生保護者にボランティア登録を呼びかけた。PTA総会でスライドを使って昨年の活動を紹介し、職員室前の廊下に「水戸っこ応援団」の掲示板を作成した。毎月発行しているお便りでは写真やイラストを使ってわかりやすく活動を紹介している。

(2) 朝の10分間の読み聞かせ、お昼休みのお話会をしていただいている。図書ボランティアには比較的保護者も多く、季節に応じた壁面を飾ったり、夏休みには図書の修繕をしたり、子どもたちが図書室に足を運びやすい工夫をもらっている。他校との交流、研修会など活発な活動となっている。



木工が得意なボランティアには学校で今年から始まった漢字検定（水戸っこ漢字検定）のプリントを入れる棚を作っていただいた。また、4年生のやまのこ学習では子どもたちと森林散策やクラフトを一緒に作っていただいた。



(3) 毎年秋に行われる水戸まつりではたくさんの地域の方に協力してもらい、3年ぶりの餅つきやみこし練り歩きを行うことができた。水戸っこ応援団の皆さんとPTA保護者が集まり、慣れないお餅づくりのアドバイスをいただくことができ、貴重な時間となった。

同じく毎年行われるマラソン大会では、応援団だけでなく全ての保護者に安全指導のボランティアを募り、大会当日

だけでなく練習から多くの水戸っこ応援団、保護者に協力していただいた。ポイントに立って「がんばれ!」「もう少し!」と声をかけていただいた事で子どもたちも頑張って走りきる事ができた。

#### 3 【事業の成果】



地域の方に講師に来ていただいたり、学校支援メニューから専門の講師に来ていただく事で学校の授業内容の広がり、人とのつながりができた。ボランティアにちょっとした声かけをしていただく事で子どもたちが達成感を味わい自信をつけることができた。

読み聞かせや水戸っこ漢字検定の取組、掲示板を使った言葉遊びなどにより考える力や静かに集中する力がついてきた。地域コーディネーターから教員へ学校支援メニューやD-1グランプリ（湖南省だけじゃれグランプリ）への参加などを紹介し、子どもたちが意欲的に関わる活動ができた。



#### 4 【今後の課題】

##### ・地域へのPR

まだまだ地域にねむっているボランティアを発掘し、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただきたい。ボランティア研修などを通してボランティア同士の交流を図る必要がある。

##### ・家庭へのPR

学校、地域と子どもの課題を共有するため情報発信。保護者と地域の子育て親育ち研修会のシリーズ化。

##### ・学校と地域コーディネーターの連携

本事業が一過性のイベントで終わるのではなく、子どもたちの毎日に寄り添った息の長い活動になるように校長、教員と地域コーディネーターが連携を図り、今後も水戸の子どもたちのために「地域に開き、信頼される学校」でありたい。

【学校支援地域本部名：石部南小学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

石部南小学校では、子どもたちの体験活動を推進するため、様々な形で学校支援の取組が実施されており、多くの地域の方々に協力をいただいています。学校支援地域本部は、これまでの取組をさらに発展させて組織的なものとし、より効果的な学校支援を行い、教育の充実を図ろうとするものです。

2 【事業の概要、特色】

「みどりのバトンタッチ活動10周年」

石部南小学校には「ふれあい夢の森」という、みんなから親しまれている森があります。この森を中心にみどりのバトンタッチの活動が始まり10周年がたちました。年間を通して、環境整備や間伐体験、巣箱作り、シイタケのコマ打ち体験など、子どもたちと一緒に環境学習活動を行っています。



☆みどりのバトンタッチ10周年を記念して建てられた看板。



☆教職員向けの研修会が行われました。

「みなみっこ応援団 PTA 部会」

今年度に入り新しく立ち上がった組織が「みなみっこ応援団 PTA 部会」です。この部会のメンバーは現 PTA の方や、PTA OB の方で組織されており、おもな活動内容は学校行事ボランティアです。将来的には、PTA 部会の方が学校ボランティアの中心的な存在になるものと思います。



☆体育大会ボランティア。体育大会の10日前からはっぴの制作が始まりました。



☆手作りのはっぴを着て踊る子どもたち。



☆校外学習付き添いボランティアには、PTA 部会、保護者、祖父母など多くの方が協力してくださいました。



☆「走れ！南っ子大会」走路員ボランティア。



### 「学校環境整備」

石部南小学校は自然が多く沢山の木々に囲まれています。環境整備ボランティアさんは、それぞれの木の剪定する時期を知っているので、毎年同じ時期に学校へきて環境整備活動をしてくださっています。



☆「走れ！南っこ大会」を前に歩道をきれいに掃除してくださっています。



☆校内の植木の剪定。

### 「みなみっこ応援団運営委員会」

みなみっこ応援団運営委員会では、石部南小学区の代表の方にお集まりいただき、地域と学校が連携して子どもを育てていくための話し合いが行われています。

地域や学校での子どもの様子を意見交換をして、学校支援のありかたなどの話し合いが行なわれています。



### 3【事業の成果】

■子どもたちと保護者、地域の皆さんとのふれあいが増えて、学校以外でも自然にあいさつを交わすようになった。

■地域の皆さんとの打ち合わせや委員会を重ねるごとに、地域での子どもの実態を把握することができた。

■子どもたちが地域の活動に積極的に参加して、自分の役割や責任をもって行動することができた。

■多くの地域の方が学校を訪れることにより、学校を知ってもらえるようになった。

### 4【今後の課題】

■してあげるボランティアではなく、子どもの課題を考えてそれに合わせた支援をしていく事が大切。

■子どもをお客さんにしない支援を地域と一緒に考えていくこと。

■地域の方と連携して地域ぐるみで子どもを育てていくこと。

【学校支援地域本部名：石部小学校支援地域本部】

実践（１）小学校でのサークル活動

1【事業の趣旨】

石部小学校の学校支援地域本部事業では、子ども育ての基礎としての「くらしの土台」づくりとして、学校を中心とした地域づくりの活動を行っている。

そこで、地域のサークル活動を小学校で行っていただくことで、地域の多くの方に、小学校をより身近なものに感じていただき、また、子どもとふれあい、顔見知りになっていただくことを目的として、「小学校でのサークル活動」を立案、実施した。

よし笛サークル



2【事業の概要、特色】

○経緯

活動を実施するにあたって、第一に「小学校でのサークル活動」の説明会、意見交流会を各サークルの代表の方に呼びかけた。呼びかけた中で活動時間が合わない等、来ていただけないサークルもあったが、半数のサークルの代表の方に出席していただけた。

説明会、意見交流会で「小学校でサークル活動」の主旨を説明し、お願いしたところ、ほとんどのサークルが賛同してくださった。そこで各サークルの活動にあたっての連絡、調整を行い、10月から活動を実施している。

初めは、4サークルでの活動だったが、そのサークルの方が紹介して下さり、他のサークルも加え、現在、6サークルが石部小学校で活動して下さっている。

○特色

「小学校でサークル活動」は公民館などのサークル活動を小学校でしていただくことを趣旨としている。子どもにサークルの活動を教えていただくこと（例えば、洋裁サークルの方が子どもに手芸を教える）等を目的として立案した活動ではない。

茶道クラブ



地域の大人が自分たちの学校でサークル活動をしている様子子どもたちが見て、興味をもち、そして、自然に近づいていく事、話しかけていく事を目的としている。

ふれあいを前提として企画されたものではなく、自然と目にし、興味をもち、ふれあい、話かけるまでの過程を大事にすることが本事業の特徴である。

3【事業の成果】

初め、4サークルだった活動が口コミで6サークルに広がった。活動の広がりには、サークルの方が小学校に行くことを身近に感じられたということで、当初の目的の成果の一つである。

また、サークルの方が小学校で活動する中で、「もっと積極的に子どもたちとふれあいたい」と自然と思ってくたさるようになった。子どもに自分たちの知っていることを伝えていくことに喜びややりがいを持っていただくようになった。

どうしたら子どもたちとのふれあいの時間（休み時間で、時間的にも限られているので）を楽しめるものにするかを考えてくださるサークルも出てきた。（一例として、琴クラブと茶道クラブと一緒に活動して伝統を伝えたいと発案してくださった。）

地域で活動しているサークルの方の学校、子どもたちへの意識が変わってきたことが感じられるようになった。

子どもの側からの成果としては、サークルの方が来て下さる日の休み時間を楽しみにする子どもが多くなったということである。

サークルのある日の休み時間には校内放送をして参加を呼びかける。サークルの活動している教室にたくさんの児童が来るようになった。

初めは窓から見ていた子どもたちも少しずつ話かけるようになった。また、サークルの方が子どもたちに教えて下さるようになると真剣に耳をかたむける。「次はいつ来るの・・・」という声がサークルの方の喜びになっている様子もしばしば見られるようになった。

大人と子どもが自然にふれあい、顔見知りになり、伝えていく。本事業の大きな成果である。

4【今後の課題】

本事業は、大人と子どもが地域の中で自然にふれあい、顔見知りになっていくことを目標としている。今後も自然に大人と子どもがより身近な関係になっていくことが願いである。

今後の課題としては、この活動が自然に長く続くようにすることである。



琴クラブ



洋裁クラブ

## 実践（２）「魚を上手に食べよう」

### 1【事業の趣旨】

石部小学校では年に何回か「骨付きの魚」を給食に出している。多くの子もたちが普段、骨のない魚、切り身の魚に慣れている中で、あえて、「骨付きの魚」も食べてほしいという思いから献立を立てている。

しかし、1学期にアユの塩焼きを実施したところ、今までにない程の残菜であった。そこで、栄養士の先生よりの提案で「魚を上手に食べよう」を給食室と学校応援団と一緒に計画することとなった。

### 2【事業の概要、特色】

#### ○ 目的

- ・魚を上手に食べられる。
- ・おはしを上手に使って食べられる。
- ・地域の方と一緒に魚を食べることで、交流を深める。
- ・食べた後のお皿はきれい。

#### ○ 概要

6年生、2クラスを対象に「お魚を上手に食べよう」を実施することとなった。そこで、地域で魚屋さんをしていた方をお願いして協力していただくことにした。

始めに、栄養士の先生と魚屋さんでどのように教室で子どもたちに魚の食べ方を教えるか打ち合わせをした。

子どもたちにわかりやすく説明するた  
準備していただいた資料  
め、資料なども準備していただいた。そして、当日、給食を食べる前に「魚の上手な食べ方」を教えていただくことになった。

次に、地域の方をお願いして、子どもたちと一緒に給食を食べていただき、一緒に食べる中で「魚の食べ方」や「はしの持ち方」を教えていただくことになった。

当日、6年生2クラスに栄養士の先生と魚さんが分かれて、子どもたちに「魚の上手な食べ方」を教えてくださいました。その後、地域の方（クラスに4名）と子どもたちが一緒に給食を食べた。

給食の後、学校応援団事務室で地域の方と栄養士の先生で話し合いの場を持った。意見、反省、課題等聞かせていただいた。

魚屋さんの説明は事前に打ち合わせをし、資料を準備していただいたため、とても分かりやすく、「こうやって、食べたら骨付きの魚が上手に食べられるんだ」と初めて子どもが多かった。また、その後

地域の方が一緒に食べる時に、上手にできない子どもに実際、「こうするんだよ」と教えてくださった。はしの持ち方等も教えてくださった。結果、残菜は非常に少なくなった。

また、子どもたちが自分から、地域の方に牛乳の飲み方（ストローのさし方）や牛乳パックのたたみ方を教えるという場面もあった。

子どもたちは「骨付きの魚」を一生懸命に上手に食べようとした。そして、多くの子もが今までよりとてもきれいに魚が食べられたことを嬉しく感じているようだった。

一緒に食事をする中で、大人と子どもとお互いが教え合う、楽しい交流の時間を持つことができた。

### 3【事業の成果】

核家族の家庭が増えている中、家庭で自然と身につけていたことができないうちもが増えている。本来、当たり前で大切なことが伝わっていないことである。

衣、食、住等、家庭で身につける基本的なことが当たり前でできなくなっている中、地域がそれを補って、「伝える」ということは、地域本部事業の大切な役割であると考えられる。

### 4【今後の課題】

今回、初めての取組なので、1学年だけだったが、毎年継続することで、全学年で実施することを目標として取り組んでいきたい。

また、この他にも今まで家庭で自然と見て、覚えてきたことができないうちもが増えているとの声が聞こえる中、地域の方の力を借りて、子どもたちの「生きる力」を支えることは、とても重要であると考えられる。このような家庭で本来身につけておくべき事を、地域がどこまでかわかっていくかが課題である。



魚の上手な食べ方を教えてくださる地域の方



子どもと一緒に給食を食べる中で上手な食べ方を教えてくださった

### 1【事業の趣旨】

地域ぐるみの学校づくり、学校とともに子どもを育てる地域づくりのため、地域と学校のコミュニケーション、子ども育成の課題の共有化、学校力・地域力の向上を図ることにより、地域のよさを生かし、地域のよさに学び、子どもと地域と学校がともに育つ取り組みの推進を願っている。

### 2【事業の概要、特色】

①本校の地域支援本部は、今年度より活動を始めたので、「学校支援地域本部」に親しみをもってもらうため、本部名を「スクールサポートネットワークなすびいず」とし、本部として使用している教室を「なすびいずルーム」と名付けた。そして、活動内容や、企画イベント等を知っていただくために「なすびいず NEWS」という通信文書を保護者や地域（区長さんを通じて各戸回覧）に

配布した。その中でキャラクターをつくり、子どもたちに名前を公募し「ナッシーとナッピー」という名前に決定した。



②地域コーディネーターと子どもたち、保護者・地域の方々と交流を図るため、子どもたち向けの昼休みイベント「Lets Go!!なすびいず」や、保護者・地域の方



向けに「なすびいず Café」を企画、実施した。自由参観期間には、「参観ツアー」を企画。地域コーディネーターとともに色々な教室を見て

回るというツアーを実施した。

③本部の活動開始時より、ボランティア（サポーター）の登録を保護者・地域の方々をお願いをした。市まちづくりセンターにチラシを置かせていただいたり保護者に配布したりした。こうした中で、7月の6年生・家庭科でのミシン実習時にボランティアの方が参加くださり、子どもたちが困ったときのお手伝いをしていただいた。9月には運動会ユニフォームの製作ボランティア、11月には「校内音楽会」や4年生の出場し

た「湖南省小中合同音楽会」に向けての「練習指導ボランティア」を実施し、子どもたちが頑張るお手伝いをしていただいた。



その他、「校外学習の付き添い」や「給食エプロン袋作り」などにも参加していただいた。

④11月下旬より、地域の方にボランティアとして参加いただき「清掃支援」を始めた。開始したばかりなので、まずは、子どもたちへボランティアの方から清掃の仕方の「声かけ」をすることを心がけている。



### 3【事業の成果】

今年度から活動を開始し、手探りで活動を進めている段階なので大きな成果を得られてはいないが、地域ボランティアや保護者ボランティアが参画して下さり、教育活動に一定の寄与ができたことはたいへんうれしいことである。

さらに、子ども達にとって「なすびいずルーム」があることで今までとはちがった「長休み」や「昼休み」の過ごし方ができるようになり、コーディネーターと関わることで、ボランティアに興味を持つようになってきたように思う。高学年の子どもたちは積極的にコーディネーターの手伝いをするが増えてきた。その中で、低学年の子どもたちの遊び相手になるなど、今まで以上に他学年間の交流がすすんでいるように感じる。

また、「なすびいず NEWS」や、その他の告知などによって、ボランティア（サポーター）の登録が十数名あったことも成果のひとつに思う。

### 4【今後の課題】

- ① 学校支援地域本部事業と、これまでに培われてきたボランティア活動の連結をどうするか。PTAとのつながりをどうするか。
- ② 学校に関わりたいとする思いをもつ人をどう見つけ、取組に取り込んでいくか。

【学校支援地域本部名：三雲東小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、地域の大人との様々なふれ合い活動を通して、子どもの安全と学習活動の充実を図る。

2【事業の概要、特色】

- ◇安心・安全を確保する。
- ◇学習活動を支援する。
- ◇学習環境を整備する。

(1) 農園ボランティア

校門入り口近くと校舎裏の二ヶ所に約5アールの農園があり、農園活動として、全校で野菜を育てる活動や3・4年生が菜種を育て収穫する活動を行っている。ボランティアさんには、農園の土づくりや農園周りの草刈りのお手伝いをしていただき、野菜や菜種の植え方や収穫の仕方について、丁寧に指導していただいている。年度末には、「ありがとうの会」に来ていただき、各学年の感謝の気持ちを伝えている。



〈野菜の苗植え〉



〈サツマイモの収穫の仕方を教わる〉



〈菜種の脱穀〉

(2) 図書ボランティア

図書館協力員さんの来校に合わせて、図書ボランティアさんは、毎週火・金曜日に、書架の整理や本の修繕、また季節に合った飾り付けや図書室の入り口に季節のテーマに合わせた本の紹介コーナーの設置等、主に図書室の環境整備をしていただいている。雨の日には絵本の読み聞かせをしていただいたり、図書委員会の児童と一緒に本の貸し出しや返却の活動のお手伝いをしたりしていただいている。



〈本の修繕〉



〈だじゃれグランプリの開催・表彰〉

### (3) 見守りボランティア

子どもたちの登下校時、地域のポイントとなる場所に立っていただき、年間を通して安全を見守っていただいている。木曜日は、一年生だけが5校時で下校のため、ボランティアさんに学校まで来ていただき、一緒に各地区まで送っていただいている。



〈一年生の子どもたちと〉



〈帰り道の見守り〉

### (4) 学習支援ボランティア

特に生活科や総合的な学習の時間において、校区内の引率のお手伝いをさせていただいたり、学習活動の内容に関わって協力いただいたりしている。



〈4年総合 職場体験〉



〈4年総合 職場体験〉

## 3【事業の成果】

子どもたちの安心・安全の確保、学習環境の整備や学習活動の支援を年間を通してしていただいた。

- ・登下校時の子どもたちの事故もなく、日々の通学における安全が確保されていた。
- ・図書室の環境が良くなり、子どもたちが気持ち良く図書室を利用し、進んで読書活動ができた。
- ・野菜の苗の植え方等を直接教わりながら活動し、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・総合的な学習の時間を豊かなものにすることができ、意欲的に学習できた。

地域の方々との出会い・ふれ合い活動が、子どもたちにとって、学校生活への「楽しさ」「意欲」「安心」を感じさせるものになっていた。

## 4【今後の課題】

・本年度の学校支援本部立ち上げをもとにして、子どもの実態を大事にした課題の明確化に努めるとともに、より一層子どもたちが主体的に活動する姿を実現していく必要がある。

・東っ子応援団だより（学校支援地域本部事業だより）の発行を増やし、より多くの方々に本事業を知っていただく中で、4つのボランティアが今後も機能的に継続されるとともに、学習支援ボランティアの拡充を図りたい。

【学校支援地域本部名：三雲小学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

学校と地域が、みくもっ子の良さを伸ばしながら、「ひとりだちできる子」「あたたかい子」「たくましい子」の育成を目指し、共に、一体となり活動をすすめる。特に地域の教育力を積極的に学校に生かすことを趣旨とする。

2 【事業の概要・特色】

今年度より、学校支援地域本部が動き出しました。

まずは、今、関わってくださっているボランティアさんの集約、そして、今まで通りお願いすると共に、各学年の先生方にボランティアの必要な行事等がないか声かけすることから始めました。

図書ボランティア

毎月、日程表を作成してもらい各学年順番に毎週火・木曜日に朝の読み聞かせをしていただいています。また、月例お話を昼休みにしてもらったり、本の整理・整頓、読み語り、児童のサポートなどで子どもたちとの関わりを持ってもらっています。



見守りボランティア



スクールガードとして毎日、子どもたちの登下校の見守りを各地域でしていただいています。子どもへの声かけをしていただくことで、あいさつができる子が増えてきました。

環境ボランティア

庭木の剪定等を年に数回お世話になっています。

学習ボランティア



○田んぼの応援団＝毎年5年生の田植え・稲刈り指導。

お米になるまでの田んぼの管理などお世話になっています。

○裁縫ボランティア＝5年6年の家庭科（ミシン）では、保護者の方と一緒に今年は地域の方にもボランティアに入ってもらい、子どもたちと関わってもらいました。

○昔遊びボランティア＝3年生、子どもたちのおじいちゃんおばあちゃんや近所の方々がボランティアになって、昔遊びを一緒に楽しみました。

掃除ボランティア

今年度2学期より、初めての試みとしてボランティアさん2名でスタート！！

「きれいな学校」を目指すために、学年を固定せず全学年を一週間ずつ回ってもらいました。子どもをお客様にしないよう、一緒に掃除をしたり、仕方を教えたりしてだんだん話し声も増えてきました。



### 3 【事業の成果】

今年度からの取組なので、どれだけの成果があったかは、まだ目にも見えていないかもしれませんが、コーディネーターが学校に入るということで、教職員の間に少しずつコーディネーターの存在が認識されてきているのではと感じます。ボランティアさんも心地よく来ていただいたと思います。子どもたちの目線が少し変わったのではないのでしょうか。

又、ボランティアさんと子どもとのつながりは、学習活動だけでなく、子どもたちの感謝の気持ちや御礼の気持ちから、さらに、学校の方へ手作りのものをいただいたり、大事に育てた野菜を教材にいただいたり、子どもたちの学習に役立てるようにしています。



家庭ボランティアさんから5年生の各組に手作りのフクロウをいただきました。

≡ ボランティアさんのつぶやき ≡

#### 昔あそび

学校というだけでどきどきでも、あそびを通して一緒に楽しめました。

#### 掃除

だんだん子どもたちと話ができるようになってきました。待っていてくれる子どもでできました。

#### 子どもたちから

裁縫ボランティアさんへ、この前はミシンの手伝いありがとうございました。11月17日(木)に校内音楽会があります。がんばりますので見に来てください。



#### 図書

絵本を語りながら、皆さんと一緒にお話を楽しんでいます。勇気をもらったりほっと安堵したりしながら行っています。

#### 裁縫

素直に聞いてくれました。子どもたちとどう関わっていいかわからなかったが声をかけてくれる子もいました。



学校の玄関において、全校の児童も見せてもらっています。

### 4 【今後の課題】

今までのボランティアさんとも顔つなぎをして、学校の実態にあったボランティア活動を展開していきたい。そして、地域の方と知り合いになり、地域へ帰っても子どもたちに声をかけてほしいと思います。

また、地域、先生へのコーディネーターの存在の認識アップにも努めていきたいと考えています。

「学校支援地域本部事業」と教職員との間で、子どもの課題を共有し、ボランティアさんが入ることにより、子どもたちの安心感が増えていけばいいと願っています。永続的に学校を支援できるものにする必要があります、無理なく続けていきたいと思っています。

【地域本部名：蒲生地区学校支援地域本部】

### 1 【事業の趣旨】

子どもたちが川（日野川）について、地域の大人から、専門的に学ぶことにより、多様な体験と、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待できる。

川の学習から、川遊びの楽しさ、水の怖さ、水の大切さ、自然環境の大切さを知り、今後の生活の中で水とのかかわり方や、環境問題にも関心を持てるように方向づけをする。

蒲生地区ではまちづくり協議会を中心に「川づくり」の活動が始まっている。地域の大きな動き（まちづくり）に子どもたちも参加することで地域との繋がりが深まることが期待できる。

### 2 【事業の概要、特色】

小学校4年生の「日野川の学習」で、蒲生地区まちづくり協議会「川づくり委員会」と下記のような課題を共通認識して連携した。

- ・年間を通じた学習とする。
- ・川遊びの楽しさを体験する。
- ・川の生物について学ぶ。
- ・川の怖さを知る。
- ・川（自然）を守ることを学ぶ。
- ・川を通して水の大切さを学ぶ。
- ・環境の大切さを学ぶ。
- ・川（日野川）に出かけ体験をさせる。
- ・地域の方に現地での指導に先立ち教室での学習も大切にする。
- ・親子の学習の場にする。環境問題に家族で取り組む姿勢を構築する。



ボランティアさん手作りの橋



### 3 【事業の成果】

- 実際に日野川へ出かけることで川を身近に感じることができた。
- 地域の大人から、自分たちの子ども時代の川と、現在の川との変化を説明してもらえた。
- 魚だけでなく、同じく川の生物である植物についても学習教材として取り扱うことができた。
- 親子でゴミ拾いをして環境問題にふれることができた。保護者にも参加の機会があって、ボランティアさんの存在を理解するいい機会となった。
- ボランティアさん自身が子どもとともに楽しみながら活動され、子どもの思いにそえる努力をしていただけた。
- 蒲生地区の大きな動き（まちづくり）に同調した活動となった。

### 4 【今後の課題】

今回は、日野川をテーマにしたので、まちづくり協議会とのコラボレーションができやすかったが、普段の学習においても、子どもにとっても、地域の大人にとっても、まち（地区）にとっても、よし（三方よし）の取組を広げていきたい。

蒲生地区学校支援本部事業は、蒲生地区の3小学校と中学校の教育支援活動を進めている。いい実践を体験した先生方は、この事業に対する意欲が大きくなり、どんどん相談してくるようになる。すべての学校に、このような取組が広がるようにしていきたい。

## 1【事業の趣旨】

社会のめまぐるしい変化に伴い、子どもの家庭環境も変わり、家庭、地域での教育力が低下してきた。その結果、学校は多様な課題を抱え、子どもたちの「生きる力」を育成していくには、学校だけでは限界があり、教育基本法に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」と規定されたように、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てていくことが重要になる。

そこで、家庭・地域に開放された学校にするとともに、子どもたちの実情をありのままに見て、課題を共有しながら地域の人たちにも教育の支援を担い参加することが必要となってきている。

そのために、今まであったまちづくり協議会の人材バンクを利用したり、学習ボランティアの登録を進めるなど、地域の教育力を有効に活用して、教師とコーディネーターが連携をとってより効果的な教育を進めていきたい。

## 2【事業の概要、特色】

### (1) まち協学校支援ボランティアバンク

湖東地区は、昨年度「まちづくり協議会」が設立した「KoSVo」（コスボ）がある。「KoSVo」とは、湖東スクールボランティアの略称で、湖東地区の保育園・幼稚園・小中学校を支援するボランティアバンクのことである。

#### 登録者の支援メニュー

- ・ ゲストティーチャー  
…地域の歴史やものづくり、スポーツ指導など
- ・ 環境サポーター  
…図書室整理や花壇づくり、雪かきなど
- ・ 学習アシスタント…  
…保育園のお散歩の引率、家庭科の実習補助など
- ・ 施設メンテナー  
…パソコンのメンテナンス、施設の補修など



現在の登録数は、個人25、団体5である。しかし、実情はあまり活用されていなかった。校園からの依頼ばかりで、担任からはほとんどなかった。そこで、まず最初にまち協の担当者と話し合い、この人材バンクの活用を図ることにした。

### (2) 校区の人の支援

まず、5月は3年の担任より「まちたんけん」の講師依頼があった。子どもたちは、地域の方に触れる良い機会となった。

子どもたちが訪問する地域の古墳や先人の掘った井戸など、今も大切に管理していることを伝えられた。



続いて、3年の保護者の方が石材店をしているのでその工場を見学し、その後、その方の案内で地区の神社は珍しい女の神様であることやお寺が重要文化財になっていることなど詳しい説明を聞いた。これは、保護者の活用を考えるきっかけとなった。

学校の日本庭園の松の剪定は職員ではできないので、老人会長に相談したところ、レイカディア大学の園芸科で学ばれた方に連絡し、剪定と共に職員への講習を実施することができた。これは、新たに地域の団体への依頼も可能であることを知った。

### (3) 保護者ボランティアの募集

各学級からの要望の都度、頼むという方法よりも学校にボランティア組織があれば、もっとスムーズに活動が進められる。地域の方に公募してボランティアグループを立ち上げようと考えてに至った。学校の「保護者に学校の実態を見てもらいたい。」「多くの子どもにかかわってもらいたい。」という方針から、いきなり地域全体に募集するのではなく、最初はまず、保護者に呼び掛けた。その結果、17名申込みがあり、うち2名は祖母からであった。できるだけ公平に出役の声掛けをし、支援の体験をできるように配慮した。

#### (4) 保護者ボランティアの支援

6年担任より、ミシン実習をするため各班1名の計6名の依頼があった。3日間で延べ18名もの保護者の協力を得て、ミシンを使ったナップサックが仕上がった。



その後、5年担任から、ミシン実習のエプロン作りの依頼が続いた。これも毎回6名、5日間で計30名の依頼であった。「KoSVo」の応援も受けて無事、実習を終了することができた。

今までになく、一度にたくさんのボランティアを確保でき、保護者の充実感もあって、この活用方法に自信を持つことができた。

環境整備の面では、図書担当から「図書室の壁面の展示」の要望があった。夏休みには、「KoSVo」の協力もあって、本の並び替えや本棚のレイアウトを変えるなどをして、子どもたちがより本に親しみやすい雰囲気になった。

現在、壁面の飾り付けを季節感のある明るく楽しい図書室になるよう学校登録のボランティアで進めている。まち協の人材バンクと学校ボランティアの組織をうまく活用できるようになってきたことが収穫である。



#### (5) 企業の学習支援メニューの利用

地域コーディネーターのところには、多くの企業の出前授業などの案内がくるので、教職員に回覧して情報を提供している。また、県の学習情報提供システムの「におねっと」の活用も図っている。

その中で、ある企業の「エコ体験学習」が人気であった。1年、5年、6年が活用した。

#### 1年生「どんぐりのヒミツをさがそう！」

＜身近な木の実「どんぐり」を題材に、からだを使いながら、生きものとのつながりを感じるプログラム＞

#### 5年生「おいしく！エコに！ご飯をたこう」

＜炊飯ノウハウを基に、鍋でのエコに配慮した炊飯方法を学習するプログラム＞

#### 6年生「電気の不思議・実験室」

＜私たちの生活と密接に繋がっている電気。その発電の仕組みを理解して、環境にやさしい新エネルギー「燃料電池」を体験するプログラム＞

3、4名のスタッフが役割分担し、実物を提示してわかりやすく指導がなされ、非常に効果的であった。

次に、バスケットボールのプロチームによる選手の学校訪問を依頼し実施された。5、6年生は体育科で学習しているので、プロの選手に直接、指導を受け質問ができたので、意欲付けや練習メニューの方法など非常によい学習となった。

### 3【事業の成果】

今年度、この事業を受けることにより、4つの点で成果が見られた。

まず第1に、専門的な知識や技能をもったボランティアが入ることによって、普段の学習以上に高度な、またわかりやすい学習となった。

次に、担任にとって内容を理解させるために多くの支援者がいることで、授業にゆとりが生まれ、子ども一人ひとりとしっかりかかわることができるようになった。

3つ目に、保護者の中には、学校に出向くためのきっかけを求めている人が案外多く、ボランティアになることで、そのきっかけ作りができ、開かれた学校につながるようになった。

4番目に、ボランティア等の学習では、子どもが生き生きと活動し、企業や地域の大人が来校することを楽しみにし、子どもだけでなく保護者からもアンケートでは非常に好評であった。

### 4【今後の課題】

支援にこられたボランティアが何をしたらよいか迷われている場面もあった。一定のルールや支援のための打合せが必要であることがわかった。ボランティアに明確な支援の意図や内容を短時間でもよいので、しっかり伝えることの大切さを感じた。

また、祖父母などもボランティアに加わっている現状から、校区の地域全体にボランティアの募集をかけて、組織を拡大していくことが、多様な要望、要請に応じていくことになると思われる。

## 【学校支援地域本部名：米原市学校支援地域本部】

## 1【事業の趣旨】

米原市では“みんなで本を読もう”をキャッチフレーズに平成 20 年度の 10 月から 3 年間、市内幼小中学校を対象に学校支援地域本部事業の取り組みを子どもたちの読書支援・読書環境の整備充実に絞り行ってきた。平成 23 年度より「読書で支援絆事業」として引き続き読書に特化した形で、学校・地域と連携・協力しながら子どもたちの読書活動の支援を行っている。

## 2【事業の概要、特色】

## ○巡回文庫の実施

市内全ての小中学校で取り組んできたのが「巡回文庫」事業である。これは学校の各学級に本を置くことで、子どもたちが本に親しむ機会を増やし、恒常的な読書習慣を身につけさせようとするものである。

巡回文庫の箱に本を 40 冊入れ、その箱を 1 ヶ月毎に移動させることで、子どもたちが常に新しい本に触れられるようにしている。平成 20 年 7 月から市内全域の小学 1 年生に向けて開始し、平成 22 年 9 月からは小学 2 年生に、平成 23 年 9 月から小学 3、4 年生にも事業を拡大した。現在、11 小学校の 60 クラスに実施している。

文庫の本は市内公共図書館や公民館図書室の本を利用し、修理や紛失処理は図書館が行っている。本の選書も図書館が行い、学年に合った様々な分野の本がバランスよく入るようにしている。



学校間の文庫移動はボランティアに依頼している。読み聞かせや本の紹介を文庫移動に併せて行い、子どもたちが本を手取るきっかけづくりをしている。



年度末には小中学校の図書館主任やボランティアとの意見交換・交流の場を設け、次年度への参考とする。

## ○学校図書館の整備

「モデル校」を設定し、コーディネーターが学校・地域と連携・調整しながら、子どもたちの読書活動を支援している。

「モデル校」は、市内の各地域の 4 小学校（息長小学校・息郷小学校・山東小学校・伊吹小学校）である。「モデル校」では、読み聞かせボランティア、図書ボランティアが活発に活動をされている。読み聞かせは、毎月定期的に行われており、子どもたちの本への興味・関心が深まり、読書の幅が広がるとともに、地域の方とのふれあいの時間が持つ、心の面でもプラスになっている。

図書ボランティアは、新刊図書の装備、書架整理、配架など積極的に活動され、子どもたちが図書館に集まり、楽しい雰囲気の中で本を選べる学校図書館の環境整備に力を注いでいただいている。



ボランティアや小・中学校の図書主任からの要望を受け、滋賀文教短期大学の平井むつみ教授による「学校図書館の整備に関わる講習会」を開催した。（息長小学校：7/28）大勢のボランティアと教職員の参加があり、知識の共有化、共通理解が得られる場となり、講習会後、各小・中学校で活かされている。



## ○おはなしの講習会

「おはなしの講習会」は学校支援地域本部事業が始まった平成 20 年度から毎年開催しており、今年で 4 年目になる。本年度は、「モデル校」の図書室を会場に講師を招き 2 時間程度でテーマに合わせて講習・実演をしていただいた。参加料・事前予約は不要で誰でも参加可能なため、米原市の読書ボランティアや学校図書主任だけでなく、子どもの読書に関心を持つ地域の方も参加されている。内容は、すでに学校・園や地域の施設などで読み聞かせを行っておられる方がほとんどのため、ボランティア

さんが活動していく上ですぐに役立つものを企画して行った。

第1回は、「読書の楽しさをすべての子どもたちに」のテーマで、NPO 法人絵本による街づくりの会 理事長 平松成美氏によるおはなし会のプログラムの立て方の実演・絵本の紹介、小グループに分かれての実習・発表会を行った。(山東小学校:8/23)

第2回は、「子どもたちへの本の紹介」をテーマに、子ども・本・文化を考える会 代表 大船めぐみ氏による子どもたちへの本の届け方、読書年齢に応じた選書、ブックトークの実演を行った。(伊吹小学校:10/26)

第3回は「心を育てる・ことばを育てる」のテーマで、すずめの学校 代表 宮腰悦子氏による講習を行う。(息郷小学校:2/15)

#### ○成果報告会

平成24年1月21日(土)に米原市立近江図書館かたりベホールにて、米原市学校支援地域本部事業成果報告会を行った。[参加者:128名(関係者を除く)]  
内容は、開会挨拶の後、まず読書ボランティアさんによるエブロンシアター「おむすびころりん」と大型紙芝居「こぶとり」を実演していただき、日頃体験することの少ない読み聞かせ手法でおはなしを親子で楽しんでもらうことができた。



次に平成23年度の活動報告を地域コーディネーターが行い、続いて「モデル校」での取組、子どもの様子についての発表があった。

また、今回、米原市民の方から「わたしの好きなこの1冊」を広く募集し、その中から24名に発表していただき、関係する本の展示を行った。さらにこれらを冊子にまとめ、当日来場者にプレゼントすることにより、親子や友達同士で本に親しむきっかけを作った。

最後に、講師のすずめの学校 代表 宮腰悦子氏より講評とまとめをしていただきました。

### 3【事業の成果】

巡回文庫において、実施クラス数を増加することができた。これに伴いボランティアの人数も増えてきている。

図書室整備においては、専門家による講習会を受講したボランティアと教諭が正しい知識の共有化が図れた。ボランティアが新刊書の装備のような新しい技術を習得し、活動内容が多様化した。定期的な読み聞かせとともに図書室の季節飾りなどにより、子どもたちの読書活動への興味や意欲

が深まった。また、図書室ボランティアがおられなかった学校でも新たにボランティアグループが立ち上がった。

講習会では、実践を交えた絵本の紹介、おはなし会のプログラムの立て方、本の届け方、選び方、ブックトークなどボランティア活動の参考になる内容で、より実践的な技術向上や学習意欲を満たすものとなった。またこれらは、ボランティア同士の情報交換の場となった。

成果報告会では、地域の方にも、この事業を通して子どもたちの読書に関心を持っていただく機会となった。

### 4【今後の課題】

巡回文庫については、5,6年生への拡大をめざしているが、ボランティア不足のため、学校と連携して募集し、市民と協働で進められるようなあり方を検討していく。また、ボランティアが学校に入り活動することに対し、学校により温度差があるため、校長先生へのアプローチと理解を深め、全職員が共通認識を持ち、連携していけるよう働きかける必要がある。学校側とボランティアとの連携不足がみられるため、双方の調整をしっかりと行い、話し合える機会が持てるようにしていきたい。

また、この事業を広くPRすることで、学校・地域・家庭で子どもが本に親しむ機会が多く持てるような働きかけを検討していくとともに、読み聞かせだけではなく、学校と連携し、読む教育を推進し、子どもの読書活動を支援していく。

さらに、おはなしの講習会やボランティア同士の情報交換会を開催することで、子どもの読書活動の推進に携わる人材の育成を図っていくことが大切である。今まで以上に子どもたちがより多くの本と出会えるよう、また、本への興味・関心が深まるよう、「すべての子どもがいつでもどこでも楽しく読書が出来る環境づくり」に努め、継続して読書活動の推進を図っていくことが、今後の課題である。

【学校支援地域本部名：竜王町学校支援地域本部】

## 1【事業の趣旨】

町内においても核家族化や価値観の多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。

このような状況下、これからの子育てや教育は、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要です。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、家庭・学校・地域による総ぐるみで学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図ります。

## 2【事業の概要、特色】

竜王町学校支援地域本部（通称：学校応援団）は、竜王町公民館を拠点とし、3名のコーディネーター（非常勤）と1名の総括マネージャー（常勤）で事業を推進しています。

支援の対象は、竜王幼稚園、竜王西幼稚園、竜王小学校、竜王西小学校、竜王中学校の5校（園）です。

現在までの学校・園からの要望による支援回数は、竜王幼稚園 15回、竜王西幼稚園 8回、竜王小学校 39回、竜王西小学校 10回、ふれあい相談発達支援センター 11回の合計 83回になります。

また地域と学校との一層の連携を図る環境づくりとして、学校応援団からの働きかけによる花壇作りの支援回数は、248回になります。

以上の事業に協力頂いたボランティアの総人数は 231人、延べ人数は 705人になります。

以下に、実践事例の一部を紹介します。

### （1）竜王小学校の家庭科支援

6月3日から6月30日まで週2回と10月12日（水）から11月9日（水）まで週1回、学校応援団14名が、5年生の家庭科実習補助（運針とミシン）の支援を行いました。



児童達は、数名のグループに分かれ応援団の方々から、玉結びや手縫い、ミシンの使い方などわからないことを教わりました。



また支援最終日には、ボランティアと先生が給食をとりながら情報交換を行いました。

### （2）竜王西小学校の音楽支援

11月11日（金）から11月22日（火）まで、学校応援団2名が、3年生の合唱と合奏の指導補助を行いました。

応援団からの「高い声を出す時は、あごを上げずに出すのよ」など適切なアドバイスのおかげで、児童達はとても上手に歌えるようになりました。

発表会では、自信に満ちた歌声が響きわたりました。



### (3) 竜王幼稚園、竜王西幼稚園の 焼いも大会支援

11月22日(火)竜王西幼稚園、11月25日(金)竜王幼稚園の焼いも大会で、火付けと焼いもの見守り支援を行いました。朝8時にエントツに火を入れ、エントツの周りにもみ殻を置いて約2時間後、園児達が元気に、さつまいもをもみ殻の中に放り入れます。さらに待つこと1時間、さつまいもは、こんがり焼き上がりました。風が強く、寒い中、園児達の「おいしい、ありがとう」の元気な声に、寒さも吹っ飛び、元気をもらいました。



竜王幼稚園での様子



竜王西幼稚園での様子

### (4) 学校花壇づくり支援

5校園の花壇に、フラワー・ブラボー・コンクールへの参加を契機として、地域で育てる花壇を学校の敷地内に作ることに、地域の人々が学校へ足を運ぶことで、学校と地域の垣根を低くし、地域住民に「私たちの地域の学校」との意識付けを図り、常日頃から学校と地域住民のコミュニケーションが取れる様にするを目的に、学校応援団からの働きかけによる花壇づくりを行いました。



種まきの様子



花壇の前で児童と記念写真

そして、9月にフラワー・ブラボー・コンクールの地方審査を受け、竜王中学校が奨励賞を頂きました。

### 3【事業の成果】

#### (1) 竜王小学校の家庭科支援

児童達にアンケートを取ったところ、90%以上の児童が「たいへん良くわかった」、「良くわかった」と答えており、また応援団の方々からは、「参加して良かった」、「子ども達から元気をもらった」、「声をかけてくれたコーディネーターに感謝している」、先生からは、「たいへん助かりました」との声を頂き、学校、地域共に満足できる支援が出来ました。

#### (2) 竜王西小学校の音楽支援

地域でピアノを教えている方が、応援団に登録しており、質の高い支援が出来ました。児童達へのアンケート結果を見ても90%以上の児童が「たいへん良くわかった」、「良くわかった」と回答しています。

#### (3) 竜王幼稚園、竜王西幼稚園の 焼いも大会支援

最近の家庭では、なかなか出来ない体験を応援団に支援頂くことで、園児に体験させることが出来ました。

#### (4) 学校花壇づくり支援

地域の方々に、水やりなどで長期間、学校に通うことで、学校と地域の垣根が低くなりました。

また子ども達、先生達と一緒に苗植えや花柄摘みなどを行ったことで、学校と地域の方々のコミュニケーションがさらに良くなりました。

### 4【今後の課題】

- 竜王中学校より、部活動指導支援がありますが、ボランティアを見つけられず苦慮しています。今後も、さらに情報収集力を高め支援していきます。
- 学校花壇づくり支援を行いました。写生や植物観察など授業に活かせていないので、今後は、学校と協議し授業計画に、活用出来るようにします。

## 1. はじめに

愛荘町の学校支援地域本部事業は、事業開始年度の平成20年度から町内の全学校（小学校4校、中学校2校）を対象に取り組んできた。

国の委託期間であった過去3年間で、学校支援ボランティアの参加者は初年度より延べ1,400人以上増加し、最終年の平成22年度は年間ボランティア参加者が延べ4,400人を超えるまでになってきた。

また、この取組をとおして、「①子どもたちの学力が向上した」、「②地域とのかかわりが深まった」、「③町全体として組織的に取り組めるようになった」



【登下校の安全指導】

等の成果も見られるようになってきた。

平成23年度から補助事業に移行したが、本町ではボランティアに関する基盤がまだまだ脆弱で、より充実した学校支援体制づくりを今後も推進していく必要があり、今年度も事業を継続していくことになった。

そこで、今年度の本町の事業の取組を愛知川東小学校の実践を中心に紹介する。

## 2. 愛知川東小学校の実践

### （1）事業の趣旨

愛知川東小学校校区は農村地域、商業地域、新興住宅地域から成り立ち、近年、地域における人と人とのつながりが希薄化し、子育てや青少年の健全な育成においても地域の教育力が低下していると言われてきている。

このような地域の変容に伴い、子どもたちの生活も大きく変化し、様々な教育課題が見られるようになってきた。そこで、子どもたちの課題解決を図るためには、学校だけがその役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域との連携を強め、地域全体で子どもを育てていくシステムづくりが必要である。

地域の方々による学校教育への支援活動を充実することにより、子どもたちは、地域に関心を持ち、地域の方と接することを通し多様な生き方や考え方を身につけ、学校や教師も地域力を



【遊具のペンキ塗り】

活用することにより、地域に根ざした教育を今以

上に展開していくことができる。このようなねらいを持って、学校支援本部事業に取り組んできた。

### （2）事業の概要・特色

#### ①しが学校支援センターの活用

県では学習情報提供システム「におねっと」で、様々な学校支援メニューを提供している。

本校でも専門的な知識や経験・技能を持った支援者に直接指導してもらえこの情報提供システムを活用している。

卒業に向けての愛校活動の一つとして、6年生の遊具のペンキ塗りを依頼し実施した。子どもたちにとっては、プロのペンキ屋さんの指導で遊具をきれいに塗り終えた満足感は教室で味わうことのできないとても貴重な体験となった。多くの子どもたちの感想に「その道の達人」に教えていただくことの喜びや感動が記されていた。



【シェフによる調理指導】

学校支援部会で「におねっと」を活用した実践交流

を実施し、町内の他の学校でもこのシステムを活用して学習成果を上げている。

しかし課題として、数多くの学校行事がある中で活動時間を見つけ企業等と調整することの難しさ、教師間の支援メニューに対する情報共有の弱さ等があげられる。

愛荘町内で「学校支援メニュー」を活用した取組について

- 交通安全教室（佐川急便）
- 体のしくみや働きなどについて（滋賀医科大学）
- 学校施設・遊具の塗装（おかけんリフォーム）
- タイヤ製造工場見学（ブリヂストン彦根工場）
- 調理指導（彦根市調理師会）
- マナー講習会（株式会社「宙」）等

#### ②子どもに直接関わらない場面での地域の支援

平成20年度から4年間の活動の中で、様々な行事や活動に多くの地域の方々の支援をいただいていたが、子どもに直接関わらない場面や活動で地域の方々に大変協力をいただいている。

ウサギの餌を継続して玄関にそっと置いておかれる近所の方、学校周辺を掃除していただく方、畑で作業をしながら子どもの安全を遠くから見守っていただいている方等、直接子どもに関わるわけではないが、地域の多くの方々に学校が支えられていることを強く感じている。

### ③田んぼの学校

田植え・稲刈り・餅つき大会等で地域の大きな支援をいただいている。幸い、学校の近隣に田んぼを借用できる環境にあり、全校で取り組んでいる。



【稲刈り】

稲の栽培は、経験や準備・管理、機材等が必要となり学校独自で進めることはとうていできない。そこで経験豊富な地域の方々の協力をお願いしている。子どもたちは、田植えと稲刈り、餅つき等のほんの一部の作業に携わっているだけで、除草や肥料・農薬散布等の活動を含め、大部分はボランティアの方で管理していただいている。

参加していただいている方々は、子どもたちの笑顔や歓声、活動の合間の子どものたちとの会話を活動のエネルギーとし、子どもたちとのふれあいを楽しみにされているようである。

### ④本校の4年間の主な取組

- 登校・下校時の安全パトロール支援
  - PTA 総会や懇談中の託児支援
  - 田植え・稲刈りの指導支援
  - 餅つき大会の指導支援
  - 自転車大会の指導支援
  - 図書室の整備支援
  - 運動会時の全校ダンスの指導支援
  - ミシンを使った家庭科学習の支援
  - スキー教室での指導支援
  - ペンキ塗りの材料提供と支援
  - シェフによる材料提供と調理支援
  - 昔の遊び体験の指導支援
  - 道徳等でのゲストティーチャー等
- 多様な分野にわたって支援をいただくことができた。



【お餅を食べる】

### (3)愛知川東小学校の事業の成果

学校の門は防犯上閉じられているので、地域の方にとっては、学校に入ることをためらうことがある。学校へ気軽に声をかけてもらえる雰囲気作りをしていくことが、地域から支援をしていただける一つと考えている。

その実践例としてミシンボランティアの取組を紹介する。

本校は5年生の家庭科でミシンを使ってナップ

サックの作製に2年続けてボランティアをお願いした。これは、愛荘町学校地域支援本部を中心としたネットワークにより人材を派遣していただいた。

ボランティアの多くは昨年協力いただいた方がリピーターとして快く参加してもらえた。学習が終わったときの感想の中に、『来年も手伝うわ』、『こんなので役に立つのならいくらでも』、『楽しかった』等の声を聞かせてもらった。子どもたちのミシンの使い方が上手になることは、ボランティアの方にとっても喜びとなる。このように、何かきっかけをつかむことにより、学校と地域の垣根はより低くなり、気軽に参加していただける雰囲気になられたのではないだろうか。



【ミシン指導ボランティア】

子どもたちの感想に、「トラブルを一瞬に解決してくれる魔法の手」、「困ったときにすぐに対応してもらえた」、「まちがっても優しく教えてもらえた」、「また家庭科の授業で来てほしい」等、感謝や尊敬の感想が多く見られた。

ミシンボランティアだけでなく、実施した事業については、ホームページや学校新聞を通じて内容を紹介し事業の啓発に努めることができた。学校の思いとしては、学校の教育活動に地域の力を積極的に活用し、地域に根ざした教育をさらに推進していきたいと考えている。

### (4)愛知川東小学校の今後の課題

本校では、本事業の担当者を校務分掌中に位置づけ、全職員に事業の趣旨・取組の概要を周知する機会を持っている。しかし、事業内容が十分に理解できず、活用方法がイメージできない教員も残念ながらいる。

学校支援活動を通じて多くの大人の目で子どもたちの育ちを見守ることは、今日の教育において大きな意味がある。しかし、子どもたちの指導の中心となる教師が、日々の業務の多忙さに埋没し、新たな取組への挑戦に躊躇している面も見受けられる。特に、学校支援事業においてボランティアとの打ち合わせや準備時間の確保が、大きな障害と捉えているようである。

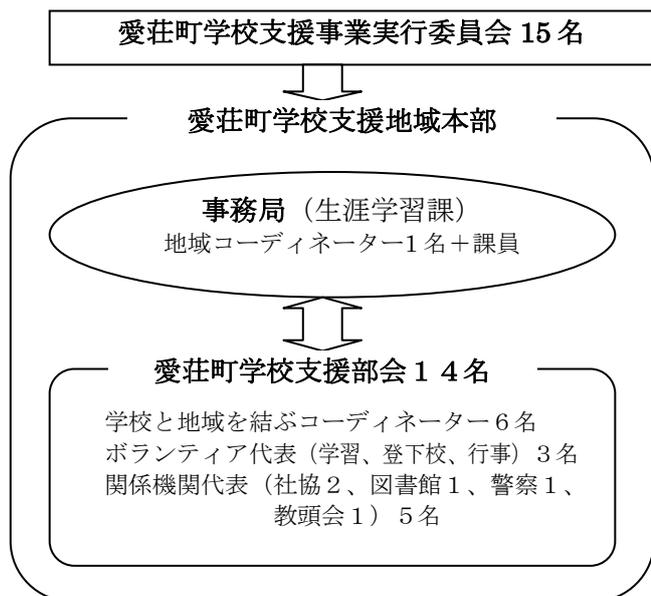
きめ細かな指導をおこない、より質の高い体験学習を進めていく上で、地域の支援は必要不可欠であり克服すべき課題でもある。

## 3. 愛荘町における実践の成果

### (1)「学校支援部会」の充実・強化が図れた

愛荘町学校支援地域本部事業の事務局を支援し、本事業推進の実働部隊として機能する「学校支援部会」の構成メンバーの充実・強化を図ったため、学校支援活動が大

幅に増加した。  
構成メンバーは下の図のとおりである。



おもな充実・強化面として

- 支援部員を10名から14名に増員
- 交通安全面でのアドバイザーとして愛知川警部交番所長の加入
- 学校図書館支援の充実のため町立図書館職員の加入
- 社会福祉協議会の福祉教育担当者に加えボランティア担当者の補充
- 県教委で本事業の前担当者を教頭会から、アドバイザー役で加入等

があげられる。

## (2) 今年は1,000人以上のボランティアの増加が予想される

愛荘町内で学校支援に関わっていただいているボランティアの方々は、平成22年度の12月末では延べ3,371人、今年同時期では4,288人となった。9ヶ月間の前年度比較で917人の増となり、年間比較とすれば当然1,000人以上の増が予想される。過去3年間で1,400人強の増加であったが、今年一年間で大幅な増加となることは確実である。

このことは、ボランティアに参加いただいた方々のネットワークの広まりと、リピーターとしての参加の度合いがかなり増加したことがあげられる。



【図書館ボランティア】

また、学校支援地域本部とは別に、ある地域の老人クラブでは、自発的に「子ども見守り隊」を組織して、毎日子どもの下校

時に立ち番を行い、地域の子どもは地域で守り育てる取組を実践されている例もある。(統計集計には含めていない)

## (3) 取組の工夫や改良で学校支援が充実

過去3年間の取組の結果、それぞれの学校で「取組のノウハウの蓄積」や「子どもの学力向上」、「地域との関わり」等において成果が徐々に実感されるようになり、それにともない取組の工夫や改良も行われ、ボランティアの活動分野や参加人数の大幅な拡大につながった。

愛知中学校では教育実習予定者に前年度から学習支援や部活動支援に協力を依頼したり、中学校時代に図書委員を経験した卒業生に夏休みの図書館整備ボランティアをお願いしたりして、地域の学生ボランティアの発掘と活動分野の拡大に努力された。

また、「しが学校支援センター」、「びわこ学院大学(相互協力協定締結)」等の町外関係機関との連携による支援を得て、より専門的な体験学習を行うこともできた。

## 4. 愛荘町の今後の課題

### (1) 地域コーディネーターがまだ必要

上記の成果等がみられるものの、まだまだこの地域にボランティア活動の風土が十分定着してきたとは言えない。地域のボランティアと学校を結ぶパイプ役のコーディネーターがいなくなると、一挙に活動が低下する危険性を残念ながらもまだはらんでいる。

### (2) ボランティアの高齢化に伴う人材育成

本町において、ボランティアの主力は時間的にも余裕があるお年寄りである。今後もその傾向は変わらないが、人材の補充をしていかなければならない。そのためには、町老人クラブ連合会や町ボランティアクラブとの連携を深めながら、各分野のボランティアの核になる人を中心にネットワークの拡大を図っていく必要がある。

また、学生やPTAを対象に意識的に若い人材のボランティア導入を図っていくことも重要な課題である。

### (3) 各校の教育課題に応える積極的な取組を

地域コーディネーター一人で町内の全学校(6校)を担当しているため、それぞれの学校の教育課題が十分把握できず、学校からの派遣要請に応えるだけの受身的な取組に終始し、各学校の教育課題に直接応えられたとは言い難い。

次年度は、より学校訪問を行い、学校の意向や授業者の思いをしっかりと受け止め、子どもたちが生き活きと輝き、支援するボランティアが輝いて参加し、地域全体で学校を支援するシステムの更なる充実を目指していきたい。

## 【学校支援地域本部名：甲良町学校支援地域本部】

## 1 【事業の趣旨】

学校支援地域本部事業を充実するには、地域で子どもを育てる活動との連携が重要である。そこで、学校支援ボランティア活動と地域で子どもを育てる活動との連携を有効に進める取組を模索している。この取組を通して地域人材の発掘や先生との相互理解を深めることにより、地域教育力再生の基盤づくりを進め、学校支援地域本部事業の充実を図りたい。

今年度は、地域連携の取組について報告する。

## 2 【事業の概要、特色】

## (1) 学校支援地域本部事業を支える地域活動の創出

## ① 放課後地域活動

地域での豊かで安定した生活体験は、子どもの学校生活を積極的に意欲的にすると考える。

そこで、甲良町では「子どもを中心に据えた地域活動と子どもの居場所づくり」に町内13集落で取り組んでいる。この活動を通して子ども理解がすすみ、学校支援ボランティアへの参加が増え、相互の連携が深まることが望まれる。



放課後集落活動での学習風景

## ② 子どもの体験活動支援

体験活動を通して子どもたちの生活

は豊かで充実したものとなる。

甲良町では子どもの体験活動として年間を通して、4年生対象にグリーンファイターズ、5・6年生対象にせせらぎ探検隊活動に取り組んでいる。

また、秋の自然を取り入れた子どもの体験活動「ちいさい秋みつけた」のイベントを開催している。

これらの活動を通して地域の方の子ども理解の深化、学校支援ボランティアの発掘、相互の連携強化を図りたい。



「秋の自然遊びコーナー」

## 3 【事業の成果】

学校を地域で支えようとする地域教育力再生に向け、地域住民の目が少しずつではあるが学校へ向いてきているように感じる。

また、大人とのふれあいを通して放課後の子どもの豊かな学び、遊び、体験活動の取り組みも進んできている。

学校支援ボランティア活動と地域ふれあい活動が結びあうことが学校支援の豊かな発展に繋がる。

## 4 【今後の課題】

学校のニーズを把握し学校支援ボランティアの皆様力を発揮してもらえる機会を増やすと共に、地域活動との連携を豊かにする取組の推進を図りたい。

【学校支援地域本部名：多賀町学校支援地域本部】

## 1【事業の趣旨】

近年、地域における人と人とのつながりが希薄化し、地域で子育てや青少年の育成に関わる機会が無くなりつつあり、また見守る力が低下しつつある。しかしながら、地域全てが希薄化しているのではなく、個々ではその力を発揮し、活動の場を求めている方々も数多くおられる。

一方、小・中学校においては、本来の業務以外の多様な課題を抱え、子ども一人ひとりに対するきめ細やかな時間を持てない場合もある。

このような事から、地域の力を学校教育の現場で発揮し、小・中学校においては、地域の力を活用する事で子ども達と向き合う時間をより多く持てるように地域と学校との連携体制のコーディネートを図るものとする。

## 2【事業の概要、特色】

### (1) 学校支援ボランティアのコーディネート

〈特色〉小学校利用が多く、本年度初めて中学校からの依頼があった。小学校両校とも、朝読書に力を入れられており、読み聞かせボランティアの依頼は例年通り（ほぼ同じメンバーで）あった。各校別では、多賀小学校は学校行事での依頼があり、大滝小学校は環境整備で多くの依頼があった。

### (2) 広報・普及活動

- 小・中学校の職員会議での事業説明（5月）
- 「ボランティアだより」による活動報告・普及活動（年8回）
- 町内有線放送での広報周知
- 町広報「たが」による普及活動

### ◆本の読み聞かせ

- 多賀小学校：8名×1回/週
- 大滝小学校：2名×2回/週



### ◆「チームたがっ子」 5月・10月 多賀小学校：「ゆるキャラで地域貢献活動」



「老人ホーム訪問」「ゆるキャラ@mつりin彦根」に出演  
※地域交流や多賀町PRに大活躍！

### ◆環境整備 6月・7月・9月



多賀中学校



多賀小学校



大滝小学校



### ◆児童託児 5月・12月 ※学期末保護者会での一時預かり 多賀小学校：宿題見守り、紙芝居など



### ◆プールの監視補助 6月・7月 多賀小学校：プール授業の安全見守り

